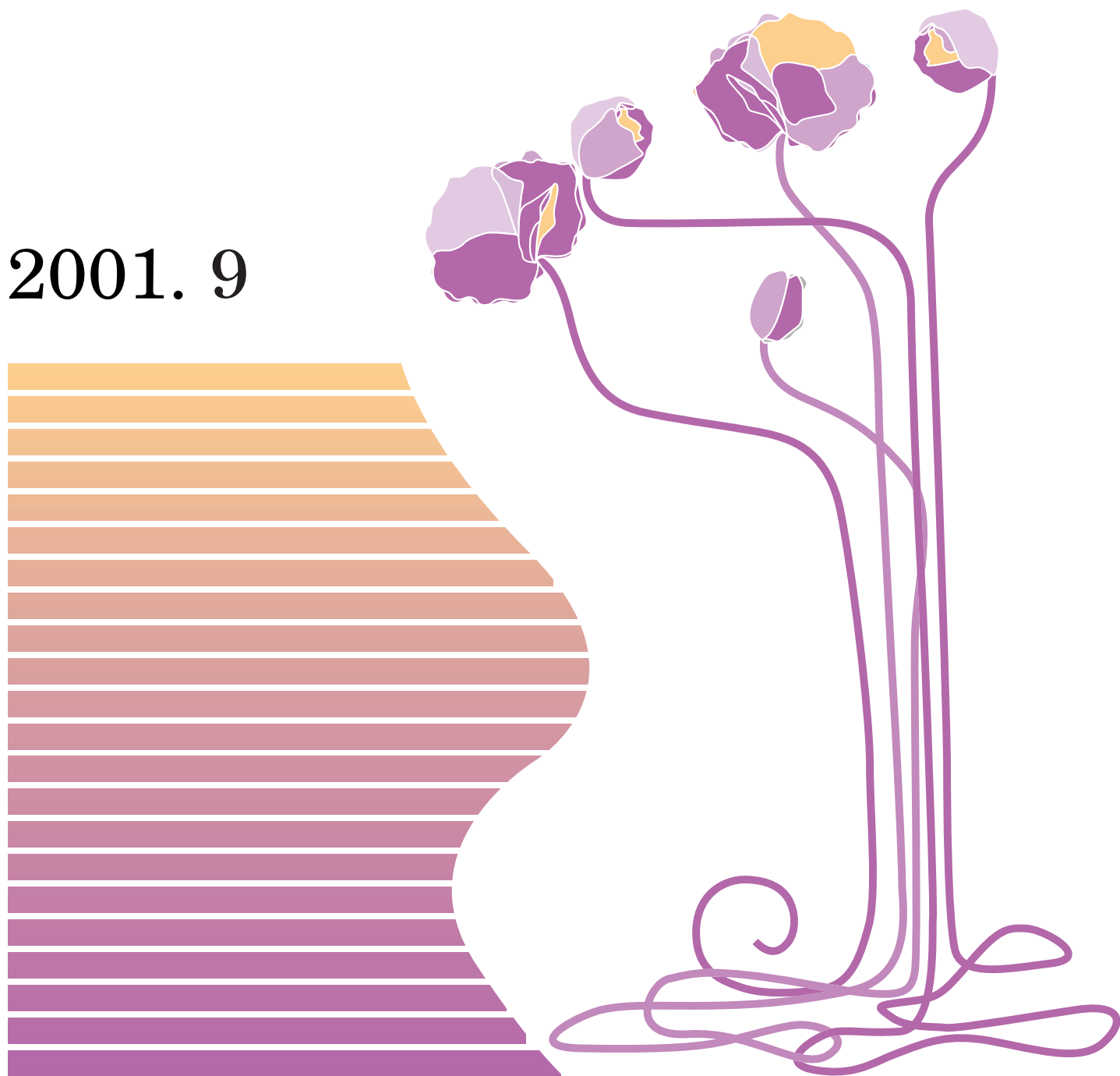


WINET 情報

ウイネット

No. 8

2001. 9



独立行政法人 国立女性教育会館

WINET情報 ● CONTENTS

第8号 平成13年9月

巻頭言

ジェンダー・フリーなセンスと学校教育	1
女子栄養大学栄養学部教授	橋本 紀子

会館事業情報

女性関連施設職員のためのセミナー	
2001年これからの女性施設	2
男女共同参画週間記念公開講演会	5
ゆたかな高齢期をつくる 向老期をともに生き、ともに学ぶ	
子育てサークルの意味と課題	8
子育てサークルの活動に関する調査より	
TICTサイトの公開	12

女性教育情報センターより

女性関連施設データベース	
Web上で、自施設のデータを更新する	14

海外女性情報

オランダIIAV(国際女性運動アーカイヴ情報センター)と その活動について	15
國學院大学法学部教授	
国立女性教育会館客員研究員	田中 和子

書誌情報

女性・家族関係雑誌記事インデックス	17
テーマ展示図書案内	42
新着図書案内	47

編集後記

WINET(ウィネット)とは...WINET(Women's Information NETWORK system)は、国立女性教育会館が収集している女性及び家族に関する様々な情報のデータベース検索システムの総称です。

女性差別撤廃条約（1979年）の採択以降、日本でも「雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」「育児、介護休業法」等のように、不十分ながら両性平等のための法、制度上の整備は進んできている。しかし、実質上の平等はまだまだ実現されず、とりわけ、雇用、賃金、年金、家事・保育・介護時間、意志決定機関への関与などで大きなジェンダー格差を抱えている。（『Women & Men in Japan 日本のジェンダー統計』民主教育研究所：両性の平等と教育委員会、2001参照）

これには、さまざまな要因が考えられるが、中でも重要なものとして日本社会に根強く残存する性別役割意識があると思われる。多くの大人の女も男も従来の生き方、価値観に親近感を持っており、それは、日常生活の隅々まで行き渡っている。子どもたちは、このような、性差別やジェンダーの偏りの強い日本社会の中で育ち、その多くは男は仕事、女は仕事も家庭もという性別役割分業や性の商品化に疑問をもたずに大人になっていく。こうして、ジェンダー・バイアスは再生産されていくのである。したがって、家庭や学校で小さな時から、男女を平等に取り扱い、「女だから、男だから」という偏った固定的な考え方にとらわれない、ジェンダー・フリーな考え方、他の人との対等平等な関係の結び方を、積極的に学ばせ、そのようなセンスを身につけさせることは、平等社会実現にとって重要な意味を持つものといえる。

私は教育という未来志向的な仕事に携わってきた。教師は子どもの発達、変化に限りない信頼を寄せながら日々対象に働きかけ、努力をする。同時に、自分の発達の可能性や、同僚の教師達、親たちの変化の可能性にもかけて様々な働きかけをしている。ここ10年ばかり、そういう努力をしている教師達と一緒に性教育やジェンダー・フリー教育の実践を積み重ね、それらを授業書という形で出版してきた（『両性の平等と学校教育』東研出版、『性の授業』大月書店）。さらに、今年、『ジェンダー・フリーの絵本全6巻』（大月書店）を何人かの協力の下に出版した。この本では、身の周りのジェンダー差別に気づくことや、生活の具体的な場面でのジェンダー平等の現れ方、両性にとって働くということの持つ意味を、日本のこれまでの男女の関係史や、日本とは違う条件にある諸外国の状況とも合わせて考えようとしている。このような教材やテキストの開発も含め、次の世代にはジェンダー・フリーな生き方があたりまえの社会になるようにみんなで努力し合いたいものである。

P.S：私は現在オーストラリアのパーズ市にいるが、先日、アップルクロス高校の性教育の授業を2時間見学した。性的暴行と避妊がテーマであった。その具体的な教材と教師の率直な語り口、女性教師の意見に時々異議を唱える男の子達（15歳）とのやりとりなど楽しく、また、性をめぐる文化と環境の違いが良く出ていた。日本の実践にも役立てたいと思った。

プロフィール

はしもと・のりこ 1945年秋田県生まれ。東京大学大学院教育学研究課博士課程終了。現在、女子栄養大学、大学院教授、東京大学客員教授。社会学博士。

< 著作 >

『女性の自立と子どもの発達』（群羊社）『教育の世紀社の総合的研究』（共編著、一光社）『男女共学制の史的研究』（大月書店）『性の授業 - 小学校編』『性の授業 - 中学校編』（共編、大月書店）『両性の平等と学校教育』（共編、東研出版）『教育科学の誕生』（共編著、大月書店）など。

女性関連施設職員のためのセミナー －2001年、これからの女性施設－

6月8日から11日（館長コースは9日）まで「女性関連施設職員のためのセミナー」を開催した。このセミナーは、会館創設以来実施しており、25回目に当たる今回は、「2001年、これからの女性関連施設」をテーマとしたプログラムを展開した。

1. 事業の特色

このセミナーは、公私立女性会館・女性センター等の職員として必要な知識・技術を身につけるための専門的・実践的な研修を通し、施設職員としての資質向上を図るとともに、男女共同参画社会の形成をめざした生涯学習を促進することを目的としている。前年度参加者が勤務年数の少ない者、初参加の者が多かったことから、就任2年未満の初任者研修と位置づけ、さらに女性関連施設職員に限定することで、参加対象を絞ったプログラムを展開した。参加者は、職員コース（3泊4日）102名（申込者118人）、館長コース（1泊2日）28名（申込者46名）の128名である。

プログラムの企画・立案時において、職員としての基礎的かつ専門的・実践的な知識・技術の習得をめざした他、女性関連施設職員としての勤務年数が長い職員との交流の機会の設定（事例提供者として研究協議への参加を依頼）、WinetCASS等の女性情報を自由に検索するためにマルチメディア研修室・女性教育情報センター等女性情報検索コーナーの充実、又エックボランティアとの交流の場の設定を行った。

2. 事業の概要

(1) 第1日目は、館長・職員の共通コースとして、名取はにわ文部科学省生涯学習政策局主任社会教育官による講演「2001年、これからの女

性関連施設 - 男女共同参画基本計画と女性施設 - 」、大野曜国立女性教育会館理事長による講義「女性関連施設・職員の役割を考える」を行った。

名取氏は、はじめに小泉内閣総理大臣就任の際の所信表明演説を資料とし、総理大臣が社会の構造改革を目指し、男女共同参画を真に身のあるものにするために5人の女性閣僚を起用したこと、男女がともに社会貢献・社会の活性化を図るには仕事と子育ての両立は不可欠の条件であると言及していること等、現在の男女共同参画社会の形成に向けた政府の考え方について報告があった。

次に内閣総理大臣官房男女共同参画室長として男女共同参画社会基本法の制定に関わった経緯、基本法の重要性、基本法の意義、内容について図表を交えて説明があった。また基本法制定後の男女共同参画基本計画制定、内閣府に男女共同参画局をつくる等の組織体制の強化、男女共同参画週間の制定、地域での条例制定等について報告があった。女性関連施設、男女共同参画センターの意義として女性のエンパワーメントの拠点でありネットワークの要であること、今後は性別役割分業に縛られている男性向



講演を行う名取はにわ氏

け事業の展開も十分検討する必要があることについて報告があった。

続いて大野理事長から、女性関連施設は設置目的、経緯、設置主体等において多様な実態をもつが、女性の活動拠点として広い意味で女性のエンパワーメントをめざすものを女性関連施設と捉え、女性関連施設の変遷と施設・職員の役割について説明があった。

男女共同参画社会の形成をめざす施設は、女性が方針決定へ参画する力を育成し、また男女共同参画社会の性別役割意識の解消を図るための施設でなければならないとし、そのために職員は、参加者にいかに動機づける事業を行うか、どのような情報を提供するか、新しい課題へどう柔軟に対応するかについて十分に検討を行い、職員相互又地域の女性との連携を密にし、行政と市民のパートナーシップを育むコーディネーター役として取り組むことが必要であると述べた。

(2) 第2日目からは、館長コースと職員コースに分かれ、館長コースでは政野澄子福井県生活学習館「ユー・アイふくい」館長を助言者、山口文代松戸市女性センター「ゆうまつど」所長を事例提供者とし、管理・運営上の諸問題に関する実情と工夫について研究協議を行った。

職員コースでは結城美恵子インフォメーションプランニング代表によるワークショップ「ジェンダーに敏感な視点を身につける - メディアの中の女性情報 -」を行った。

前半の講義では「ジェンダー」という言葉の意味を確認し、メディア・リテラシーとコンピューターリテラシーの中間に当たり、情報を読み解き発信する力である「情報リテラシー」を身につけることで、ジェンダー問題の解決をめざしたいとした。後半は、例題を元に情報を実際に「耳で聞く」、「書いたものを読む」ことを体験し、グループ毎の討議を行い、参加者自身が自分の中のジェンダーバイアス、思い込み等を確認するワークショップとなった。

午後は、現場の経験をもとにした事例の提供があり、4つの研究協議を行った。事例提供者には、女性関連施設での就任期間が長い職員をお願いした。

A 「相談事業から見える女性問題」

(財)横浜市女性協会横浜女性フォーラム

景山ゆみ子

B 「団体・グループ活動の促進」

もりおか女性センター 赤沢 千鶴

C 「地域の課題を事業に反映させる」

愛媛県女性総合センター 川合 静子

D 「情報事業に期待されていること」

大阪府立女性総合センター 尼川 洋子

研究協議D「情報事業に期待されていること」では、事例提供者の尼川洋子大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）企画推進グループディレクターより、昨年度行われた全国女性会館協議会の「女性関連施設に関する総合調査」の結果から情報事業の実情が紹介された。また、女性関連施設のライブラリーの役割と可能性について、ドーンセンター情報ライブラリーでの取り組みを交えて以下のような点を中心に報告があった。

利用者を想定・分析した上での資料収集と提供がコレクションの特徴になる

「相談」「講座」「調査研究」といった事業部門との連携とサポート

女性情報へのアクセス援助活動として「情報相談」「情報活用講座」等、ニーズに注目した事業展開の事例

レファレンスに関しては人が介在している、今動いている情報に注目すべきである

その後、女性関連施設の情報事業に求められていることを下記のテーマ別に4グループに分かれて協議した。

ライブラリー運営・マネージメント

女性情報の収集・提供

提供・活用のための情報整理

レファレンス・情報相談への対応



尼川洋子氏による事例提供

(3) 第3日目は、基本的な知識・技術の習得をめざし4つのワークショップを行った。

A「学習プログラムをつくる」

宇都宮大学助教授 廣瀬 隆人

B「『男女共同参画社会基本法』『男女共同参画基本計画』を読む」

東北公益文科大学助教授 伊藤真知子

C「自己表現力を身につける」

大阪YWCA教育総合研究所所長 金香百合

D「女性情報を検索する」

国立女性教育会館情報交流課専門職員
合田美恵子

ワークショップD「女性情報を検索する」では女性関連施設にある情報関連業務の担当者として必要な基本的知識の習得と、女性情報を収集・提供するための実践的な技術の習得を目的としたワークショップが行われた。進行/助言及び演習補助者には、情報交流課職員があたった。

午前中、新装オープンしたマルチメディア研修室で国立女性教育会館の提供するデータベースやインターネットの使い方、公開されたばかりのTICTTサイト(11ページ参照)から女性情報リンクの見方などを実習した。WinetCASS(女性情報横断検索システム)からは以下のデータベースが紹介され、検索を体験した。

文献情報データベース

女性関連施設データベース概要・事業

高等教育機関における女性学関連科目データベース

女性と家族に関する統計データベース

HP-CASS

女性情報CASS

午後からは場所を女性教育情報センターに移し、センターの見学後、6グループに分かれて実習問題に取り組んだ。この問題は、実際に女性教育情報センターに寄せられたレファレンス質問から作成したものである。実習問題の一部を紹介する。

女性に対する暴力について総理府が行った調査があったと思うのだが、報告書があれば見たい。

男性を対象にした男女共同参画へ向けての講座を開くのだが、講師を紹介してほしい。

世界の歴代の女性大統領、首相、またなるべく新しい国会議員の女性比率を知りたい。現在、各地の自治体で男女共同参画を進めるための条例が作られているが、2001年3月末までに何ヶ所でできたのか。

実習後はグループ毎に、担当の問題について使用したデータベース・検索エンジン・女性教育情報センターの資料、検索の手順や検索結果を発表し、検索のコツや注意すべきところなど気づいた点を話し合った。女性情報の特徴や種類とその検索方法、レファレンス等に備えて日常業務で心掛けておくことについても理解を深めた。



マルチメディア研修室での検索実習

(4) 最終日は、セミナー全体を通してわかったこと・気づいたこと等を個人でまとめ、その後にグループで話し合う研究協議を行った。全体で集まって行ったスピークアウトでは、参加者から、セミナーの感想、今後の決意等が述べられた。

閉会式では、参加者の代表に大野理事長から修了証書が手渡された。

(国立女性教育会館事業課専門職員 土岐 都子)
(情報交流課専門職員 合田美恵子)

男女共同参画週間記念公開講演会 ゆたかな高齢期をつくる－向老期をともに生き、ともに学ぶ－

6月24日、約700名の参加者を得て「男女共同参画週間記念公開講演会」を開催した。この講演会は、男女共同参画週間（6/23～6/29）が設置されたことに伴い、男女共同参画社会の形成の促進を図ることを目的とし、第1部はエッセイスト・作家の□津十月氏による講演、第2部は又エックの「高齢社会に向けての男女共同参画学習に関する調査研究」プロジェクト・メンバーによるシンポジウムを行った。

(1) 講演「しなやかに現在（いま）を生きる - ゆたかな高齢期をつくる -」

講師：□津十月（エッセイスト・作家）

ゆたかな高齢期をつくるには、自分自身で準備し考えなければいけないことがいくつかあると思う。

可動式の人生観をもつ

人は様々な将来構想を持つ。捨てられないもの、変えられない夢等、絶対に譲れないものもあるが、人生はなかなか思い通りには行かない。その時に、あまりにしっかりとした計画を持っていると身動きがとりにくい。夢や計画が思い通りにならないと、非常に大きなストレスにもなる。それを防ぎ、事態の変化に柔軟に対応できるように、自由な間取りに変えることができるような器、つまり動かせる人生設計をつくっておく必要がある。

可動式の人生観を持つために、日頃から自分にとって何が大切か、捨てられるものは何かを考える。捨てる技術とは、守りたいもの、捨てられないものを自分自身で把握すること。大切なものを把握すればそれ以外は捨てられる。大切なものを3年に1度位点検し、動きやすい形にしていくことが大切ではないか。

分業式の人生観を持つ

高齢期を迎えた自分の親のそばに、子育てをしている妹がいる。今は孫が両親の楽しみにもなっている。しかし将来は、妹は外で自分の仕事を再開するだろうし、孫も大きくなるので、その時は私が親のそばにいる。仕事上の分業だけではなく、時期的な意味での分業だ。可動式とつながるが、誰か一人が全部の重荷を背負うのではなく、分散させることを考える。どうやってみんなと分担していくか、その采配が大切である。

魅力的な中年、魅力的な年寄りになる

今の子どもたちのまわりには、勉強・生活に関わりのない人たちとのつきあいが無い。介護が必要になってから、高齢者が家に引き取られてきても愛情を持つのは難しい。しかし、どこかで素敵なお中年や高齢者に出会えば、その時はわからなくても、その子の人生の中である一つの厚みになるはずである。いままでただのおじさん、おばさんだと思っていた人が、いろいろなことを知っていたり、いろいろなことができたりする。年をとるとはこういうことなのかと感覚の中でわかってくるのではないだろうか。

地域社会の中で、魅力的な中年・高齢者の姿



講演をする□津十月氏

を見せ、年をとることの良さを何らかの形で見せていきたい。年をとるのも満更悪くないことを見せていくことができれば、新しい時代をつくっていく原動力となるのではないか。

(2) シンポジウム

「向老期をともに生き、ともに学ぶ」

コーディネーター：

伊藤眞知子（東北公益文科大学助教授）

シンポジスト：

安達正嗣（名古屋市立大学助教授）

新井茂光（デイセンターさくらセンター長）

内山早苗（株式会社内山工房代表取締役）

葛原生子（安田女子大学助教授）

堀 薫夫（大阪教育大学助教授）

このシンポジウムは、本会館の調査研究事業である「高齢社会に向けての男女共同参画学習に関する調査研究」の成果の一端を紹介しながら、ゆたかな高齢期を創り出すための方策について考えることを趣旨としている。

高齢期に向かって、自分自身の生き方や周りとの人間関係を再編する時期を、「向老期」ととらえ、この段階で男らしさや女らしさにとらわれないで、人として自分らしく輝いて生きるための学習を積み重ねていくことがゆたかな高齢期を形成することへとつながると考える。

このような観点から、まずそれぞれの研究に基づいてシンポジストが報告し、そのあと質疑応答を行い、最後に全員が一言ずつ感想を述べた。

介護する立場から—新井—

介護を受け持っているのは主に女性であり、受け持っている人のほとんどが負担と感じている。さらに、負担であっても、家族や子どもに介護してほしいという気持ちはあるので、家庭内介護から一歩踏み出すことができない。介護は一人で受け持てるものではなく、たくさんの情報を得て、ネットワークを作り、社会サービスを受けることによって成り立つものである。

NPOにおける女性リーダー育成—葛原—

高齢期を生きる個人にとって、市民活動やNPO活動は自分たちのこれまでの経験や能力を

発揮する機会となる。その際に、女性リーダーの育成が緊急な課題である。

中国地方5県のNPO法人に対して行った女性の参画実態調査から、「叩き上げ型」の女性リーダーが多いこと、女性が無償の地域ボランティアの領域を担い、男性が経済性を伴う組織を担うという性別役割分業的なNPOのあり方が明らかになった。今後は自分でNPOを立ち上げるような「起業型」の女性リーダーの育成が重要である。

家族コミュニケーション能力促進—安達—

愛知県春日井市にある高蔵寺ニュータウンに住む高齢者夫婦に対して行った面接調査の結果に基づいて、高齢期における家族コミュニケーションについて考察した。

その結果、定年退職後に夫が自分なりの生活を見出し、夫婦関係を再構築することが重要だということが明らかになった。家族コミュニケーションの能力を促進するような学習プログラムが必要である。

企業理念としての男女共同参画—内山—

男女共同参画社会基本法や改正均等法が施行され、女性が企業の戦略のかなめとして考えられるようになってきた。これまでは耳を傾けてくれなかった管理職者でも、社会に一歩出たらジェンダー・フリーというのは教養人としてあたりまえの常識であるという話をするとまじめに聞くようになった。

これからは、企業が非常に厳しい状況にあるからこそ、企業の戦略や人権をきちんと謳った理念のようなものが大事になってくる。そうした意味では、均等法や男女参画社会基本法は企業の大きな縛りになっていく。

40-50代からの意識の溝—堀—

「教育老年学」の立場から調査研究を行っている。老いの捉え方をジェンダーの視点から考えると興味深い点が見られる。

多重コレスポネンズ分析という方法を使って図にまとめると、女性、自営業、高校卒、無職、事務職、小中学校卒というグループは、老いをポジティブにとらえる方に、男性、大学卒、短大卒、元管理職グループは老いをネガティブ

にとらえる方に近い。悩みが生じたときに、20代では女性の方が男性に頼る度合いが強いが、50～60代では男性の9割が妻に助けを求める。中高年の離婚を考えたときに、やはり40～50代ぐらいから意識の溝ができてきているように思われるが、それを埋めていく努力を団塊の世代の課題として考えていかなければならない。

まとめ

内山は、ノーマライゼーションという観点から男女共同参画社会を捉え、社会構造が急速に転換しつつある日本では、誰でもが安心して暮らせるバリアフリーな社会の構築が必要であることを述べた。

新井は、介護が仕事の創出や市民運動に変わっていく過渡期であることを指摘した。

葛原は、いろいろな働き方を自分たちで作っていけるNPOに女性がもう少し目を向けて、リーダーシップをとっていくことが重要だと述べた。

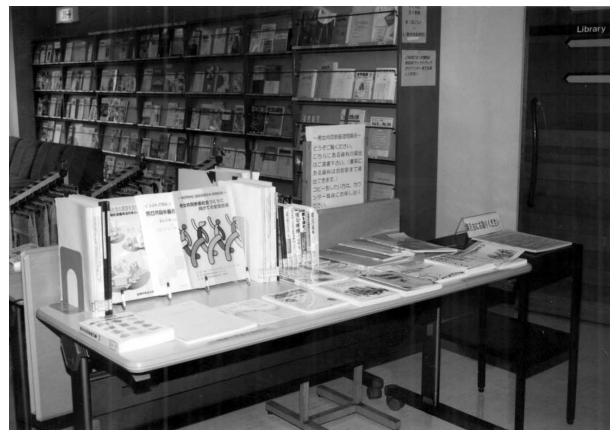
安達は、仕事・家族・地域の3つが社会人、市民としての権利であり、義務であること、特にそれを男性に伝える教育の機会が必要だということ 강조했다。

堀は、企業における年功序列、終身雇用という神話が崩れつつある中で、新しい高齢社会のあり方を考えるには、ジェンダーの問題を抜きにはできないこと、それを軸とした学びを私たちが共に地域で考えなければならないことを指摘した。

最後にコーディネーターの伊藤は、みんなでゆたかな高齢期をめざそうと提案してシンポジウムを締めくくった。



シンポジウムの様子



展示の様子

(3) 男女共同参画週間展示

男女共同参画週間記念公開講演会の参加者および一般来館者の男女共同参画学習に対する理解を深めることを目的に、女性教育情報センター内で男女共同参画学習に関する資料の展示を行なった。

展示期間は男女共同参画週間と同一とした(6/23～6/29)。

展示資料は、全国に募集して最優秀作品となった「のびやかに生きる男女の参画社会」という標語のある男女共同参画週間ポスターをはじめ、女性教育情報センター所蔵の資料から以下のようなものを選んだ。

男女共同参画社会関連資料

関連中央省庁資料

国連特別総会「女性2000年会議」関連資料(日本語)

各地の男女共同参画を進めるための条例関連資料

記念公開講演会講師・シンポジスト(パネリスト)の著作

展示資料リストは、男女共同参画学習の参考にしてもらうために自由に持ち帰れるようにした。

展示開催の広報は、記念公開講演会の開催時にアナウンスしたほか、会館ホームページからも案内し、展示資料リストを公開した。

(国立女性教育会館事業課専門職員 土岐 都子、
事業課研究員 高橋 由紀、
情報交流課専門職員 合田美恵子)

子育てサークルの意味と課題

—「子育てサークルの活動に関する調査」より

国立女性教育会館が平成13年2月25日(日)に開催した又エック公開シンポジウム(テーマ:少子化社会の子育てのゆくえ 広がる子育てサークル)のパネリストのひとり、埼玉県に住む鈴木玲子さんは子育てのサークルのネットワークを運営している。鈴木さんは埼玉県上尾市にあるたくさんの子育てサークルに声をかけて、交流と情報交換を目的に平成7年6月「育自ネットワーク」を立ち上げた。「育児」といわず「育自」というネーミングにしたのがミソ。「楽しんで育児&育自」をコンセプトとするこのネットワークには「育児サークルが子どものためだけではなく親も育っていくのだ」という思いが込められているようだ。

国立女性教育会館(子育てサークル研究会)が行ったアンケート調査からも「子育てサークルが子育て中の親にも子どもにもプラスの影響がある」ということが明らかになった。

本稿では国立女性教育会館(子育てサークル研究会)が文部科学省の委嘱を受けて実施したアンケート調査をもとに子育てサークルの実態、子育てサークルの持つ意味、課題について考えてみたい。ところで、そもそも子育てサークルとは何だろう?明確な定義がある訳ではないので今回の調査では「平成10年度の厚生白書」に依拠し「子育て中の親たちが子どもを連れて集まり、子ども同士遊ばせながら、学習や情報交換をしたり、運動会やクリスマスなどの行事を共同で実施したりするサークル」ととらえている。

1. 調査の概要

まず、この調査の概要についてふれておこう。

(1) 調査対象者

本調査は、全国の子育てサークル1,000グル

ープを対象にし、サークルのリーダー1,000人とサークルのメンバー5,000人を対象者とした。

まず、全国47都道府県を合計特殊出生率と30~34歳の女性の労働力率をもとに分類し、全国各地域が含まれるように都道府県を選択した。実際に対象にしたのは、山形県、群馬県、埼玉県、東京都、石川県、三重県、滋賀県、大阪府、広島県、香川県、熊本県の11都府県である。次に、都道府県のホームページ、行政機関ならびに関係機関、子育てサークルのネットワーク等からの紹介をもとに、子育てサークルを抽出して対象とした。

(2) 調査項目

本調査の調査項目は、次の通りである。

メンバー調査は、「活動状況」「家族に対する意識」「活動意向」「日ごろの子育ての問題点」「子育てサークルの問題点」などである。

リーダー調査は、「サークルの活動」「サークル運営について」「リーダー自身について」「行政支援について」「サークルの現状と課題」などである。

なお、小論では、この項目すべてにわたり紹介できないので、詳細については報告書を参照されたい。

(3) 調査時期・回収率

調査は、平成13年1月~2月にかけて実施し、回収率は、メンバー調査が43.9%、リーダー調査が57.1%となっている。

2. 子育てサークルメンバーの意識

本調査は、多様な側面から子育てサークルについてその実態を把握した。小論では、このうち、メンバー調査とリーダー調査から、特に特徴的な結果について報告したい。

まず、子育て中の母親が、サークル活動をは

じめるきっかけになったのは、「自分の友だち」「子どもの友だち」など、パーソナルなつながりが多い。しかし「自治体の広報誌」「母親学級」といった自治体が主催するセミナーなどの自治体からの働きかけも上位にあげられている。

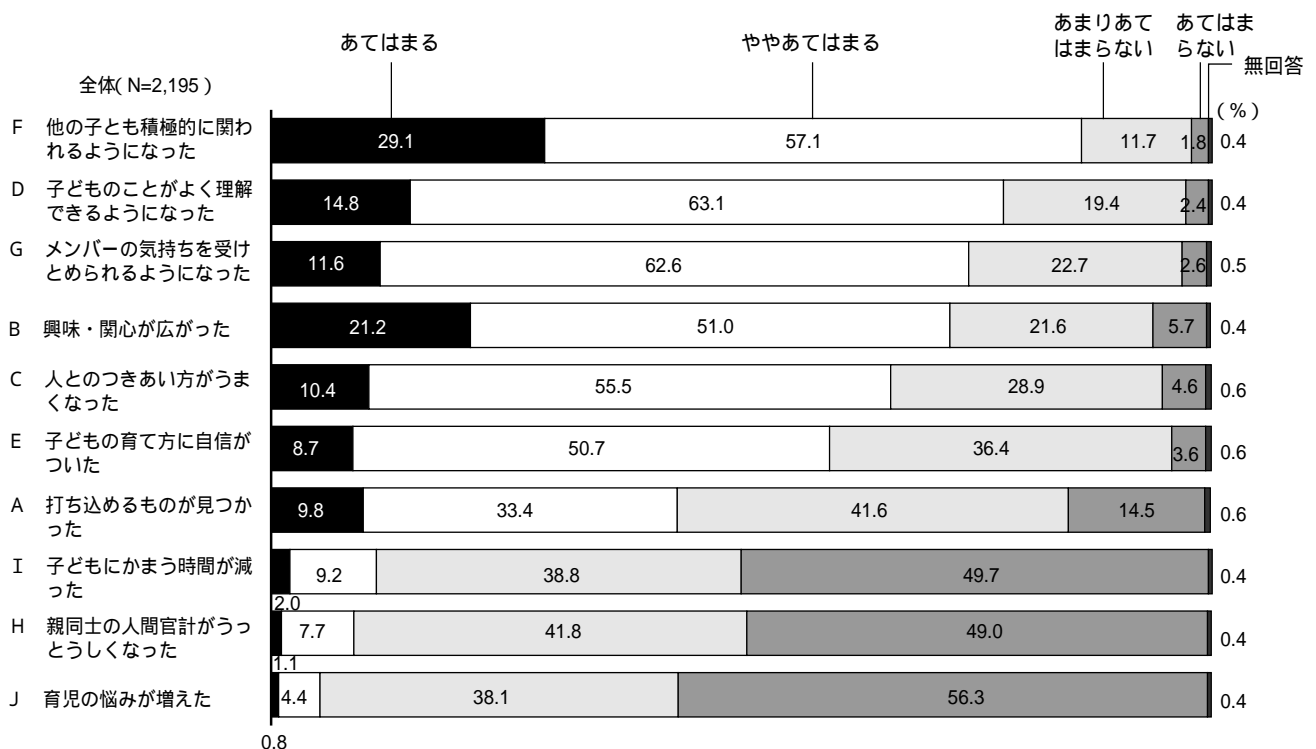
次に、子育てサークルに何を期待しているのを見ると、「子どもを集団に慣れさせたかったから」と回答する母親が7割をこえる。この他、「遊び場を探したかったから」「話し相手がほしかったから」「子育て情報を入手したかったから」の3項目は4割に達する。今回の調査では、地域差があまりみられなかった。これまで、子育てサークルは、ともすると核家族が多く母親が孤立化しがちである都市部近郊に多いと考えられてきたが、今回の調査では地域の差がない。つまり、このことは、乳幼児を持つ母親のニーズは、都市部に限らずどの地域にも共通性があると考えられる。子どもに社会性を持たせたい、遊ばせたいという「子どもの視点に立ったニーズ」、話し相手がほしい、子育ての情報を得たいという「親側のニーズ」という両面が、子育てサークルの成立の条件になっている。

この結果をさらに裏付けるのがサークルの活

動内容である。なによりも、「親同士のおしゃべり」が主な活動内容と回答している(87.4%)ことが親のニーズを物語っている。ついで、「子どもの遊びづくり(絵本読み聞かせなど)」「子育てに関する悩み相談」などと続いている。この他、「子どもをのぞく家族に関する悩み相談」なども1割の母親があげている。こうした回答から、子育てサークル活動の内容は、母親同士の関わりがその中心になっていることがわかる。

子育てサークルに参加した母親同士の活動を通して、母親たちには、生活や子育ての意識の変化がおこっている。子育てサークルの活動に参加することにより、「他の子どもと積極的に関われるようになった」「子どものことがよく理解できるようになった」「メンバーの気持ちを受け止められるようになった」など、子どもをみる視野の拡大といった親としての成長がみられる。同時に、配偶者や家族との関係にも好影響を与えている。さらに、子育てサークルの活動への参加により、「子どもが成長しても参加したい」というように、子育て支援グループの成立を予感させるような結果があらわれている。

サークル加入による自分自身の变化



3. リーダーの意識

しかし、サークル活動には様々な問題や困難もつきまとう。どのような問題点があるのかサークルリーダーへの調査から考えてみたい。実にたくさん書かれた自由記述欄は子育てサークル活動が悩みのつきないものであることを如実に示している。「リーダー・係りの負担」「運営上の課題」「子育てサークルへの理解」「ネットワーク」などがあげられている。いくつか代表的な意見を紹介しよう。

(1) リーダー・係りの負担

- ・「サークル全体のことに気を配っていると、自分の子どもにかまえず、何のためのサークルかと悩んでしまう」
- ・「時間的に余裕がなく前の週にリーダーが計画を立ててなんとかやっているという感じ。これではいい活動にならない」
- ・「お母さんのやる気を出すにはどうしたらいいのでしょうか。体操をみんなでするときにもほとんどのお母さんは座ってみているだけで、リーダーと役員だけが一生懸命でむなしくなってしまう」
- ・「リーダーをしていると、結局ひとりになっているようで、子どもに友だちができていいのか、自分にも友だちができていいのか、最近すごく不安に思います」
- ・「毎回準備が大変で、時には家庭も犠牲にしている。メンバーの参加意欲は高いが、こと役割分担になると、皆一様に私にもできないからと引いてしまい、結局、リーダーが一人で背負わざるを得なくなってしまう」
- ・「サークル結成から数年たち、充実してきたが、メンバーが増えたので事務や会計処理が煩雑になって一部の人の負担がとても増えてしまう」
- ・「電話連絡の多さにビックリ、日頃の雑用も多く時に苦痛になります」
- ・「雑用が多い。自分自身楽しみたいのに、裏方の仕事で終わってしまうことがある」
- ・「サークルのリーダーのなり手がいない」

(2) 運営上の課題

- ・「毎回遊びや食事やイベントなど時間があつという間にたつてしまいメンバー間で方針を話し合う時間がほとんどありません。そのためメンバー間の意志疎通がうまくいかず誤解

が生じたり意見がわかれて険悪な状況になることも・・・メンバーをまとめるのに苦労しています」

- ・「いい活動をすれば人がたくさん集まってきましたが、問題も増え、今度は目が届かなくなっていたり、知らぬ間にもめていたりやめていったりしています」
- ・「今日は何をしてくれるかなというお客様メンバーが多い」
- ・「0～4歳だと子どもの年齢によってできることに差が大きいのでどのようなことをすればみんなが楽しめるのが悩んでいます」
- ・「少ない予算で活動内容を充実させるにはどのようにしたらいいのでしょうか」
- ・「活動がマンネリ化している、ワンパターン」
- ・「協力してくれるボランティアスタッフいるといいのだけれど・・・」
- ・「年度替わりで子どもが保育園や幼稚園に行くと活動メンバーがいなくなりサークルが維持できるかどうかかわからない」
- ・「父親の参加のためにはどのようなアプローチをすればいいのか」
- ・「専業主婦だけでなく、働く母親との交流もできるようにしたい」

(3) 子育てサークルへの理解

- ・「場所をとるのが大変。大人だけのグループには快く部屋を貸してくれるのに、子連れにはイヤな顔をする。最終的には借りられたが借りにくい雰囲気がある。同じ住民なのに納得がいかない」
- ・「広い場所の確保が課題です。年配の方のダンス、卓球などのサークルが多く、どこに行っても肩身が狭いのが実情です。お年寄りの方々の理解をもっと得たいと思います」
- ・「3世代同居の私にとって子育てサークルはほっとできる場所になっています。しかし家を空けることが家事をおろそかにしているように見えるらしくあまりいい顔をされません。育児サークルは老人会、青年団、婦人会のように地域の人に認めてもらえません」

(4) ネットワークの課題

- ・「他地域からの転入者が多く、地元自治体と一体となってサークル活動など子育て支援体制を求めているがなかなか理解が得られない」

- ・「行政から支援してもらうために、サークルの独自性や主体性がなくなり、行動範囲や自由な活動の枠がせばめられる」
- ・「町村合併によって今のような支援が得られるのか心配」
- ・「役場の担当者が変わったら急に非協力的になり活動内容が制約されるようになった」
- ・「他のサークルとのネットワークを作りたいがどうしたらいいのだろう」

4. 子育てサークルの可能性

以上のような調査結果から今後の子育てサークルの可能性について考えてみたい。

核家族化、地域の地縁的なつながりの希薄化の中で子育てが孤立化し、子育てに悩む親への支援として、最近、子育てサークルへの期待が高まっている。しかし現実には本調査からも見られるように、プラスの面は大きいものの同時に抱える問題も多く、しかも深刻な問題も存在する。従って「子育てサークル」を作れば問題が解決するといった単線的なものではないことを強調しておきたい。というものの、それでも筆者は、子育てサークル活動の有効性を指摘したい。なぜなら乳幼児を抱える親同士の自発的活動である「子育てサークル」は、生活の場を豊かにする取り組みであると同時に、小さな「公共性」をつくる重要な取り組みでもあると考えられるからである。社会全体で子育てを支援することが重要であるといわれて久しい。本調査結果からみえてきた「子育てサークル」のもつ公共性を大切にしたいと思う。そのためにも明らかになった多くの課題をどう解決していくのか、その具体的対応策を考えていくことが必要である。

最後に先駆的な動き、エンパワーした「子育てサークル」の新たな動きが見られるようになったのでご紹介したい。

石川県では「行政との信頼関係が出来ているため、今後、NPOを立ち上げて活動を広めていきたい。行政がわかりかねるところを情報提供し、孤立化するお母さんたちのために、(a)ガーデニング、親子プール、親子クッキング、ハイキング、リースづくりなど、月1回~2回のイベントで町にポスターを貼ってメンバー募集(b)サークルに出られない人、出たくない人

のためにホームページの開設、(c) a bのできない人のためにラジオでの子育て相談を行っている。今後は日中お母さんがいつ来てもいいようなホールに大きな遊具をおいて、ファミリーサポートセンターや医師とのネットワークを作っていく予定」というサークルがある。また、埼玉県では冒頭に紹介した鈴木さんもメンバーになって平成11年10月に「彩の国さいたま子育てネットワーク」(彩の子ネット)が誕生した。これは母親・父親・地域の人たち・行政・専門職で子育てを支え合う埼玉県域のネットワークで、現在、県内35市町村から33団体150個人の参加があり、様々な活動が展開されているという。今後の動向が注目される。

(国立女性教育会館事業課主任研究員

中野 洋恵)

TICTサイトの公開

国立女性教育会館は、5月31日にホームページ上に「女性関連施設職員のためのICT習得サポートプロジェクト」の一環としてTICT（ティクト）サイトを立ち上げました。

1. プロジェクト

会館では平成13年度より、「女性関連施設職員のためのICT習得サポートプロジェクト」を実施しています。WINET情報第7号 p.10-11の「女性関連施設等情報ネットワーク研究協議会」で簡単にご紹介したものです。

国のIT推進の施策により、女性関連施設にもパソコンが設置・増設されている状況ですが、そこで施設職員がどんな業務を行うか、例えば女性関連情報の収集から発信までパソコンを効果的に使いこなす知識や技術を得るといった機会は少ないのではないのでしょうか。

このため国立女性教育会館では、女性関連施設職員の方を対象に、女性情報の視点に立った情報コミュニケーション技術の習得を目的とした学習システムをウェブ上に構築し、教材及び情報・交流の場を提供し、自主的な技術習得と情報ネットワーク形成の推進をサポートしたいと考えました。

これがプロジェクト発足の経緯です。これまでに研修・交流を通じて培ってきた情報ネットワークの実績を踏まえ、会館職員・女性関連施設職員・外部専門家からなるプロジェクトチームを編成し、検討を重ねています。

2. ICTとは

Information & Communication Technology（情報コミュニケーション技術）の略です。ITにCommunicationを加えたもので、情報の双方向のやり取りを意識しています。

3. TICTサイト

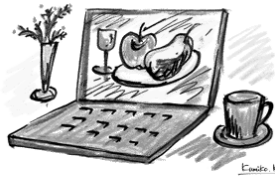
URL: <http://www.nwec.go.jp/tict/index.html>

TICTはこのプロジェクトで提供するサイトの愛称で「ティクト」と読みます。英語名のTraining of ICT for staff at women's facilitiesから

TICT Training of ICT for staff at women's facilities



TICT(ティクト)のご紹介



TICTサイトは、全国の女性関連施設で活躍される皆さんが女性情報の視点に立った情報コミュニケーション技術(Information Communication Technology)を習得するためのポータルサイトです。コンピュータやインターネットを有効に活用し、生涯学習を効果的に進めようするために必要な情報と交流の場、そして仕事に直結した教材とを提供しています。TICTサイトのキーワードは、「教育(Training)」、「情報(Information)」、「交流(Communication)」です。

若葉コーナー（初めての方へ）



- コンピュ
- 言葉(ワ)につい

女性情報 (Information)

- 女性情報リ

交流 (Communication)

- 若葉角
- 二重と二重に二重
- ツリトカ

教材 (Training)

- 教材の受け
- 教材(ユー)一
- 目的別がユ
- アプリケーション別がユ
- 段階別がユ
- 操作セ
- パソコン(基本操作)シ
- よく使われる交
- と、各交

TICTトップページ

取った名称です。女性情報の視点に立ったICT習得のためのポータルサイトとして提供しています。会館のホームページから、TICTの見出しをクリックしてご覧下さい。

(1) TICT（ティクト）のご紹介

TICTサイトの特徴は仕事に直結した教材及び情報・交流の場を提供していることです。

教材は「仕事での事例」「個別の技術」「初歩から高度な技術までの段階」の3つの面を立体的に組み合わせた構成になっています。

情報・交流の場では、学習した技術を事業や業務に活用できるよう情報ネットワークによる学習効果の広がりをサポートしています。

(2) 若葉コーナー（初めての方へ）

「若葉コーナー」の名称には、皆さんで育てていく一本の木のイメージが込められています。

因みに「若葉パック」は、ネットワーク環境のない女性関連施設の職員にTICTサイトの内容を知っていただくために作成したものです。

ネットワーク環境が整っている施設職員の方はウェブ上で最新の内容をご覧ください。

(3) 女性情報 (I = Information)

現在のところ女性情報の収集に役立つ「女性情報リンク集」があります。今後はコンテンツの充実を図っていく予定です。

(4) 交流 (C = Communication)

女性関連施設職員の交流の場として、「若苗広場」(わかえひろば)という掲示板を用意しましたので、ご意見・ご感想・ご質問をお寄せ下さい。ここでの話題を今後のTICTサイトの進め方の参考にしたいと考えています。

(5) 教材 (T = Training)

教材の使い方

教材を使って学習する際の注意事項です。まず学習の進め方の計画を立てて、学習効果を高めましょう。

教材メニュー一覧

i) 目的別メニュー

ここにある項目はこれまでの調査や検討で必要度が高いとされた業務のサンプルです。

[学習の手引き][学習テキスト]のある項目は既にオリジナル教材が用意されています。

このほかの教材は段階的に提供していく予定です。

ii) アプリケーション別メニュー

i) のメニューをWord・Excel等のアプリケーション別にしたものです。

iii) 技術別メニュー

完成している教材について「文章を入力する」等、技術面から探すためのメニューです。



若葉コーナー (初めての方へ)



コンセプト

コンピュータ、ネットワーク環境の整備が急速に進みつつあります。女性関連施設もそれぞれ合わせた事業展開や情報発信のあり方が問われていますが、皆さんはどのように取り組んでいらっしゃいますか。初歩のコンピュータやネットワーク利用の研修機会も比較的得やすくなってきましたが、女性関連施設の皆さんがそれぞれの状況に合わせて女性関連情報の収集から発信まで十分効果的に使いこなすための知識や技術を得る機会が少ないのではないのでしょうか。

そこで、国立女性教育会館では、女性情報の視点にたった「情報コミュニケーション技術(CT:Information Communication Technology)習得を目的として、女性関連施設職員の皆さんの具体的な要望に応え、仕事に直結した教材及び情報・交流の場を提供するTICT(サイト)サイトを立ち上げました。この教材は、様々なレベルの学習者が目的に合わせて自由に学習できるよ、仕事上で実際に必要としている事例、個別の技術、そして初歩から高度な技術までの段階を、立体的に組み合わせた構成になっています。一方、情報・交流の場は、学習した技術を広く事業や日常の業務に活用できるように、情報ネットワークによる学習効果の広がりを目指します。

TICT若葉コーナー



教材 (Training)

教材メニュー

■目的別メニュー [アプリケーション別メニューへ](#) [技術別メニューへ](#)

これらの教材メニューは利用者の希望を取り入れながら段階的に実現していきます。アンダーラインのあるメニューはすぐに利用できます。

注:学習テキストをご覧になるためには Adobe Acrobat Reader が必要です。(インストールのしかたはこちら)

	初級	中級	上級
情報を集める	●リンク集で女性情報を調べる	●検索エンジンで女性情報を調べる	●講演会の講師を探す ●新刊図書を探す
情報を整理する	●住所録を作る	●リストを作る ●予算を管理する	●勤務表を作る
情報を分析する	●集計表を作る	●グラフを描く	●統計処理を行う
情報を構築する	●定型文を作る [学習の手引き] [学習テキスト]	●説明文を作る	●操作説明書を作る
情報を発信する	●チラシを作る(1)チラシの構想を練る [学習の手引き] [学習テキスト] ●チラシを作る(2)文字を装飾する [学習の手引き] [学習テキスト] ●チラシを作る(3)図や罫線を使う [学習の手引き] [学習テキスト]	●パンフレットを作る ●ポスターを作る	●広報誌を制作する

TICT目的別メニュー

操作ヒント集

「パソコン基本操作ヒント」「よく使われる機能ヒント」というサブメニューの下に『CD-ROMの中を見る』『フォルダを作る』『PDFファイルを見る』の説明がありますが、今後「若苗広場」の投書からこのヒント集への発展も考えています。

よくある質問と回答

現在は学習テキストを読むために必要なPDFファイルの説明があります。

4. 広報など

会館では、6月5日から8日まで「女性関連施設職員のためのセミナー」(本号p.2-4参照)を開催しました。参加者にはTICTサイトの内容が見られるデモンストレーションCD-ROMを含む「若葉パック」を配布し、TICTサイトを紹介しました。また参加のなかった女性関連施設には郵送しました。

「若葉パック」にはアンケート用紙を同封し、女性関連施設のICT環境の現状等をご回答いただきました。このアンケートと若苗広場へのご要望等を、今後の教材開発やTICTサイトの構成に反映させようと考えています。

最後に、女性関連施設職員の皆さんにはこれからもサイトに関する意見をお聞きしたり教材やノウハウの提供等、ご協力いただきたく思います。皆さんで「一本の木」の成長を見守ってくださいますよう、よろしくお願いいたします。

(国立女性教育会館情報交流課専門職員

合田 美恵子)

女性関連施設データベース - Web上で、自施設のデータを更新する -

データベースにとって、そのデータを常に最新の状態に保っておくことは大変重要なことで、そのためには、随時更新できることが必要となります。

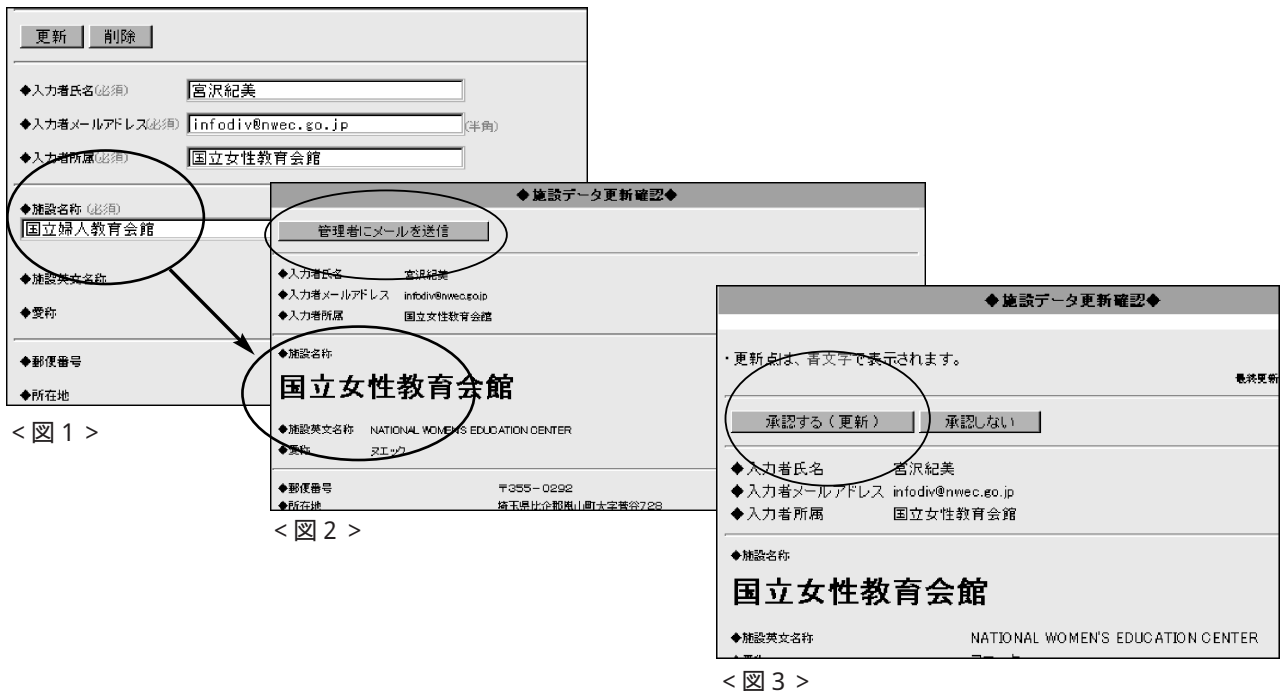
そこで、この「女性関連施設データベース」*には、Web上で各施設がデータを更新できる機能をつけました。「お茶室ができた」「この秋に行なう事業の詳細が決まった」など、何か変更があったら、すぐにお手元のパソコンからデータを更新してください。

まず、自施設のデータを呼び出し、更新します(図1、ここでは施設名称を更新しています)。「管理者にメールを送信」をクリックすると当館へ自動的にメールが送信されます

(図2)。当館管理者は、その連絡を受けてデータを確認の上(図3)、本DBにデータをアップします。その際、データ入力者へメールが送られます。これで、データの更新が終わります。

まだ、このDBに未登録の施設、データ更新が必要な施設の方には、ID・パスワードと詳しいマニュアルをお送りしますので、ぜひ、ご協力ください。また、ネット環境が整っていない施設は、こちらでデータ登録・更新いたしますのでご一報ください。

*全国の女性関連施設の概要と実施事業('98、'01)を集めた会館作成DB。月に約300件のアクセスがある。会館HP (<http://www.nwec.go.jp/>) からアクセスできる。



オランダIIAV(国際女性運動アーカイヴ情報センター)とその活動について

アムステルダム市外の北東部、アフリカやトルコから移住してきた人々が多く住む地域の一角に、国際女性運動アーカイヴ情報センター(International Information Center and Archives for the Women's movement以下IIAVと略記)は位置する。六角形の大きなドームを持ち、もとは教会であった建物の分厚い木の扉をあけ、足を踏み入ると、円形構造を利用した、放射状の書架の配列がユニークなIIAV図書館が眼前に広がる。

筆者は2001年7月、IIAVを訪れる機会を得た。そこで行った所長をはじめとする主要なスタッフへの聞き取り調査と収集した資料をもとに、IIAVの組織と活動の概略を紹介しておこう。

1. IIAVの歩んだ道

IIAVの前身、国際女性運動アーカイヴ(International Archives for the Women's Movement略称IAV)は、第二次世界大戦前の1935年、女性参政権獲得(1919年)による女性運動の衰退を危惧したローザ・マヌスら三人のオランダ人フェミニストにより、女性の文化的遺産と女性運動関連情報の保存のための図書館として設立された。収集した資料のすべては1940年、ナチスにより持ち去られてしまったが(その一部は1992年にモスクワで発見され、現在取り戻し作業が進行中)、戦後もない1947年、IAVは再開を果たした。

その後1970年代の第2派フェミニズム運動の興隆の中で大きな発展をとげたIAVは1988年、オランダ女性協議会情報記録センター(The Information and Documentation Center of the Dutch Women's Council)およびフェミニズムと女性学の季刊誌ローヴァー(Lover、英語でleafの意)と合流、女性の地位と女性学情報のナショナルセンターIIAVとして新たなスタートを切ることとなった。そして、1996年に開始された収集資料・情報データベースのオンライン化、さらには1998年の「世界女性情報会議」(Know How Conference)の開催を通じて、その活動の幅を大きく広げ、女性情報を発信・媒介する国際拠点としての重要性を高めつつある。

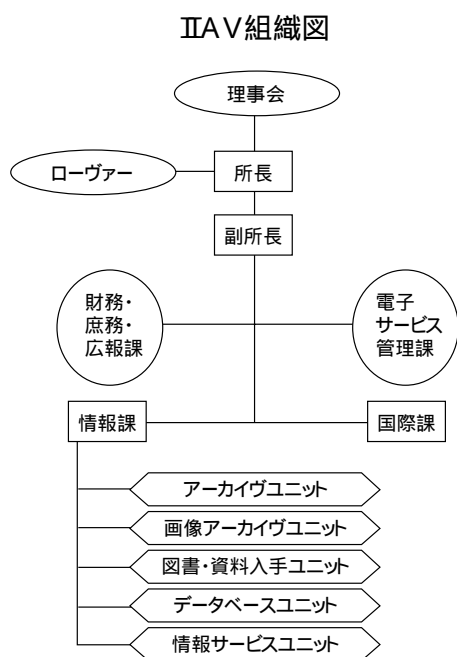
2. IIAVの組織

ヨーロッパ最大の女性情報センターであるIIAVは、主にオランダ政府社会省の支出により運営される総勢35人前後(プロジェクトの進行状況により多少人数が増減する)の組織である。スタッフはすべてパートタイムで、通常週3~4日勤務。いかにもワークシェアリングの国オランダらしい。図書館の出納当番にあっていた20代のスタッフに尋ねたところ、「独りなら週4日勤務で十分食べていける。週5日も働いたら、他のやりたいことに使う時間がなくなってしまう!」という何とも羨ましい答えが返ってきた。ただし、パートタイム労働を選ぶ人たちの大半は女性で、男性たちの間では、仕事と家庭の両立、あるいは仕事と他の生活領域の活動を結びつけるライフスタイルの模索が、必ずしも望ましいペースで進んでいるわけではないという実情も、他のスタッフに教えられた。

現在のIIAVの機構は図(次頁)の通りである。理事会、そして所長・副所長のリーダーシップのもと、財務・庶務・広報課および電子サービス管理課の2つの部局からなる管理部門と、5つのユニットに分かれた情報課および国際課からなる資料収集・サービス提供部門のスタッフが、日々の業務・活動に携わっている。



IIAV図書館で副所長および情報課のスタッフと



3. IIAVの資料収集・情報提供サービス

IIAV図書館は約75000冊の国内外の書籍や報告書類を収蔵し、600近い定期刊行物(オランダと外国のものが半々)を定期購入、加えて約400の女性団体、約170の個人女性のアーカイヴ(ある団体や個人によって書かれたり集められたりした記録のワンセット)と、6000点のポスターや15000以上の写真などを集めた画像アーカイヴを保有する。アーカイヴおよび画像アーカイヴの収集が重要な事業として位置づけられていることは、図の情報課の中にそれぞれ独立したユニットが設けられていることからみてもとれよう。

図書館1階の開架式の書架には1975年以降に出版された書籍・報告書・定期刊行物、そして2階には1975年以前の定期刊行物が配架され、誰でも自由に手にとってみることができる。そのほかは収蔵庫に保管されている。

かつては歴史的な図書・資料がコレクションの中心であったが、現在では歴史的なものと現代社会の女性の地位に関するものの双方、中でも非ヨーロッパ系の有色・移民・難民女性に焦点をあてた収集が行われ、IIAVが5つの主要サービス提供者として想定する研究者、ジャーナリスト、政策決定者、女性団体、女性情報サービス機関の利用に供することが試みられている。

これらの図書目録は1996年以来、オンライン上での検索が可能になったことから、IIAVの利用者は飛躍的に増加した。図書目録データベースに加え、IIAVでは有色・移民・難民女性関連情報のデータベース、オランダにおける女性学の研究状況

に関する「女性学研究データバンク」、オランダ女性学会と共同開発した「女性学ジェンダー研究者データバンク」、オランダの全ての女性アーカイヴについての情報を集めた「女性アーカイヴデータバンク」、そして1998年に主催した「世界女性情報会議」を契機に開発した世界の女性情報サービスのウェブ上のデータベースである「マッピングザワールド」により、女性情報の普及につとめている。これらのデータベースの開発はデータベースユニットが受け持っているが、図書館およびインターネットでの情報提供は情報サービスユニットの担当である(IIAVのURLは<http://www.iiav.nl>)。

IIAVによるICTを用いた女性情報の国際的収集・共有・活用のイニシアチブは、「北京+5」へ向けてのNGOによる北京行動綱領レビューのプロセスや「世界水フォーラム」へのジェンダー視点の導入などにおいても発揮された。2000年には、女性情報分野における国際的なインフラストラクチャづくりを率先して行うため、国際課が新設されている。

4. 女性シソーラスの開発

IIAVの図書目録や他のデータベースの検索のツールとなっているのが、「オランダ女性シソーラス」(DVT)と「ヨーロッパ女性シソーラス」(EWT)である。約2200の統制され階層化された索引語を含むDVT(オランダ語)は、1992年に完成。オランダ、ベルギーの他の7つの女性センターでも索引づけに利用され、共同討議による用語の定期的見直しも行われている。この共同利用と横断検索の可能性をヨーロッパ全域に広げるため、DVTの英語翻訳をベースに、EUの後押しで1998年に出版されたのがEWTである。

英語という言葉の制約と既にある索引システムを新しいものに変更することの難かしさから、現段階でEWTを利用しているのはIIAVとイギリスのフォーセット図書館アーカイヴだけだが、ヨーロッパ各地の女性センターにはEWTの共同利用への要望が強く、現在、フランス語、スペイン語、ドイツ語、ギリシア語への翻訳が模索されている。その成果のいかに、ヨーロッパ規模での女性情報バーチャル図書館の実現を左右することになるだろう。

DVTおよびEWTは、現在NVECにおいて進行しつつある「婦人教育シソーラス(第2版)」の改訂作業にも、多くの示唆を与えてくれる。

(國學院大學法学部教授・国立女性教育会館
客員研究員 田中 和子)

女性・家族関係雑誌記事インデックス

当会館女性教育情報センター所蔵の和雑誌のうち、2001年度前半にデータベース化された記事・論文の中から、女性の学習・研究に役立つものを雑誌名の五十音順に掲載しています。

データベース化の遅れを解消するために、1999年度より新しいものを先に入力し、一部保留して順次遡及で入れていくことにいたしました。号数の古いものが収録されているのはそのためです。当会館ホームページ (<http://www.nwec.go.jp/>) で提供している女性情報検索システムWinetCASSの文献情報データベースでは、全データが検索できますので、併せて御利用下さい。

凡例

雑誌名 [巻号] (発行年月日)

特集タイトル

No. 記事タイトル / 執筆者名 (ページ)

あごら [264] (2001.01)

1. ミレニアムの国際女性フォーラム：女性学ジェンダー研究国際フォーラム<あごら新宿>ワークショップ / 斎藤千代[ほか] (p.2-26)
2. ワークショップ in ニューヨーク：山口の女は日本国憲法をどう見るか / 北京+5, グローバルフェミニストシンポジウム山口 (p.27-69)
3. 北京宣言及び行動綱領実施のための更なる行動とイニシアティブ(いわゆる「成果文書」)：国連特別総会「女性2000年会議」(2000年6月5日～10日)のアドホック全体会合に関する報告書から(総理府仮訳) (p.81-128)

あごら [265] (2001.02)

特集：「地の塩」をたたえる 2

4. 母、斎藤鶴子と<草の実>そして原水禁運動 / 斎藤恭司 (p.2-13)
5. 斎藤鶴子さんのご遺稿から：8月15日に想う (p.14-19)
6. <婦人民主クラブ>そして「障害」者の自立支援へ / 市村順子 (p.20-31)
7. ベアテ・シロタ・ゴードンさんの劇：真珠の首飾り (p.66-67)

あごら [266] (2001.04)

特集：男女差別に待った! <芝信>に高裁が画期的判決

8. 芝信用金庫の男女差別裁判：高裁判決を学ぶ会 / 笹本美園[ほか] (p.2-28)
9. すべての働く女性にこの判決を生かそう：芝信用金庫男女差別是正裁判 原告・弁護士座談会 / 伊藤貴三乃[ほか] (p.29-47)
10. あとに続く女性のためにも・・・そんな思いで立ち上がりました / 磐石みねこ[ほか] (p.48-49)
11. 芝信用金庫の「男女昇格・昇進・差額賃金請求」事件判決要旨(平成12年12月22日) / 東京高等裁判所第11民事部 (p.50-54)
12. 名古屋で闘う女たち：岡谷鋼機女性差別裁判の報告 /

藤沢真砂子, 海道町子, 柳澤つや子 (p.55-64)

13. 解説：3・28住友化学判決について / 池田直樹 (p.65-70)

あごら [267] (2001.06)

特集：21世紀の女性政策

14. 女性の地位委員会傍聴記(The 45th Session of the CSW) / 斎藤美栄子 (p.2-52)
15. 選挙に勝った堂本さん / 斎藤千代 (p.62-63)

アジア女性研究 [22] (2001.03)

特集：ジェンダーの主流化に向けて

16. マイクロクレジットが「女性に対する暴力」に与える影響についての考察：バングラデシュ農村の経験から / 有川志野 (p.1-5)
17. 農村女性の性と生殖に関する意識とその変化をめぐる一考察：パラグアイ共和国カアグアス県農村部S村の女性たちの事例から / 藤掛洋子 (p.6-12)
18. 働く女性の母性保護と中国の経済開発 / 李玲 (p.13-18)
19. インドの家事労働者：苦境の要因、組織化の試み、課題 / 新村恵美 (p.19-25)
20. 経済危機以降のタイ低所得者層の女性たちをめぐる労働問題とNGOを中心とした取り組み / 森山園生 (p.26-31)
21. 阪神大震災後の高齢化社会の経験：ジェンダーの視点から / 大谷順子 (p.32-39)
22. ミャンマーの保健医療事情：特に女性の健康に着目して / 劔陽子 (p.40-47)
23. 平和構築、安全保障と女性：沖縄反基地闘争における女性の貢献から / 竹下美穂 (p.48-54)
24. ベトナムにおける女性学の動向 / ゴ・ティ・トゥアン・ズン (p.55-59)
25. 女性農業者の抑うつ・家庭の悩みと夫婦の伴侶性 / 篠崎正美 (p.60-71)
26. グローバリゼーションと「中間階層」：東南アジア諸国にみるその新潮流 / 和田幸子 (p.72-83)
27. 女性高齢者の生きた時代と生活背景：上海市の訪問調

- 査を通して / 李秀英 (p.84-90)
28. アウンサンスーチーの政治思想と仏教 / 井野憲治 (p.91-97)
 29. アクセスマエンパワメントも：ジェンダーと開発は女子教育をどう見てきたか / 織田由紀子 (p.98-106)
 30. 安全な妊娠・出産のための「絵マニュアル」開発：パキスタンにおける経験 / 小山内泰代 (p.107-109)
 31. 韓国女性環境ネットワークの形成と活動 / バク・ウンギョン (p.110-112)
 32. 中国・大連市の女性の状況 / 劉舫 (p.113-114)
 33. アジア・太平洋地域の若者の声を世界へ：NAPY(アジア・太平洋若者ネットワーク)の活動 / 佐藤美穂 (p.115-117)
 34. 北京世界女性会議の成果を監視する：APWW(アジア太平洋女性監視機構)の活動 / 織田由紀子 (p.118-122)
 35. 中央アジア女性NGO会議 / キルギスタン女性NGOフォーラム (p.123-124)
 36. 「らしさ」を解体していく少女マンガ / 安丸雅子 (p.125-126)
 37. フォト・エッセイ：女性エンパワメント：ネパール政府の試み / 渋谷優子 (p.129-130)

新しい家族 [38] (2001.06)

38. 里親の意識および養育の現状について / 庄司順一 (p.2-21)
39. 「家庭養護・家庭的保育」再考：第70回養子と里親を考える会講述録(128) / 畠中宗一 (p.22-36)
40. 養子縁組 & 里親委託に関する国際専門家会議による国内・国際養子縁組および里親家庭養育に関する実務ガイドライン：家庭で育つ子どもの権利 / 養子と里親を考える会訳 (p.37-55)
41. 親権について考える：第71回養子と里親を考える会講述録(129) / 海老原夕美 (p.58-72)
42. アダプション・エクステンジ協会(AEA)が開発した養子縁組情報交換機関のための基準 / 岩倉由佳, 菊池緑訳 (p.89-96)

アディクションと家族 [17-3] (2000.09)

- 特集：性暴力とDV：加害者治療の可能性を探る
43. この人とネットワーク：国や文化のちがいを超えDV根絶を訴え続けるマーサ・フライデーさん(WC&S代表) / 平川和子 (p.245-249)
 44. 性犯罪の被害者と加害者 / 内山絢子 (p.252-260)
 45. 塀の中の性犯罪者治療：日本の現状と課題 / 藤岡淳子 (p.261-270)
 46. 「加害者」の「被害者」性を受け止める試み：治療共同体アミティのアプローチから / 坂上香 (p.271-279)
 47. ドメスティック・バイオレンス加害者治療の試み：「男の非暴力グループワーク」の経験から / 中村正 (p.280-286)
48. 日本トラウマ・サバイバーズ・ユニオン(通称ジャスト)JUSTのホットライン(電話相談) (p.346)

イメージ & ジェンダー [1] (1999.12)

特集：1997年度・発表概要

49. 東京都写真美術館「ジェンダー：記憶の淵から」展を考える：展覧会評やアンケート等における批判の論点 / 笠原美智子 (p.8-9)
50. マスメディア・イメージにおけるジェンダーと政治：政党コマーシャルにおける女性の表象について / 堀ひかり (p.9-10)
51. レズビアン・アート? ジェンダー・アート? / 溝口彰子 (p.10-11)
52. 『青鞥』の表紙絵を読む：近代日本における「新しい女」のイメージの創造 / 山崎明子 (p.12)
53. 「兄弟世帯」という装置：尾崎翠の『第七官界彷徨』を中心に / 塚本靖代 (p.13)
54. 楽器とジェンダー：フライア・ホフマン著『楽器と身体』 / 玉川裕子 (p.14-15)
55. 声・身振り・オペラ歌手：歌唱史の再考に向けて：小林緑 (p.15-16)
56. 「山中常盤絵巻」における女性表象：近世初頭のメッセージ / 山内菜央子 (p.16-17)
57. 明治以降の美術における女性の肖像ノート：老女像を中心として：「女性の肖像：日本現代美術の顔」展より / 光田由里 (p.18-24)
58. サロメが見せるもの：日本近代演劇における視覚性とジェンダー / 加野彩子 (p.25-35)
59. 視覚的身体記号のジェンダー構造：ウィレム・デクーニングとソ・セオクの絵画 / ユン・ナンジ；金恵信訳 (p.36-53)
60. セックスとセンシビリティ：韓国における女性美術とフェミニズム / キム・ホンヒ；北原恵訳 (p.54-61)
61. 「ラヴズ・ボティ：ヌード写真の近現代」展についての展覧会評 / 笠原美智子 (p.62-65)

インパクション [123] (2001.02)

62. 「青少年の健全な育成」を口実とした危険な表現規制法の浮上 / 長岡義幸 (p.1-7)

特集：《癒し》からの解放

63. 座談会：「癒し」の支配から解放されるには：解放の力として癒しをとらえなおす / 西野瑠美子 [ほか] (p.10-31)
64. 「癒し」としての「皇室外交」：オランダ「戦争展」・天皇(夫妻)の歌と「お言葉」をめぐる / 天野恵一 (p.32-39)
65. グアテマラ内戦と和解の諸相 / 新川志保子 (p.66-73)
66. 「ピ」のトラウマと暴力的な癒し / 高橋りりず (p.89-92)
67. 沖縄便り(27)：新たな時代への出発 / 浦島悦子 (p.105-111)
68. アート・アクティヴィズム(32)：WOMEN AT WORK：<工事中>につきご注意ください：「越境する女たち21」展 / 北原恵 (p.112-121)
69. 戦争責任追及、民主化へのエンパワメントを：2000年「女性国際戦犯法廷」は戦争と女性への暴力をなくす新たな出発 / 松井やより (p.122-143)
70. 資料：女性国際戦犯法廷 認定の概要および勧告

(p.144-151)

71. 矛盾だらけの東京女性財団廃止 / 牧田真由美 (p.169-171)
72. 台北市公娼たちの闘いは続く：2年間の緩衝期間終了。その後どうなるの? / 水島希 (p.174-176)

インパクション [124] (2001.04)

73. 「女性国際戦犯法廷」を巡るNHKの番組改編を問う：NHKに何が起こったのか? / 西野瑠美子 (p.1-5)

特集：子どもが危ない：包囲される子どもたち

74. 「子ども」という大義名分：メディア規制の欺瞞と規範強化 / 要友紀子 (p.46-53)
75. インタビュー：子どもはちゃんと表現している：不登校をめぐる30年 / 内田良子, 大橋由香子 (p.76-94)
76. 婚外子として育つとは / 赤石千衣子 (p.96-97)
77. 『子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議』に向けた若者の動き / 水島希 (p.105-107)
78. 子どもは市民か：子どもの権利条約と市民権 / 松葉祥一 (p.108-115)

79. アート・アクティヴィズム(33)：沈黙させられたのは誰か：NHK番組改編問題・テレビ映像における捏造 / 北原恵 (p.126-131)

80. 地域に生きるタイのエイズ孤児たち / 北沢杏子 (p.132-144)

81. クローン技術の裏側：Who steal eggs?：企業利益のために胚、卵子、精子を無料提供しますか / 本田真智子 (p.161-163)

82. 保険金殺人のシナリオを強要：自白のみで無期懲役：東住吉冤罪事件にご支援を / 寺田恵子 (p.163-166)

インパクション [125] (2001.06)

83. 小泉人気と「女性天皇制」：政治の「芸能化=観客化」に抗して / 天野恵一 (p.5-7)

84. 沖縄便り(28)：小休止の弁 / 浦島悦子 (p.92-94)

85. アート・アクティヴィズム(34)：記憶を記録するということ：「ビデオ塾」の試み / 北原恵 (p.96-105)

86. 資料：「歴史歪曲教科書を許さない!! アジア連帯緊急会議」宣言・行動計画 (p.123-128)

大阪国際女子大学・短期大学女性学研究所年報 [2] (2000.03)

特集：女性学研究所調査報告

87. 「短期大学生の就職未決定要因」に関する調査 / 小牧一裕 (p.3-9)

88. 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」に関する調査 / 西岡敦子 (p.10-20)

89. 「セクシュアル・ハラスメント」に関する調査 / 油谷純子 (p.21-28)

沖縄県女性史研究 [2] (1998.09)

90. 夫婦ゲンカの社会史：琉球の慣習法と裁判をめぐる一考察 / 真栄平房昭 (p.1-11)

91. 浦添間切伊祖村・田ノはあらの女性たち：伊祖の入れ御拝領墓の調査から / 安里進 (p.13-27)

92. 女性と環境：エコフェミニズムの視点から / 武田一博 (p.29-33)

93. 近代沖縄の女性と環境：ジェンダーの視点から(試論) / 比賀道子 (p.35-66)

94. 「戦争前夜」・人々のくらし：経済破綻としのびよるイクサの足音 / 宮城晴美 (p.67-85)

95. 開発とくらしと女性たち：真の豊かさを求めて / 安里英子 (p.87-117)

96. 祭祀と環境：宮古狩俣村落(ズマ)の神行事を通して / 奥濱幸子 (p.119-132)

97. 新生活運動関係年表 / 大城幸子 (p.133-158)

女たちの21世紀 [25] (2001.02)

特集：リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

98. 日本のリプロの運動は今：「言葉のズレ」と遭遇しながら / 大橋由香子 (p.4-7)

99. 21世紀へ向けてのリプロダクティブ・ライツ / 後藤浩子 (p.8-9)

100. NY女性2000年会議で原理主義勢力的指向・性的権利に反対 / 堀口悦子 (p.10-11)

101. 障害を持つ女性にとってのリプロ・ヘルス/ライツ / 安積遊歩 (p.12-13)

102. 女性の健康には「安全であること」が欠かせない：女性の安全と健康のための支援教育センター設立へ / 麻島澄江 (p.14-15)

103. 女性のヘルスエンパワメントを目指す：地域のリプロ・ヘルス/ライツ活動から / 伏見正江 (p.16-17)

104. 「南」の女性から見た「人口問題」：パングラデシュ女性の現実から見たリプロダクティブ・ライツ / ファリダ・アクタル (p.18-24)

105. アジアの女性の保健運動 / 松井やより (p.25-29)

106. ジェンダーの視点から見たベトナム女性のリプロダクティブ・ヘルスと家族計画 / 田口めぐみ訳 (p.30-32)

107. 中国の「一人っ子政策」とリプロ・ヘルス / 福士由紀 (p.33-34)

108. スタディ・ツアーで見たカンボジアの女性の健康 / 伊藤真弓, 泉田淳子 (p.35-36)

109. チベット女性への暴力：難民女性と子どもへの暴力 / 坂井隆之訳 (p.37-38)

110. チベット女性への暴力：中国政府の産児制限政策 / 田尻美和訳 (p.38-40)

111. メキシコ・チアパス：先住民族女性に強制不妊手術 (p.41-42)

112. アフリカ・ブルンジ：私は反乱軍・政府軍両軍に強かんされた (p.43-45)

113. ニカラグアの静かな革命：男性巻き込む家族計画 / 竹信三恵子 (p.46-47)

114. 2000年世界人口白書：男女共生と見えない格差：変革の時(抜粋・2000年9月20日発表) (p.48-50)

115. 憂国オヤジ雑誌ウォッチング：少子化対策基本法はフェミニストの陰謀!? / 本山央子 (p.51-53)

116. 21世紀の医学・科学技術：誰のための先端医療か / 柘植あづみ (p.54-56)

117. 生殖技術と新優生学 / 松原洋子 (p.57-58)

118. 母子保健政策からリプロ・ヘルス/ライツ政策への転換を：国会の動きから / 堂本暁子 (p.59-61)

119. 不妊当事者が望むことは? : 「新・レポート不妊: 不妊治療の実態と生殖技術についての意識調査報告」から見てくるもの / 栗原順子 (p.62-65)
120. 現代版「産めよ殖やせよ」? : 少子化社会対策基本法案の問題点 / 芦野由利子 (p.66-68)
121. 男性との対話(18) : 少子化をどう見るか : 「もっと産め、いい子を産め」の生殖技術は受け入れまい / 毛利子来, 松井やより (p.69-72)
122. 北京プラス5ニューヨーク世界女性会議成果文書(抜粋) : 女性と健康 : 性と生殖の健康/権利の定義 (p.73-74)

特集 : 女性国際戦犯法廷

123. 国境を超えた女性たちの力で成功させた「女性国際戦犯法廷」 : 「慰安婦」制度に「昭和天皇は有罪、日本政府に国家責任」の判決 / 松井やより (p.75-77)
124. 「女性国際戦犯法廷」会員からの声 : 国際市民社会のすがたが見えた : 日本軍性奴隷制は過去のことではない : 被害女性のこころの叫びをきいて : 意識のグローバル化で過去の清算を / 有村順子[ほか] (p.78-81)
125. 「現代の紛争下の女性に対する犯罪」国際公聴会 / 辻井美穂 (p.82-85)
126. 父の法が支配する? 国家主義とジェンダー(1) : 「憲法改悪について : 憲法調査会の動きから」 : アジア女性資料センター連続講座より / 福島瑞穂 (p.86-87)

女たちの21世紀 [26] (2001.05)

特集 : 国際法と女性 : 私たちはどう活用するか

127. 国際法と個人 : 国際人権が拓く可能性 / 申恵 (p.4-8)
128. 女性差別撤廃条約と女性に対する暴力 / ゆのまえ知子 (p.9-11)
129. 女性差別撤廃条約「選択議定書」を批准させよう : 被害者個人が国際的に申し立てられるように / 堀口悦子 (p.12-13)
130. Q&A 女性差別撤廃条約の「選択議定書」とは? / 国際女性の地位協会 (p.14-15)
131. 参考資料 : 女性差別撤廃条約選択議定書の意味するもの / 阿部浩己 (p.16-19)
132. 「女性に対する暴力撤廃宣言」をどう生かすか : ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント根絶のために (p.20-22)
133. 日本政府は、なぜ国連勧告を無視しつづけたのか : 継続的な国連活動の必要性 / 戸塚悦朗 (p.23-27)
134. 国際組織犯罪禁止条約が成立 : 人身売買は・・・もう「強制」の証明はいらない / 木下薫 (p.28-31)
135. ILO条約 : 働く女性の権利を守るために / 浅倉むつ子 (p.32-34)
136. 住友電工男女賃金差別を国際的にアピール / 西村かつみ (p.35-36)
137. 人種・マイノリティ差別と女性差別 : 複合差別にどう取り組むか : 人種主義反対世界会議(南アフリカ)に向けて : ニューヨーク婦人の地位委員会報告 / 松井やより (p.37-40)
138. 人種差別撤廃条約と日本のマイノリティ女性 : ジュネーブ人種差別撤廃条約委員会が日本政府に勧告 / 藤岡美恵子 (p.41-43)

139. [ロビーイング体験記] 国連の方が楽だよ / 遠藤智子 (p.44)
140. 移住労働者権利保護条約と「移住労働者」・家族の人種 / 小笠原公子 (p.45-47)
141. 子どもの権利条約と「日の丸・君が代」 / 平野裕二 (p.48-49)
142. 子ども買春・子どもポルノ、子ども売買の根絶 : 子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議(今年12月横浜)を前に / 甲斐田万智子 (p.50-51)
143. 「女性国際戦犯法廷」判決概要はどんな国際条約に拠ったか / 川口和子 (p.52-56)
144. 旧ユーゴ、ルワンダ国際法廷で戦時性暴力はいかに裁かれてきたか : 最近の有罪判決を含めて / 前田朗 (p.57-62)
145. 旧ユーゴ国際法廷でインターン : 世界中の若い人たちと共に / 大西央子 (p.63-65)
146. 重大な国際犯罪を国境を越えて裁く : 国際刑事裁判所規程に早期加入を / 安藤泰子 (p.66-67)
147. 国際刑事裁判所のPRビデオを制作して / 辻井美穂 (p.68-70)
148. 国連安保理 ジェンダー配慮の特別決議 : 紛争予防・解決に女性の役割重視される / 松田紘子 (p.71)
149. 男性との対話(19) : 国際法の市民化とジェンダー : フェミニズムが国家・男性中心の国際法を変える / 阿部浩己, 松井やより (p.72-78)
150. 私が語るフェミニズム(1) : 落合恵子さん : 女性エンパワメントセミナー公開連続講座より / 久保田真紀子 (p.79-83)
151. 私が語るフェミニズム(2) : 中山千夏さん : 女性エンパワメントセミナー公開連続講座より / 久保田真紀子 (p.84-87)
152. 教育の現場から見える国家主義とジェンダー / 賀谷恵美子, 新井史子, 久保田真紀子 (p.88-90)

家族社会学研究 [12-2] (2001.03)

特集 : 21世紀の教育と家族の変化

153. 教育費負担の現状と機会不平等 / 田中敬文 (p.175-183)
154. 教育改革と家族 / 小玉亮子 (p.185-196)
155. <教育する家族>の家族問題 / 神原文子 (p.197-207)
156. 虐待の物語と体験の狭間 : ナラティブ・セラピーにおける物語化の再検討 / 和泉広恵 (p.211-222)
157. 主婦という違和感/主婦という制度 : 現代中年女性のライフ・ストーリーから / 西村純子 (p.223-235)
158. 家族内部における孤独感と個人化傾向 : 中年期夫婦に対する調査データから / 井上清美 (p.237-246)
159. 自己報告ディストレス尺度構造の日米比較 : NFR、NSFHを用いて / 菊澤佐江子 (p.247-259)
160. 日本版General Social Surveys(JGSS)と家族測定項目 : 第1回予備調査データの検討 / 岩井紀子 (p.261-270)

家族心理学研究 [15-1] (2001.05)

161. 死別後の二次的ストレスと精神的健康 : 死別した配偶者と子どもの比較 / 坂口幸弘 (p.13-24)
162. 外出中の家族を対象とした親子の関わりと夫婦間の役割調整 : 子どもが一人の家族と二人の家族の比較を通

- して / 小島康生 (p.25-34)
163. 父母の不和が子どもの自尊心、情緒安定性ならびに攻撃性に及ぼす影響：父は情緒に、母は行動に / 前島芳名子, 小口孝司 (p.45-56)

家庭科教育 [75-3] (2001.03)

164. ジェンダー・フリー教育の指導計画(試案) / 田中洋子 [ほか] (p.22-25)
165. 幸せをゲットする生活学30の知識(上)：実学を中心とした講義 / 村井昭一 (p.26-31)
166. 情報化社会における家族と住まいのあり方 / 橋本久子 (p.42-46)
167. 男子は必ずしも女子の過激な身望んでいない：大学生の体型に対する意識や願望とその実態 / 金子俊 (p.58-62)
168. 現代っ子の食事のふるまい / 奥田和子 (p.63-68)
169. 青年期のごちそう観 / 広田直子 (p.69-73)
170. イギリスのテキスタイル・コスチューム博物館を訪ねて(6)：リネン産業を主体に展示している北アイルランドの博物館(アイルランド共和国のテキスタイルを含む)(2) / 日下部信幸 (p.87-92)

家庭科教育 [75-4] (2001.04)

171. 家族や生活に関する学習を通した人間教育の充実：高等学校家庭科の改訂の趣旨 / 河野公子 (p.6-11)
172. ウィスコンシン州・オハイオ州・ミネソタ州の家庭科教育視察報告(3)：ハイスクールを中心に / 河崎智恵, 林未和子 (p.12-16)
173. 個人的IT革命のすすめ / 森博 (p.17-21)
174. 幸せをゲットする生活学30の知識(下)：実学を中心とした講義 / 村井昭一 (p.22-26)
175. 共生時代における家政学の社会的意味(1)：国際的視野と子どもの尊厳 / 香川晴美, 住田和子 (p.27-30)
176. 幼児期の偏食の諸要因 / 中原経子 (p.44-48)
177. 大学生の実態から見たカード社会の課題 / 小島郷子 (p.49-53)
178. 若い女性の性格特性と生活習慣・健康状況との関連 / 佐久間章子, 岸田典子 (p.60-65)
179. イギリスのテキスタイル・コスチューム博物館を訪ねて(6)：リネン産業を主体に展示している北アイルランドの博物館(アイルランド共和国のテキスタイルを含む)(3) / 日下部信幸 (p.86-92)

家庭科教育 [75-5] (2001.05)

180. 食と心：甘えさせること甘やかすこと / 大谷貴美子 (p.6-10)
181. ウィスコンシン州・オハイオ州・ミネソタ州の家庭科教育視察報告(4)：キャリアセンターを中心に / 河崎智恵, 林未和子 (p.15-18)
182. 家庭科教育におけるファイナンシャル・プランニングの重要性 / 堤伸子 (p.28-33)
183. 保育科学生の現状認識と家庭科、保育関係教材、教科書・内容とのずれ / 内山源 (p.34-38)
184. 技術・家庭科における保育の学習：保育所との連携による学習 / 金児節子 (p.47-51)
185. 「家族経営協定」との出会い / 高橋桂子 (p.83-85)

186. イギリスのテキスタイル・コスチューム博物館を訪ねて(6)：リネン産業を主体に展示している北アイルランドの博物館(アイルランド共和国のテキスタイルを含む)(4) / 日下部信幸 (p.86-92)

家庭科教育 [75-6] (2001.06)

187. 社会状況に対応した家庭教育とは / 小檜山倫子 (p.6-11)
188. 心理劇とは何か / 浜田駒子 (p.12-16)
189. 家庭科教育の現状と課題：北海道家庭科教育推進委員会が行ったアンケート結果の分析から / 岩佐昭代 (p.22-31)
190. 私たちの健康・食生活の姿：平成11年度国民栄養調査成績から / 藤沢良知 (p.32-38)
191. 小説家小島信夫の「こよなく愛した」について / 真船均 (p.65-68)
192. テレビCMから女子大生が受ける影響：飲料 / 米田泰子 (p.75-83)
193. イギリスのテキスタイル・コスチューム博物館を訪ねて(7)：産業革命を担った綿紡織工業地帯のグレートマンチェスターと毛紡織工業地帯のグレートヨークシャーなどイングランド北部地域の博物館(1) / 日下部信幸 (p.84-92)

家庭科教育 [75-7] (2001.07)

194. 家庭科教育と介護との関連・カリキュラム研究の問題 / 内山源 (p.13-18)
195. 家族に対する介護意識：男性介護職員の意識調査から / 石川周子 (p.19-23)
196. 家庭科における高齢者関連学習の授業提案(1)：異世代間の加齢に対する意識の相違 / 日本家庭科教育学会関東地区会「高齢社会と家庭科」研究会 (p.24-30)
197. ウィスコンシン州・オハイオ州・ミネソタ州の家庭科教育視察報告(5)：大学を中心に / 林未和子 / 河崎智恵 (p.31-36)
198. 最近の凶悪事件の少年の家族と心理 / 小林俊雄 (p.48-52)
199. 家族環境からみた青少年の薬物使用(1)：薬物汚染の実態と防止対策 / 宮崎綾子, 犬飼亜子 (p.53-58)
200. 首都圏における高校生の冬季通学服に関する調査 / 坂口志津子 [ほか] (p.69-75)
201. イギリスのテキスタイル・コスチューム博物館を訪ねて(7)：産業革命を担った綿紡織工業地帯のグレートマンチェスターと毛紡織工業地帯のグレートヨークシャーなどイングランド北部地域の博物館(2) / 日下部信幸 (p.85-90)

家庭教育研究所紀要 [22] (2000.12)

202. 中国の「親子関係」に関する一考察：一人っ子家庭と非一人っ子家庭の地域別比較を中心に / 楊春華 (p.5-17)
203. 母親の養育行動と思春期の子どもの自尊心：文脈効果の検証 / 末盛慶 (p.18-31)
204. 倉橋惣三の家庭教育論：その近代的性格 / 米村佳樹 (p.32-41)

特集：「家庭教育奨励金」研究報告

205. 母親が望む子育て支援 / 有田留美子, 木村依子, 清水正江 (p.55-65)
206. 子どもに対する母親の否定的感情と母親になるプロセス：初めて子どもをもつ女性を対象にした生後1年間の縦断的研究から / 菅野幸恵, 岡本依子 (p.66-74)
207. 乳幼児のメディア生活の実態と臨床保育内容：神奈川県未就園児の生活調査から / 土谷みち子 (p.88-100)
208. 3歳児の父母の育児のかかわりはどのように変わってきたのか：社会的背景の異なる2つのコーホート比較 / 加藤邦子 (p.101-114)
209. 1歳から3歳の親子関係の変化に関する一事例 / 竹田真木, 京野尚子 (p.115-125)
210. 0,1歳児クラスにおける家庭支援の現場から / 京野尚子 (p.126-138)

かながわ女性ジャーナル [19] (2001.03)

211. 男にとって男女共同参画社会とは? / 豊田正義, 多賀太 (p.5-59)

季刊女も男も：自立・平等 [86] (2001.01)

212. 女も男も食事を作って楽しめる社会に / 佐藤和夫 (p.2-3)

特集：21世紀への展望：セックス・ジェンダー・セクシュアリティ

213. 井上輝子さんに聞く：フェミニズムの成果と展望：セックス・ジェンダー・セクシュアリティを解く / 千田有紀 (p.6-12)
214. グローバル化とジェンダー：能力を公的意思決定の場で活用する / 橋本ヒロ子 (p.13-15)
215. 分類を越えた自然な人間同士に：たとえば性同一性障害をめぐる / 木谷麦子 (p.16-17)
216. いま学校で：教科書から消える「従軍慰安婦」：憲法・教育基本法「改正」につながる序章 / 藤川伸治 (p.18-21)
217. いま学校で：高等学校：豊かなライフプランを描くために：自主解決をサポートする「進路研究」 / 渡部由里子 (p.22-25)
218. メディアの現場から(12)：ニカラグア、もうひとつの革命 / 竹信三恵子 (p.26-27)
219. はたらく(12)：教育改革を実現させる仕事にやりがいと責任：神本美恵子さんに聞く / 藤田記子 (p.28-30)
220. 50代女性の今をレポートする：『50カラット会議』の試み / 志垣豊子, 松永るみ子 (p.32-35)
221. 報復の手段として虐待される女の身体：「現代の紛争下の女性に対する犯罪」国際公聴会より / 山野風 (p.35-36)
222. 心の叫びを直接聞きたい：「ナヌムの家」にハルモニを訪ねて / 山崎キヌ子 (p.36-37)
223. 相手の顔の見える中国研究：女性学創設を語る『女に向かって』 / 秋山洋子 (p.38)
224. 写真を読む(16)：ロサンゼルス・オリンピックの女子選手たち / 岩尾光代 (p.39)

225. 法律ガイド(12)：財産権と平等権 / 中野麻美 (p.40-41)
226. パートナーシップ(12)：妻の不在が夫の家事能力をみがく：母子家庭・父子家庭も経験した共働き30年：早瀬保子さん・早瀬鑣一さん / 古庄弘枝 (p.41-45)
227. 女性解放思想史講座(71)：望月百合子と女性解放：100歳のあゆみ / 岡田孝子 (p.46-49)
228. 現代の病を負う世代(2)：楽しいひきこもり / 川田文子 (p.50-53)
229. インタビュー『男の曼荼羅』(12)：僕が恋愛感情に目覚めたときの12歳の妹が好きなんです / 豊田正義 (p.58-60)
230. 資料解説：間接差別をなくし、同一価値労働同一賃金をめざす均等待遇とは (p.61-63)

季刊女も男も：自立・平等 [87] (2001.04)

特集：切り拓こう両性の平等社会

231. 座談会：21世紀の働き方、生き方を探る / 竹信美恵子, 伊田広行, 池田芳江 (p.6-11)
232. 男女共同参画社会基本法のめざすもの：あらゆる分野での「参画する」機会の確保と実現を / 高島順子 (p.12-14)
233. 再考・男女共同参画社会基本法、その問題点：名称から「男女平等」を消したことの意味 / 中島通子 (p.15-17)
234. 両性の自立と平等を育てる教育とは：性差別に対する洞察力・批判力をはぐくむ / 木村涼子 (p.18-19)
235. いま学校で：固定的な家族像を払拭する：「いろいろな家族・いろいろな暮らし方」のパネルを使った実践 / 小宮敬子 (p.20-22)
236. いま学校で：セクハラのない職場・学校をめざして：「セクシュアル・ハラスメント実態調査」より / 猪股知子 (p.24-26)
237. メディアの現場から(13)：男たちは語り始めたけれど・・・ / 竹信三恵子 (p.28-29)
238. はたらく(13)：子どもたちに「食」の大切さを教えていきたい：山崎毅さんに聞く / 藤田記子 (p.30-32)
239. ライフワークはスウェーデンと日本を結ぶ仕事：津金レイニウス豊子さんの生き方 / 松永るみ子 (p.33-36)
240. キューバの国際女性デー：男性が女性におくる「おめでとう」とカード / 三木草子 (p.37)
241. 根強い「女性への暴力根絶」を：報告・国際シンポ「安全な社会をめざして」 / 山野風 (p.38)
242. キリスト教を根本から問い直す：日本フェミニスト神学・宣教センターの設立 / 山口里子 (p.39)
243. 多様性を認めつつ共通性の追求を：報告・第50次教研・両性の自立と平等をめざす教育 (p.40)
244. 写真を読む(17)：「リットン報告書」を打つタイピストたち / 岩尾光代 (p.41)
245. パートナーシップ(13)：極上の「貧乏」を味わう：22年間恋人同士の写真家と写真家：島尾伸三さん 潮田登久子さん / 古庄弘枝 (p.44-47)
246. 歴史をジェンダーで読む(8)：形式だけの男女平等では、本当の社会福祉は語れない：一番ヶ瀬康子さんに聞く社会福祉・女性解放 / 星野安三郎 (p.48-51)
247. 現代の病を負う世代(3)：「街」の料理人 / 川田文子

(p.52-54)

248. インタビュー『男の曼荼羅』(13):父への暴力が妻への暴力に移ったんです/豊田正義(p.58-60)
249. 資料解題:「男女共同参画基本計画」の閣議決定概要について/田村のりこ(p.61-63)

季刊家計経済研究 [50](2001.04)

特集:子育て

250. 日本における「ファミリーフレンドリー」施策の現状と課題/佐藤博樹(p.11-17)
251. 少子化対策としての保育サービスの課題/山縣文治(p.18-24)
252. 等価尺度と子どもの費用:『消費生活に関するパネル調査』を使用して/駿河輝和,西本真弓(p.25-31)
253. 父親の育児?:「父親育児推奨論」にみる男性の育児参加の理由づけ/内田哲郎(p.32-38)
254. 中国都市部世帯での夫婦間家事分担と家計管理/溝口由己(p.39-48)
255. 離職コストが第1子出産タイミングに与える影響/権丈英子(p.50-55)
256. 既婚女性の再就業に関する実証分析/駿河輝和,西本真弓(p.56-62)
257. 家計に占める育児コストに関する研究/林浩康,イト・ベング(p.69-72)
258. 日本語の揺れ:たかが言葉、されど言葉/藤原房子(p.74-79)

季刊教育法 [128](2001.03)

特集:学校におけるセクシュアル・ハラスメント

259. セクシュアル・ハラスメントのないキャンパスをめざして:問われる大学の責任と防止対策の確立へ/奥山明良(p.4-8)
260. 大学・学校におけるセクシュアル・ハラスメント:概念、その構造と対策/北仲千里(p.9-29)
261. キャンパス・セクシュアル・ハラスメントに関するガイドライン(指針)の手引き(キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク1999年3月発表)(p.30)
262. 教員の人権意識の希薄さが招くセクシュアル・ハラスメント/久芳美恵子(p.31-34)
263. リレートーク:子ども時代のセクハラ被害の持つ意味/横湯園子(p.35-40)
264. 判例紹介(p.41-57)
265. 資料:人事院規則10-10:セクシュアル・ハラスメント防止等(1998年11月13日)(p.58-63)

季刊子どもプラス [3](1999.12)

特集:やめよう、とめよう子どもの虐待

266. 子ども虐待論/芹沢俊介(p.11-19)
267. 子どもの命が最優先されていない!!:いま、なにが問題か:小児科医坂井聖二氏に聞く/藤井誠二(p.20-27)
268. 21世紀を子どものエンパワーメントの時代に/森田ゆり(p.40-48)

季刊社会保障研究 [36-3](2000.12)

特集:社会保障の実証分析:マイクロ・データの応用

269. 要介護者の発生にともなう家族の就業形態の変化/岩本康志(p.321-337)
270. 子育てと調和する働き方と政策ニーズ:労働時間のリストラクチャリングに向けて/前田信彦(p.423-434)

季刊社会保障研究 [36-4](2001.03)

特集:社会サービスを支える看護・介護の人材をめぐる諸問題

271. 介護・看護をめぐる労働法上の諸問題/林弘子(p.482-493)
272. 看護費用の分析/遠藤久夫(p.494-504)
273. 看護教育の現状と課題/小山真理子(p.505-509)
274. 看護・介護職員確保の現状と課題/奥村元子(p.510-525)
275. 福祉職の人材育成をめぐる諸問題:保健・医療・福祉の連帯のあり方をめぐって/平野方紹(p.526-534)
276. 育児支援・年金改革と出生率/小塩隆士(p.535-546)
277. 世帯構成員の長期療養に起因する経済厚生への損失について:要介護者と寝たきりの経済的コスト/岩本康志,小原美紀,斉藤誠(p.547-560)

季刊社会保障研究 [37-1](2001.06)

278. 子供の健康資本と親の時間配分行動:親は家計内健康格差に回避的か?/内山太(p.73-84)

季刊セクシュアリティ [1](2001.01)

特集:10代の性はいま

279. 時代を切り拓く性教育へ:実践の質への問いかけを/浅井春夫(p.4-9)
280. 鼎談:10代の性は、いま/大治朋子,高橋裕子,村瀬幸浩(p.10-22)
281. 考察:10代の性と生/北村邦夫(p.24-30)
282. 児童ポルノと子ども的人権/中井良次(p.30-36)
283. 思春期の子どもと性被害/金子由美子(p.36-44)
284. 世界の10代と性的自己決定/平野裕二(p.44-50)
285. 現場からの報告:保健室から:10代の性行動は何を訴えているか/関川久美子(p.51-55)
286. 現場からの報告:家裁調査官から:性非行:ファンタジー、記憶のありよう、対人関係/桑原尚佐(p.56-60)
287. 現場からの報告:電話相談から:人間らしく生きたい!:子どもの心のなかを見る/難波一夫(p.61-67)
288. 現場からの報告:児童自立支援施設から:子どもたちの自立と共生をめざして/小村方正(p.68-74)
289. 現場からの報告:思春期外来から:基礎的性教育の必要性/堀口雅子(p.74-79)
290. 青少年とマスメディア:近年の青少年のメディアに触れる機会とその危険性/平野貴大,長岡豪,溝口啓介(p.80-86)
291. 原宿深訪/安達優雅子(p.86-90)
292. 同性愛って『フツーだよ』/尾辻かな子,杉山貴大,中村哉泰輔(p.90-93)
293. 親・教師・警察官からみた10代の性/小田切明德(p.94-98)
294. 実践:小学校:科学的知識を支えに:生殖としての性交を学ぶ/西村須美子(p.99-105)

295. 実践：中学校：「避妊と中絶」を自分のこととして考えよう：ロールプレイを通して自らの性のあり方を問う／樋上典子 (p.106-110)
296. 実践：高校：正しい情報を手元に：選択肢の一つとしてのピル／寺尾由美 (p.110-116)
297. 実践：障害児学校：卒業後の笑顔が見たいから：自己肯定感を育てる性教育をめざして／田中紀子 (p.116-121)
298. 子どもたちをとりまく消費文化：「SPEED」解散で考えた、子どもたちの心・からだ・性／藤田民生 (p.129-135)
299. 21世紀ジェンダー論(1)：自分の<ぎりぎり>と<たましい>を伝える教育へ／伊田広行 (p.140-143)
300. 日本的セクシュアリティ(1)：セクシュアリティは個性／大越愛子 (p.144-147)
301. データを読む：NHK「性についての実態調査」より／坂本玲子 (p.148-157)
302. 性的マイノリティ(1)：世紀末の大転換を受けて／小宮明彦 (p.158-161)
303. 日本の性教育の歩み(1)：第一次性教育ブーム1920～30年代(その1)／田代美江子 (p.162-165)
304. 知的障害と性：好きになることってムズカシイ／くろだのりこ (p.166-169)
305. 情報化社会と子どもの性(1)：Eメール／新井保 (p.170-173)
306. 海外情報：スウェーデンレポート(1)：10代の性のいま／ピヤネール多美子 (p.176-178)
307. 海外情報：フランスレポート(1)：思春期の若者たちの現在／小倉和子 (p.178-180)
308. 海外情報：SIECUS(アメリカ性情報・性教育評議会)レポート(1)：「ミフェプリストン(RU-486)」とは?／安日泰子 (p.180-183)
309. 海外情報：上海レポート(1)：上海の性教育：最近の事情／馬利中 (p.187-189)
310. (セクシュアリティに関する)ネットワーク (p.195-197)
- 季刊セクシュアリティ [2] (2001.04)
特集：“男らしさ”からの解放へ
311. 鼎談：共生をめぐる男の課題<暴力>を問う／草柳和之、丹藤弘子、村瀬幸浩 (p.6-15)
312. “見えない”男性問題の危機／重川治樹 (p.16-23)
313. 北欧男性会議で“男”は何を語ったか／橋本紀子 (p.24-31)
314. ED：男たちの苦悩／豊田正義 (p.32-39)
315. 現場からの報告：性のカウンセリング室を訪れる男たち：セックスカウンセリングから／渡辺景子 (p.40-43)
316. 現場からの報告：ドヤ街にみる男らしさの終末：ケースワーカーから／須藤八千代 (p.45-50)
317. 現場からの報告：いま学校で、“男らしさ”の呪縛は?：学校現場から／関口久志 (p.50-55)
318. バイアグラと男のセクシュアリティ：ファイザー社を訪ねて／原田瑠美子 (p.56-60)
319. 男性の性と夫婦関係：保健所の仕事を通して／高山富恵 (p.61-64)
320. ペニスは武器か?：包茎/露出茎観を問い直す/“人間と性”教育研究所LGBTユースサポートセンター (p.65-68)
321. 男の子に性の学習権を!／金子由美子 (p.69-72)
322. 実践・小学校：ジェンダーフリーな感性を子どもたちに／千北充範 (p.73-77)
323. 実践・中学校：男らしさ・女らしさって?：固定化された性別役割をえるために／高橋勳子 (p.78-83)
324. 実践・高校：ジェンダーフリーとセクシュアリティマイノリティ：TG教師が授業で自分を語る／宮崎瑠美子 (p.83-88)
325. 実践・障害児学校：父親像をとり込み立派な人間に：広達の葛藤／笠原恭子 (p.89-93)
326. 日本軍性奴隷を裁く「女性国際戦犯法廷」／高柳美知子 (p.94-95)
327. データを読む：『総理府 男女間における暴力に関する調査』／隠岐美智子 (p.105-113)
328. 21世紀のジェンダー論(2)：自分を振り返り、対案と構想をちゃんと示すジェンダー論へ／伊田広行 (p.118-121)
329. 日本的セクシュアリティ(2)：“日本的セクシュアリティ”は裁かれた／大越愛子 (p.122-125)
330. 性的マイノリティ(2)：“自己開示”をめぐる／小宮明彦 (p.126-129)
331. 日本の性教育の歩み(2)：第一次性教育ブーム 1920～30年代(その2)／田代美江子 (p.130-133)
332. 知的障害と性：仲間だからこそ話し合い／くろだのりこ (p.134-137)
333. 情報化社会と子どもの性：アダルトサイトとジャパンアニメ／新井保 (p.138-141)
334. 中国北京市の学校性教育：現状と課題／高德偉；曹陽訳 (p.142-146)
335. 概論：日本のポピュラー音楽と女性ミュージシャン／華山弘泰 (p.147-151)
336. 海外情報：スウェーデンレポート(2)：男のセクシュアリティ／ピヤネール多美子 (p.152-155)
337. 海外情報：フランスレポート(2)：現代社会の中性化／小倉和子 (p.155-157)
338. 海外情報：アメリカレポート(2)：グッド ニュース アンド バッド ニュース／安日泰子 (p.158-160)
339. 海外情報：タイレポート(2)：男のセクシュアリティ／長澤勲 (p.161-164)
340. 海外情報：上海レポート(2)：上海の出稼ぎ者たちの避妊現状／馬利中 (p.164-166)
341. 性と健康を考える女性専門家の会 (p.172)
342. FGM廃絶を支援する女たちの会 (p.172-173)
343. 広島エイズダイアル (p.173)
- 季刊セクシュアリティ [3] (2001.07)
特集：子どもの育ちと性・ジェンダー
344. ジェンダー再生産のメカニズム：形式的な機会均等からの脱却／朴木佳緒留 (p.20-26)
345. 性・ジェンダーのあり方と暮らし方の選択：「事実婚」者の子どもの育ち／木全和巳 (p.27-34)
346. 性の自己決定能力獲得の課題：性とジェンダーの学習

- こそ / 浅野富美枝 (p.35-41)
347. 現場からの報告：子どもは大人の社会を写す鏡：保育園から / 谷口昌子 (p.42-47)
348. 現場からの報告：「母親ロボット」から「潤いあるオンナ」へ：母親たちのセルフサポートグループから / 福井和恵 (p.47-51)
349. 現場からの報告：願わくは今の関係のまま..：子を持つ障害者の会から / 今田裕子 (p.52-57)
350. これでいいの？ 校歌の歌詞は：校歌のジェンダーチェック / 中村富美子 (p.58-60)
351. 男の育ちと包茎の悩み：岩室伸也さんをたずねる / 中野久恵 (p.61-65)
352. 子どもとともに学ぶジェンダー / 佐藤晴世 (p.65-69)
353. “ななめ読み” から見る：絵本の中の男の子、女の子 / 橋本明子 (p.69-73)
354. 実践・小学校：「男らしさ・女らしさ」そして「自分らしく」 / 木村せい子 (p.74-79)
355. 実践・助産婦として：小学校の性教育に参加して / 坂本深雪 (p.79-84)
356. 実践・障害児学校：ふれあう性教育を求めて：子どもたちの意識を育むために / 溝上浩司 (p.85-90)
357. 実践・児童養護施設：児童養護施設におけるジェンダー / 太田敬志 (p.90-94)
358. データを読む：ジェンダー意識に関する調査 / 高橋裕子 (p.105-115)
359. 「性的少数者」という視点 / 都築正実 (p.116-119)
360. 21世紀のジェンダー論(3)：ジェンダー平等をいうなら、二者排他的恋愛観・結婚観の見直しを！ / 伊田広行 (p.124-127)
361. 日本のセクシュアリティ(3)：“女性の性的自由”の主張 / 大越愛子 (p.128-131)
362. 性的マイノリティ(3)：(隠れた)カリキュラムの中の異性愛主義 / 小宮明彦 (p.132-135)
363. 日本の性教育の歩み(3)：第一次性教育ブーム：1920～30年代(その3) / 田代美江子 (p.136-139)
364. 知的障害と性 / くるだのりこ (p.140-143)
365. 情報化社会と子どもの性(3)：出会いを求めて / 新井保 (p.144-147)
366. 海外情報：スウェーデンレポート(3)：子育ての中の性 / ビヤネール多美子 (p.148-152)
367. 海外情報：フランスレポート(3)：フランスの中高生たち：その感情生活と進路 / 小倉和子 (p.152-154)
368. 海外情報：アメリカレポート(3)：禁欲(abstinence)教育vs性教育 / 安日泰子 (p.155-157)
369. 海外情報：タイレポート(3)：エイズから見えてくるジェンダーとしての課題 / 長澤勲 (p.158-162)
370. 海外情報：上海レポート(3)：上海大学生のセクシュアリティ / 馬利中 (p.163-165)
371. Network：かけこみ女性センターあいち：人種アクティビストの会：HAPPY SWING (p.172-173)

教育学研究室紀要 [3] (2000.03)

372. フィンランドの両性平等の現段階と教育訓練 / 橋本紀子 (p.2-25)
373. 戦後改革期における「純潔教育」 / 田代美江子 (p.26-

38)

374. マラウイのAIDS孤児に関する調査研究 / 松井幾子 (p.53-73)
375. 尿失禁に関する研究動向：1980年～1990年代を中心に / 河内美江 (p.74-88)

教育と医学 [47-8] (1999.08)

特集：働くお母さん

376. 「働くお母さん」という言葉の意味するもの / 池田祥子 (p.4-11)
377. 働く女性の妊娠・出産 / 中西由里 (p.12-19)
378. お母さんが働き続けるために / 中島通子 (p.20-27)
379. 働く女性のストレスと健康 / 郷久誠二 (p.28-36)
380. 働くお母さんと子育て / 武田京子 (p.37-43)
381. 働くお母さんを支援するネットワーク作り / 星一郎 (p.44-50)
382. インターネット駆け込み寺：「ワーキング・マザーのなんでも相談室」 / 内田宏子 (p.52-57)
383. 体験から：教師として母として / 水戸貴志代 (p.58-63)
384. 体験から：看護婦として母として / 藤井淳子 (p.63-67)

教育と医学 [49 2] (2001.02)

特集：爆発してしまう若者

385. 犯罪の世界から見る / 麦島文夫 (p.4-11)
386. 少年非行の変遷 / 青木信人 (p.12-19)
387. 「切れる」若者たち：家庭内暴力について / 野邑健二、本城秀次 (p.20-26)
388. 校内暴力、いじめを考える / 八木澤俊孝 (p.27-32)
389. 少女売春は何を意味するか / 藤岡淳子 (p.33-39)
390. 薬物非行が提起するもの / 村松励 (p.40-46)
391. 境界型人格障害への対応：精神科医の視点から / 澤原光彦 (p.48-55)
392. 少年法をめぐって / 守屋克彦 (p.56-63)
393. 個性という病：少年犯罪の爆発化が意味するもの / 土井隆義 (p.64-74)

教育と医学 [49-4] (2001.04)

特集：子どもへの虐待を防ぐ

394. 子どもへの虐待は防げるのか / 村瀬嘉代子 (p.4-11)
395. わが国の子どもへの虐待の実態 / 谷村雅子 (p.12-18)
396. わが国の子どもへの虐待の問題点 / 萩原玉味 (p.19-27)
397. 子どもを虐待する親と家族 / 藤田君支、松岡緑 (p.28-35)
398. なぜ子どもは親から虐待されるのか / 稲垣由子 (p.36-42)
399. 護られているという実感の薄い子どもへの心理的サポート / 香川克 (p.43-49)
400. 虐待を受けた子どもへの医療的サポート / 大久保修 (p.50-56)
401. 虐待を受けた子どもへの法的サポート / 泉薫 (p.57-62)
402. 民話・児童文学から学ぶ虐待 / 松井一郎 (p.63-69)
403. 個性化という病：少年犯罪の爆発化が意味するもの / 土井隆義 (p.84-97)

京都婦研連だより [64] (2001.02)

404. 20世紀科学技術の発展は女性のライフサイクルをどう変えたか / 宇野賀津子 (p.12-15)

くらしと教育をつなぐWe [9-10] (2001.02+03)

特集：境界を生きる

405. 聞き語り：いのちの母国を探し続けて：森崎和江さん / 森純玉 (p.2-17)

406. 家事神話 女性の貧困のかけにあるもの(18)：シビル・ミニマムの喪失 / 竹信三恵子 (p.39-42)

407. 新米議員のジェンダー議事録(8)：男性だけのディベート「男女共同参画」 / 木村民子 (p.46-47)

408. ひげのおばさん子育て日記(10)：パラリンピック / 中畝常雄 (p.48-49)

くらしと教育をつなぐWe [10-1] (2001.04)

特集：「いじめ」に立ち向かう

409. インタビュー：いじめ少年犯罪に宣戦布告：自分を守る闘い方。木村浩一郎さん (p.2-12)

410. ノルウェーにおけるDV対策：アラームプロジェクトを中心に / 青木順子 (p.13-19)

特集：女と男の家庭科新時代

411. 高等教育における人材教育教材の開発(1)：生徒と教師のエンパワーメントを目指して / 藤井徳子 (p.20-26)

412. 曲がり角の家庭科(6)：新学習指導要領を読み解く(5) / 梶原公子 (p.33-38)

413. 家事神話：女性の貧困のかけにあるもの(19)：「評価」の始まり / 竹信三恵子 (p.40-43)

414. 新米議員のジェンダー議事録(9)：歯が立たない議会の掟 / 木村民子 (p.44-45)

415. ひげのおばさん子育て日記(11)：敵に塩を送る / 中畝常雄 (p.48-49)

416. 終幕(17)：アジアを着る(3) / 水田宗子 (p.60-61)

くらしと教育をつなぐWe [10-2] (2001.05)

特集：ジェンダーの視点から「働くこと」を考える2

417. シンポジウム記録：オランダ型ワークシェアリングは男を変えるか!? / 竹信三恵子[ほか] (p.2-29)

418. 曲がり角の家庭科(7)：家庭科教育の幻想(1) / 梶原公子 (p.34-39)

419. 家事神話 女性の貧困のかけにあるもの(20)：「嫁」の契約書(上) / 竹信三恵子 (p.42-45)

420. 新米議員のジェンダー議事録(10)：春風に乗って、女性立つ / 木村民子 (p.46-47)

421. ひげのおばさん子育て日記(12)：自分で決める / 中畝常雄, 中畝治子 (p.50-51)

422. 終幕(18)：アジアを着る(4) / 水田宗子 (p.61-63)

くらしと教育をつなぐWe [10-3] (2001.06)

特集：「働き方」の発想を変える

423. インタビュー「スローワーク」を創り出す：「福祉コンビニ」のコンセプトは「家族を開く」：二神能基さん / 稲邑恭子 (p.2-15)

424. ワーク/ライフバランスを考える：仕事と私生活の「バランス」という視点が働き方を変える / バク・ジョアン・スックチャ (p.16-24)

425. 曲がり角の家庭科(8)：家庭科教育の幻想(2) / 梶原公子 (p.30-35)

426. 家事神話：女性の貧困のかけにあるもの(21)：「嫁」の契約書(中) / 竹信三恵子 (p.38-41)

427. 新米議員のジェンダー議事録(11)：党を変色させた小泉首相、本当は何色? / 木村民子 (p.42-43)

428. ひげのおばさん子育て日記(13)：料理当番 / 中畝常雄, 中畝治子 (p.46-47)

429. 終幕(19)：アジアを着る(5) / 水田宗子 (p.57-59)

くらしと教育をつなぐWe [10-4] (2001.07)

特集：暴力から身を守る

430. インタビュー：自分を信じる・自分で守る：自覚安全術・ラカス：内川由子さん / 大沼もと子 (p.2-16)

431. 「痴漢犯罪NO! 鉄道利用者の会」の活動から / 石橋英子 (p.17-23)

432. 曲がり角の家庭科(9)：家庭科教育の幻想(3) / 梶原公子 (p.30-36)

433. 家事神話 女性の貧困のかけにあるもの(22)：「嫁」の契約書(下) / 竹信三恵子 (p.40-43)

434. 新米議員のジェンダー議事録(12)：ジェンダー・フリーは幼児の性教育から / 木村民子 (p.44-45)

435. ひげおばさん子育て日記(14)：迷惑をかける / 中畝常雄, 中畝治子 (p.48-49)

436. 終幕(21)：アジアを着る(7) / 水田宗子 (p.59-61)

月刊家庭科研究 [195] (2001.03)

437. 小学校実践：「家族」学習・新聞づくりとM君 / 沢田悦子 (p.40-47)

438. 憲法違反・侵略戦争肯定の「あぶない教科書」：新しい教科書をつくる会の動向 / 依義文 (p.68-69)

月刊家庭科研究 [196] (2001.04)

特集：少年法と子どもの人権

439. 「改正」少年法と子どもの人権 / 井上博道 (p.4-9)

440. 少年事件 報道と法「改正」：子どもの人権はどう守られるべきか / 山口正紀 (p.10-15)

441. 少年法改正に関する資料 (p.32-36)

442. 21世紀に輝け第9条：2001年を「女性の憲法年」に / 中嶋晴代 (p.68-69)

月刊家庭科研究 [200] (2001.08)

443. 子ども・青年のありのままの姿からはじめよう：「若い」を学ぶ / 井深祥子 (p.30-34)

月刊公民館 [524] (2001.01)

特集：地域活動と成人男性

444. 公民館における成人男性の事業の課題 / 蛭田道春 (p.4-10)

445. 参考データ：社会意識に関する世論調査：地域社会におけるボランティア活動調査：サラリーマンの生活と

生きがい調査：生きがいを感じる時 (p.19-24)

月刊公民館 [526] (2001.03)

特集：パソコンボランティア

446. 公民館での「パソコン・インターネット」の活用と「ボランティア活動」/岡本薫 (p.4-8)

447. 参考データ：1パソコンの普及 2わが国におけるインターネットの普及状況 3生活における情報通信メディアの重要度 4コンピュータの利用 5公立学校のインターネット接続状況 6高齢者・障害者の情報通信利用 (p.21-24)

448. 公民館企画Q&A：男女共同参画学習編：ジェンダー/原義彦 (p.26-29)

月刊公民館 [527] (2001.04)

449. 公民館企画Q&A(13)：男女共同参画編：エンパワーメント・女性への支援/山本慶裕 (p.28-29)

月刊公民館 [528] (2001.05)

450. 参考データ：ITと公民館 (p.24-27)

451. 公民館企画Q&A(14)：男女共同参画学習編：セクハラを防ぐ/原義彦 (p.28-31)

月刊公民館 [529] (2001.06)

452. 公民館企画Q&A(15)：男女共同参画学習編：男らしさとはメンズリブ/豊田正義 (p.25-28)

453. 公民館奮闘記(1)：新しい自分の発見! 女性セミナーの取り組み(長野県)：飯山市公民館/丸山幸子 (p.31-35)

月刊公民館 [530] (2001.07)

454. 公民館企画Q&A(16)：男女共同参画学習編：ドメスティック・バイオレンス/戒能民江 (p.22-25)

月刊社会教育 [45-3] (2001.03)

455. 「女性国際戦犯法廷」傍聴記：戦時性暴力犯罪を断ち切るために世界の女性たちが立ち上がった/野々村恵子[ほか] (p.80-83)

月刊社会教育 [45-4] (2001.04)

456. 「社会教育と現代教育改革の論点」(3)：子育て・ジェンダーと社会教育：子育て・地域・大学と社会教育の視点から：「共同学習」の原理の再発見/山本健慈 (p.60-66)

457. 「社会教育と現代教育改革の論点」(3)：子育て・ジェンダーと社会教育：ジェンダーと社会教育/井上恵美子 (p.67-72)

月刊社会教育 [45-5] (2001.05)

458. 集会報告：ベアテさんの講演・横井久美子さんの歌とトーク/堀美保子 (p.84-85)

月刊社会教育 [45-6] (2001.06)

特集：未来に生かす教育基本法

459. 子どもの平和を守ってあゆみつづけた母親運動/木村康子 (p.18-23)

月刊女性&運動 [222] (2001.02)

特集：生かそう 子どもの権利条約

460. インタビュー：子どもの話をよく聞けるおとなに：三好洋子さん (p.4-7)

461. 主役は子どもたちに!!：「ゆう杉並」のとりにくみ (p.12-15)

462. 子どもの権利条約はいま/三宅良子 (p.28-31)

463. 草の根の女たちのあゆみ(19)：小児マヒから子どもを守った母親たち(青森県)/折井美耶子 (p.33-35)

464. 「男女差別は違法」の判決勝ちとった/高部由美子 (p.36-37)

465. 「『おかしいな』と感じる女性蔑視の慣習や地域の問題の調査」の結果について：公役・尻助金、足入れ婚など/新日本婦人の会 (p.42-49)

月刊女性&運動 [223] (2001.03)

466. 草の根の女たちのあゆみ(20)：胸にたぎる同じねがいに：新日本婦人の会結成/折井美耶子 (p.37-39)

467. 従軍「慰安婦」問題の一刻も早い解決を：日本軍性奴隷制を裁く2000年「女性国際戦犯法廷」：検事国およびアジア太平洋地域の人々 対 天皇裕仁ほか、および日本政府認定の概要/VAWW-NET JAPAN訳 (p.46-51)

月刊女性&運動 [224] (2001.04)

468. 榎田ふきさんを偲ぶ：「“生きることは行動すること” - らいてうからのバトンを頼んだよ」(p.4-7)

特集：くらし守る緊急要求

469. 子育て支援いそいで：乳幼児医療無料制度の国での実現を、アレルギー性疾患の負担軽減・学校指定病に、保育所待機児の解消を (p.10-17)

470. 賃金とは何か、なぜ男女格差があるのか：女性労働者の賃金と働く条件改善/齋藤秀吉 (p.30-33)

471. 第88回ILO総会で採択された条約：女性労働者の賃金と働く条件改善 (p.34-35)

472. オランダ人の働き方：女性労働者の賃金と働く条件改善/角橋佐智子 (p.36-37)

473. 私の、家族の9月のサービス残業いっせい調査の結果について(2001年3月)/新日本婦人の会 (p.58-50)

月刊女性&運動 [225] (2001.05)

474. インタビュー：長いスタンスで流れをみきわめたい：本田和子さん(お茶の水女子大学学長) (p.4-7)

475. 【アピール】21世紀に輝け9条：2001年を「女性の憲法年」に/21世紀に輝け9条女性の憲法年連絡会 (p.8-9)

476. 日本国憲法への思い：海外からのメッセージ/ベアテ・シロタ・ゴードン、チャールズ・オーバピー (p.10-11)

477. 女性の憲法年/草の実会・憲法研究グループ[ほか] (p.12-19)

478. 女性の憲法年：9条から人権が見える憲法の構造/小林武 (p.20-22)

479. 女性の憲法年：あぶない教科書にNOを!：“新しい歴史教科書をつくる会”は「戦争ができる国」をめざしている / 依義文 (p.24-27)
480. 今なお輝きつづける女性たち(1)：らいてうと私 / 青木生子[ほか] (p.34-39)
481. 思春期を生きる(8)：砂漠の中でも花は咲くよ / 能重真作 (p.40-41)

月刊女性&運動 [226](2001.06)

482. インタビュー：“なんでもあり”でいいんじゃない?：マルチ・アーティストまどかまるこさん (p.4-7)
483. 資料：目でみる各政党の態度 (p.28-33)
484. 今なお輝きつづける女性たち(2)：平塚らいてう / 小林登美枝 (p.50-51)

月刊女性&運動 [227](2001.07)

485. 「憲法守れ!、核・基地ノー」の世論と運動：21世紀に輝け9条「女性の憲法年」よびかけ人・賛同人一覧 (p.24)
486. 今なお輝きつづける女性たち(3)：いわさきちひろ / 松本由理子 (p.36-37)
487. 女性2000年会議「成果文書」をどう見るか / 新日本婦人の会 (p.58-49)

月刊女性情報 [178](2001.01)

488. 女たちの2000年：2000年の受賞・訃報一覧 (p.68-75)

月刊女性情報 [179](2001.02)

489. セクシュアル・ハラスメント (p.40-51)
490. ドメスティック・バイオレンス：2年間の動き / 裁判 / 事件 / DV防止法案骨子(案)の概要 / DVシェルター・相談先リスト (p.52-66)

月刊女性情報 [180](2001.03)

491. 国・自治体の女性政策：男女共同参画条例・各自治体の動き (p.24-26)
492. 2000年度男女共同参画宣言都市奨励事業実施要綱 (p.27)
493. 都道府県、市区町の男女共同参画計画 (p.28-53)
494. 資料編：男女共同参画基本計画体系図 / 内閣府男女共同参画局 (p.54-58)

月刊女性情報 [181](2001.04)

495. 2000年度版女たちの裁判簿(上)：新聞記事に見る女性がかかわる裁判：性犯罪・子どもへの虐待 (p.56-71)
496. 資料：DV法：配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (p.72-75)
497. 資料：2001(平成13)年度国の女性関係予算案 (p.76-80)

月刊女性情報 [182](2001.05)

498. 2000年度版女たちの裁判簿(下)：女性に関わる裁判の概要(2000年度)：労働問題・医療問題・ライフスタイル関連 (p.36-53)
499. 各政党の女性政策 (p.54-63)

月刊女性情報 [183](2001.06)

500. 2001年度全国大学・短大の女性学講座一覧(上)：私立大学4年制編 (p.12-53)

現代思想 [29-2](2001.02)

- 特集：ブルーデュー：文化的抵抗の戦略
501. 美術館と教養 / 山下雅之 (p.176-188)

現代思想 [29-4](2001.03)

- 特集：中華世界の行方
502. グローバル化とマイノリティ化：李安と柔軟性の政治 / 史書美；饒田竜蔵訳 (p.93-115)
503. 1989年以後の芸術映画における栄光と転落 / 戴錦華；阿部範之訳 (p.116-123)
504. グローバリゼーション、中国、国際フェミニズム / タニ・E・パーロウ；河村昌子訳 (p.124-129)

現代思想 [29-5](2001.04)

- 特集：ロボット：身体性の冒険
505. 狂気時計 / サドッホ[ほか] (p.202-231)

現代思想 [29-6](2001.05)

- 特集：フェミニズムは終わらない
506. 討議：グローバリゼーションとフェミニズム / 江原由美子, 足立真理子, 松原洋子 (p.62-82)
507. 生殖技術の未来 / 柘植あづみ (p.83-93)
508. 零度の歴史 / タニ・パーロウ；丹羽敦子訳 (p.94-118)
509. 歴史と文学との邂逅：学問分野と研究実践をめぐる対話：タニ・パーロウ「零度の歴史」への応答 / 竹村和子 (p.120-135)
510. 物語りは、どこまで真実を語るのか：ハンナ・アーレントにおける個人的なるもの、政治的なるもの、そして、その現代的意義 / リサ・ディッシュ；白井由紀子, 岡野八代訳 (p.136-143)
511. 失われた声を求めて / 中尾知代 (p.144-167)
512. 証言と証言者 / 戴錦華；村井寛志訳 (p.168-175)
513. シアター、パフォーマンスとジェンダー：第3回アジア女性演劇会議に参加して / 池内靖子 (p.176-191)
514. 韓国近代化プロジェクトの文化理論と家父長性 / キム・ウンシル；中野宣子訳 (p.192-205)
515. 女性国際戦犯法廷が乗り越えたものと乗り越えなかったもの / 金富子 (p.206-215)
516. 遅れる正義、暴力のあとで / 岡野八代 (p.216-229)
517. 正月新聞に見る<天皇ご一家>像の形成と表象 / 北原恵 (p.230-254)
518. なぜ女? なぜアジア? / 嶋田美子 (p.255-261)
519. 女語りの迷宮へ：ラップ・ミュージックと性的自己表現の不安 / 新田啓子 (p.262-277)

現代思想 [29-7](2001.06)

- 特集：恐怖の政治学：操作される不安
520. 消費社会における恐怖の活用 / 渋谷望 (p.64-67)
521. 恐怖力 / 矢部史郎, 山の手緑 (p.77-83)
522. ファンタスティック映画の時間戦争：近代性と前近代性 / 金素榮；藤井たけし訳 (p.158-168)
523. 「人間の安全保障」という逆説：<恐怖からの自由>と<他者への恐怖> / 土佐弘之 (p.170-185)

現代思想 [29-8] (2001.07)

524. 帝国：「長い21世紀」におけるボーダー/ボディ・ポリティクス：ホモソーシャルな現実主義<男の帝国>の逆襲 / 土佐弘之 (p.208-229)

現代思想 [29-9] (2001.07)

特集：戦後東アジアとアメリカの存在<ポストコロニアル状況>を東アジアで考える

525. 「アメリカ」を欲望/忘却する戦後：「基地」と「消費」の屈折をめぐる / 吉見俊哉 (p.44-63)
526. 共感の共同体と空想の実践系：東アジアにおけるアメリカ合衆国の存在をめぐる / 酒井直樹 (p.213-237)
527. 「複数のカテゴリーの輻輳」はあったか / 金富子 (p.256-259)
528. 1990年代に関わる断章：植民地支配責任の「弁済」という問題 / 太田昌国 (p.268-271)
529. 戦後を問うということ：「責任」への問い、「主体」への問い / 中野敏男 (p.291-309)

現代性教育研究月報 [19-2] (2001.02)

530. 「21世紀の日本とエイズ」エイズ学会緊急レポート!：今こそ実効あるエイズ・性教育を / 宇野賀津子 (p.1-5)
531. 性についての総合学習<横断的・総合的な学習の在り方>：学習の成果を交流しあおう / 杉浦浩一 (p.6-12)
532. 岡山発：出前性教育講座の試み(9)：課題は大人の「性教育力」アップ! / 市場尚文 (p.13)

現代性教育研究月報 [19-3] (2001.03)

533. 座談会：小・中・高の養護教諭が語る：幼児期を満喫できなかった子どもたち (p.1-7)
534. 実践報告 高等学校：文化祭大賞受賞作品は『ニン・シ・ン狂騒曲』 / 柴崎由美子 (p.8-11)
535. 岡山発 出前性教育講座の試み：これからの性教育：ジェンダーフリーの性教育 / 市場尚 (p.12)

現代性教育研究月報 [19-4] (2001.04)

536. 21世紀と性(1)：「性別の決定」はいかになされるか：インターセックスと性同一性障害 / 針間克己 (p.1-5)
537. ビル発売から1年半、その後の状況 / 北村邦夫 (p.6-10)
538. 岡山発：出前性教育講座の試み：生徒たちは待っている! / 市場尚文 (p.12-13)

現代性教育研究月報 [19-5] (2001.05)

539. 子どもへの性的虐待を防ぐために / 田上時子 (p.1-5)
540. 21世紀と性(2)：インターネットと性情報：サイバーポルノの刑法解釈論 / 園田寿 (p.6-9)
541. 保健室と子どもたち(1)：中学校：30年間に見る中学生の変化 (p.10)
542. 「セックス・イン・スウェーデン」：スウェーデン国立公衆衛生院1997年性行動調査報告 / 鍛冶良実 (p.12-13)

現代のエスプリ [404] (2001.03)

特集：遺伝カウンセリング

543. 日米における遺伝カウンセリング：日本における遺伝

カウンセリング：出生前診断での役割 / 三春範夫 (p.42-58)

544. 臨床における遺伝カウンセリングの役割：周産期と遺伝カウンセリング / 宗田聡 (p.98-110)
545. 遺伝カウンセリングに伴う心理的問題：小児科領域の遺伝カウンセリング / 千代豪昭 (p.147-160)
546. 遺伝カウンセリングに伴う心理的問題：遺伝子検査における心理的・倫理的問題 / K・キャッシュ；福西勇夫訳 (p.161-172)

現代のエスプリ [405] (2001.04)

547. 座談会：携帯電話と社会生活 / 藤竹暁[ほか] (p.5-33)

特集：携帯電話と社会生活

548. 携帯・自動車電話とコミュニケーション空間の変容 / 川浦泰至 (p.34-45)
549. 携帯電話の普及過程と社会的意味 / 中村功 (p.46-57)
550. 電話からインターネットへ：だれでも使えるiモード / 松永真理 (p.58-62)
551. マルチメディアとしての携帯電話 / 岡田朋之 (p.63-73)
552. 携帯電話にみる現代の人間関係 / 渋谷昌三 (p.74-84)
553. 若者の携帯電話行動 / 吉井博明 (p.85-95)
554. 携帯電話のマナーに在る公私のゆらぎ / 三上俊治 (p.96-105)
555. リモコンママの携帯電話：女性が携帯電話と出会うとき / ラナ・F.ラコウ、ヴィージャ・ナバロ；松田美佐訳 (p.106-125)
556. パーソナルフォン、モバイルフォン、プライベートフォン：ライフステージによる携帯電話利用の差異 / 松田美佐 (p.126-138)
557. 若者の言語行動と携帯電話 / 荻野綱男 (p.139-153)
558. 「人工物」としての携帯電話 / 溝渕佐知 (p.154-164)
559. ケータイの社会風俗史 / 山田隆 (p.165-179)
560. 海外の携帯電話事情 / 北村順生 (p.180-192)

現代のエスプリ [406] (2001.05)

特集：学校選択を考える

561. それぞれの立場からみた学校選択：親と学校選択 / 西本貴子 (p.132-140)

現代のエスプリ [407] (2001.06)

特集：学校心理臨床と家族支援

562. 児童虐待問題を抱えた学校への心理的支援 / 三沢直子 (p.82-91)
563. 家族崩壊の現状：非行臨床の視点から / 生島浩 (p.113-121)
564. 夫婦関係の病理 / 中釜洋子 (p.122-130)
565. 親子関係の病理：教師・スクールカウンセラーに持って欲しい基本的視点 / 園田雅代 (p.131-141)
566. 再婚家庭の病理 / 佐藤悦子 (p.142-150)
567. 家族支援センターとしてのカウンセリングルーム / 亀口憲治、遠山千恵子 (p.186-193)
568. 学校における保護者の心理的支援：カウンセラー・教師・保護者の連携 / 堀田香織 (p.194-201)
569. 家族機能活性化プログラムを用いた連携の促進 / 亀口憲治、市川雅美 (p.202-211)

現代のエスプリ [408] (2001.07)

特集：21世紀の子育てのあり方

< 日本の子育ての現状と課題 >

570. 少子化問題 / 鈴木りえこ (p.20-30)
571. 母親の育児不安 / 今泉岳雄 (p.31-39)
572. 父親不在の問題 / 中村正 (p.40-48)
573. 家族の呻き：児童虐待の急増とその背景 / 秋山正弘 (p.49-57)
- < 「女性の自立」と「母親」のはざままで-現状と課題 >
574. 「主婦の保護」から「子育て支援」へ：ライフスタイルの変遷と社会保障 / 椋野美智子 (p.58-68)
575. リプロダクティブ・ヘルス・ライツの視点から / 早乙女智子 (p.69-76)
576. 働く女性の問題 / 普光院亜紀 (p.77-86)
577. 企業としての取り組み / 河原畑剛 (p.87-92)
- < 21世紀の子育て支援に求められるもの - 現在の取り組みと展望 >
578. これからの総合的な子育て支援について考える / 蒲原基道 (p.93-100)
579. ボランティアの地域活動の取り組み / 辻本みゆき (p.101-108)
580. 保健婦の取り組み / 中澤恵子 (p.119-124)
581. 街の中の子育てひろば：江東区子ども家庭支援センター「みずべ」の実践 / 新澤誠治 (p.125-133)
582. 育児支援へ企業の取り組み / 西本則子 (p.134-142)
583. 多世代社会の子育て支援の可能性：老人ホーム・生協・病院・少年院から「子育て」を観る / 多田千尋 (p.149-154)
584. 子ども劇場としての取り組み / 福田房枝 (p.156-161)
585. 高齢者の子育て支援 / 町野美和 (p.162-167)
586. 専業主婦の自己実現の場をどう作るか / 杉山千佳 (p.168-173)
587. アメリカの子育ての実情 / 萩原久美子 (p.174-178)
588. カナダの子育て支援から学ぶ / 伊志嶺美津子 (p.179-184)
- < 21世紀の子育てと家族、社会 >
589. 少子化時代の仕事と家庭のあり方 / 八代尚宏 (p.185-193)
590. 個人がのびやかに生きる社会に：子育てから新たなコミュニティづくりを / 田中文字子 (p.194-203)

現代のエスプリ [409] (2001.08)

特集：臨床・思春期保健

591. 思春期保健：リプロダクティブ・ヘルスの立場から / 松本清一 (p.8-16)
592. 思春期と産婦人科 / 黒島淳子 (p.53-59)
593. 思春期と泌尿器科：泌尿器科医から見た思春期の悩みとその解決法 / 岩室紳也 (p.60-68)
594. 思春期と心療内科 / 森崇 (p.69-75)
595. 思春期と小児科・内科 / 高瀬義昌 (p.76-84)
596. 思春期の生活習慣病 / 村田光範 (p.85-90)
597. 思春期と精神科 / 中島聡美 (p.91-98)
598. 思春期外来 / 北村邦夫 (p.137-144)
599. 思春期と「心理学」：どう理解するか / 福富護 (p.152-159)
600. 思春期とカウンセリング：話し合いの落とし穴 / 蓮見将

敏 (p.160-167)

601. 思春期とインターネット / 田村毅 (p.174-181)
602. 思春期の情報とメディアコミュニケーション / 武田敏 (p.182-190)
603. 思春期におけるピアカウンセリング / 高村寿子 (p.191-197)
604. 思春期における地域のネットワーク / 長池博子 (p.198-203)

現代のエスプリ別冊 (2001.02.10)

特集：ベビーホテル

605. 座談会：ベビーホテル問題の今と過去：何が課題なのか / 堂本暁子[ほか] (p.9-34)

< ベビーホテルと保育制度 >

606. 高度経済成長と硬直化した保育制度の狭間に咲いた“あだ花”ベビーホテル / 堂本暁子 (p.35-50)
607. 第二次ベビーホテル問題：神奈川県大和市の事件から / 杉山千佳 (p.51-66)
608. ベビーホテル問題と認可保育所：その背景と課題 / 桜井慶一 (p.67-80)
- < ベビーホテルとその保育の諸問題 >
609. ベビーホテルの保育特徴とその利用者 / 村井美紀 (p.81-89)
610. 地方大都市にみるベビーホテル利用者の状況：北九州市の虐待事例を中心に / 河嶋静代 (p.90-105)
611. ベビーホテルで働く保育士とその労働：保育士の過労自殺事件から / 望月彰 (p.106-115)
612. ベビーホテルから来た子どもたち / 金子玲子 (p.116-128)
613. ベビーホテルと公的保育を受ける権利 / 田村和之 (p.129-137)
614. 夜間保育の子どもの発達への影響と今後の課題：実態調査結果に焦点を当てて / 安梅勅江 (p.138-154)
- < ベビーホテル問題と関連機関・施設 >
615. ベビーホテルと夜間保育所 / 天久薫 (p.155-168)
616. ベビーホテルと児童養護施設・乳児院：<被虐待児>の温床に対する感度の鈍さは[措置費制度]の欠陥? / 金戸述 (p.169-180)
617. ベビーホテルと児童相談所・福祉事務所 / 山縣文治 (p.181-192)

< ベビーホテルと育児産業 >

618. ベビーホテルと育児産業論 / 森田明美 (p.193-205)
619. ベビーホテルとベビーシッター事業 / 福川須美 (p.207-219)
620. 子育てセンター“ベビーハウス24”(緊急一時保育所)：「ベビーホテル」の10年 / 岸和田かおり (p.220-233)
621. 参考資料：ベビーホテル年表 / 今泉利 (p.235-255)

国際女性 [14] (2000.12)

622. 第4回赤松良子賞：三隅佳子さんへ (p.5-6)
623. 講演：女性差別撤廃条約と女性の人権保障のグローバルな課題 / イヴァンカ・コルティ；飯島松美訳[ほか] (p.7-11)

624. 第54回国連総会第三委員会報告 / 西立野園子(p.12-14)
 625. 第44回国連婦人の地位委員会: 国連特別総会「女性2000年会議」準備委員会報告 / 目黒依子 (p.15-17)
 626. 第22・23回女子差別撤廃委員会の報告 / 多谷千香子 (p.18-22)
 627. 女性差別撤廃委員会(CEDAW)第21・22・23会期の活動について / 山下由紀子 (p.23-27)
 628. 女性差別撤廃条約・選択議定書締約国: レポート提出・審議状況一覧 / 山下威士, 山下泰子 (p.28-35)
 629. CEDAW第21会期および第22会期における各国レポート審議概要: 国連報告書の抄訳 / 編集委員会訳 (p.36-72)
 630. 女性差別撤廃条約選択議定書の採択後の状況 / 山下泰子 (p.73-81)
 631. 第15回IWRAP年次会合報告: 『女性差別撤廃条約』と北京行動綱領 / 石崎節子 (p.85-86)
 632. IWRAP Asia Pacific ワークショップ報告 / 山下由紀子 (p.87-89)

特集: 国連女性2000年会議

633. 女性2000年会議と成果文書 / 橋本ヒロ子 (p.90-93)
 634. 第23回国連特別総会『2000年会議』傍聴報告 / 田中恭子, 近江美保 (p.93-96)
 635. 後戻りしない: 国連特別総会について / 石川雅恵 (p.96-99)
 636. 国際女性の地位協会ワークショップ報告 / 研究・企画委員会+国際委員会 (p.100-105)
 637. 資料: 「アジアの女性と女性差別撤廃条約」アンケート: モンゴルからの回答 / 田中恭子 (p.106-111)
 638. NGOワークショップ報告 / 堀口悦子[ほか](p.112-126)

特集: いま、女性の権利は

639. 女性に対する暴力: DV立法における「保護命令」の議論をめぐって / 大脇雅子 (p.127-134)
 640. 年金改革の課題 / 塩田咲子 (p.135-139)
 641. 雇用差別裁判の現状 / 林弘子 (p.140-146)
 642. 間接性差別とは何か / 浅倉むつ子 (p.147-150)
 643. アンパイドワークをめぐる国際的NGO活動と国連: 国際女性カウネットネットワーク(IWCN)の運動の軌跡から / 加藤登紀子 (p.151-154)
 644. フランスの「女性と男性の平等に関する憲法改正」後の動き: 2000年6月6日の公選職への女性と男性の平等なアクセスを促進する法律の成立 / 梶本玲子 (p.155-161)
 645. 資料: 国連特別総会「女性2000年会議」のアドホック全体会合に関する報告書 / 総理府(仮訳) (p.162-188)

こころの科学 [95] (2001.01)

特集: 心因

646. 心因とは何か: ストレスとなる出来事と心因 / 上原徹 (p.23-29)
 647. 心因で起こる病気: 社会恐怖 / 笠原敏彦 (p.60-63)
 648. 心因で起こる病気: 摂食障害と心因: 摂食障害の「原因」の再構築 / 西園マー八文 (p.64-69)

649. クリティカル・インターネット(6): インターネットという<異物> / 高石浩一 (p.94-101)

子ども家庭福祉情報 [16] (2000.12)

特集: 新しい子ども家庭福祉: 21世紀への展望

650. 21世紀の人口動態と少子社会の行方 / 高橋重郷 (p.4-7)
 651. 新しい子ども観 / 石田文三 (p.8-11)
 652. 男女共同参画社会と子ども家庭福祉 / 佐藤洋子 (p.12-16)
 653. 親の働き方と子ども家庭福祉 / 武石恵美子 (p.17-21)
 654. ファミリー・フレンドリー企業としての試み / 北川美千代 (p.21-23)
 655. IT時代と学校教育 / 瀬田智恵子 (p.24-27)
 656. IT問題と子どもの学びの場 / 坂井知志 (p.28-31)
 657. 家族・親子関係の行方 / 芝野松次郎 (p.37-41)
 658. 里親養育のこれから / 庄司順一 (p.42-45)
 659. 「育ち」の力・「育て」の力 / 網野武博 (p.46-49)
 660. 子育ての社会化~今、これから / 森田明美 (p.50-54)
 661. 子ども家庭福祉と民間サービスの役割 / 鈴木忠則 (p.55-59)
 662. 子どもと住まい: 人と人との関わりを育む住まいの環境を / 定行まり子 (p.60-61)
 663. 児童福祉施設の役割と将来展望 / 高橋利一 (p.66-71)
 664. ユニバーサルデザインとしての療育システム: 障害のある子どもたちを街で育てよう / 佐藤進 (p.72-75)
 665. 生活支援センター「れがーと」の取り組み / 北岡賢剛 (p.75-77)
 666. 子ども家庭福祉人材の養成 / 柏女霊峰 (p.78-81)
 667. 子どもの不適応行動: 反社会的側面から / 佐々木光郎 (p.82-85)
 668. 子どもの不適応問題: 心理的側面から / 真仁田昭 (p.86-89)
 669. 子どもとマスコミ報道 / 小宮純一 (p.90-93)
 670. 国際化社会での子どもの権利の実現を目指して / 萩原康生 (p.94-97)
 671. 「日本子ども家庭福祉学会」設立される / 柏女霊峰 (p.102-104)
 672. 「健やか親子21」は21世紀の母子保健ビジョン / 平山宗宏 (p.105-115)
 673. 統計情報: 現代日本における夫婦関係: 「第2回全国家族動向調査」の結果から / 西岡八郎[ほか] (p.116-121)

子どもの虐待とネグレクト [1-1] (1999.11)

674. 英国における児童虐待の実態と取り組みについて / 滝井泰孝 (p.4-11)
 675. 被虐待児の「治療」について: ある事例とつきあって考えたこと / 清水将之, 平嶋摂子 (p.12-17)
 676. ストップ! 児童虐待: 早期発見のための課題と対応: 再発を予防するための課題と対応: 親子の心理的援助と並行して関係修復・家庭復帰後の生活への見通しも十分に / 才村純 (p.20-21)
 677. 宗教によるChild maltreatment 症例の検討 / 市川光太郎 (p.29-34)
 678. 児童虐待における病棟看護婦(士)の遭遇状況と通告に関する認識調査 / 澤田いずみ (p.35-40)

679. 精神疾患の親のもとで育った被虐待者の治療 / 杉野健二 (p.41-47)
680. 医療機関で発見された虐待事例：再発防止への取り組み / 佐藤千穂子[ほか] (p.48-53)
681. 児童福祉法に基づく立入調査を実施した事例の考察：川崎二三彦 (p.54-60)
682. 母乳育児推進と母子支援：産科施設での取り組み / 笠松堅實 (p.61-65)
683. 我が国における虐待事例の警察への通報状況 / 宮本信也, 石橋直子 (p.74-79)
684. 論文「我が国における虐待事例の警察への通報状況」へのコメント / 池田由子 (p.80-84)

こども未来 [353] (2001.02)

特集：10年目を迎える育児休業法

685. 育児休業の利用状況、制度の変遷についての解説と評価：制度は充実したが、利用率を高めるには子育てを社会と男女で担えるような環境づくりを / 永瀬伸子 (p.7-9)
686. ファミリー・フレンドリー企業の育児休業：セイコーエプソン株式会社(長野県諏訪市)：株式会社山形屋(鹿児島県)：株式会社ワコール(京都市) (p.10-12)
687. 育児休業をめぐる今後の課題：求められる労働環境とは：女性だけ、企業だけでなく、労働市場全体で“育休”が取れるシステムづくりを / 大沢真知子 (p.13-15)
688. こども未来財団からのお知らせ：i-子育てでネットがスタート：ホームページで保育所・子育て情報を発信 (p.28)

こども未来 [354] (2001.03)

689. 「i-子育てでネット」のお知らせ：保育所情報、子育て関連情報が満載! (p.4-5)
690. 座談会：深刻化する児童虐待をどう予防するか / 徳永雅子[ほか] (p.6-15)
691. ストップ! 児童虐待：早期発見のための課題と対応：子どもの虐待早期発見と予防のために：援助における第一目的は子どもの保護：地域の中に発見と見守りのシステムを / 山縣文治 (p.20-21)
692. 地方からの報告：発達相談 & メンタルクリニック：児童相談所で児童精神科医が対応(宮城県) (p.25-27)

こども未来 [355] (2001.04)

693. 生まれ変わって厚生労働省：その組織と所掌事務は (p.6-7)
694. 平成13年度厚生労働省児童福祉関係予算の概要 / 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課 (p.8-13)
695. 参考資料：ファミリー・サポート・センターについて：施策の概要 / 厚生労働省雇用均等・児童家庭局職業家庭両立課 (p.13-14)
696. 21世紀セミナー子育て支援(1)：21世紀の子育て支援を考える / 柏女豊峰 (p.20-21)
697. 子育て支援あの会社この企業：株式会社阪急百貨店(大阪市)：2000年ファミリー・フレンドリー企業表彰・労働大臣努力賞受賞：最長4年の育休で個人の一ズに対応 (p.24)

698. 東西南北クローズアップ(千葉県我孫子市)：ママヘルプサービス事業：ホームヘルプに育児・健康相談機能を連動 (p.26-27)
699. ホッ!とインタビュー：小西聖子さん：夫婦・親子のパートナーシップを築く第一歩は、相手を自分とは違う他者であることと認めること / 上垣内伸子 (p.31-33)

こども未来 [356] (2001.05)

700. 「こども未来賞」入賞作決まる：こども未来財団賞には西山さん (p.6-11)
701. 育児中の長時間残業免除：男女で子育てするために / 渥美雅子 (p.18)
702. 21世紀セミナー子育て支援(2)：家族の課題(1)：家族の変化：形、機能、意識の変化が子育てに及ぼしているもの / 渡辺秀樹 (p.20-21)
703. 子育て支援あの会社この企業：株式会社山梨コニカ(山梨県)：会社にもプラスになる両立支援策を実現(2000年ファミリー・フレンドリー企業表彰・都道府県労働局長賞受賞) (p.24)
704. 東西南北クローズアップ：長崎県：乳幼児健康支援一時預かり(病後児保育)事業：民間の医療機関に運営を委託、利便性のよさと信頼感で定着 (p.26-27)

こども未来 [357] (2001.06)

特集：いま、子どもの体と心には何が起きているのか

705. 子どもたちの体をめぐる問題：生活習慣病の低年齢化、環境ホルモン汚染、アレルギー疾患の増加など多様化の兆し / 加藤忠明 (p.7-9)
706. 21世紀セミナー子育て支援(3)：家族の課題(2)：夫婦の役割：現代における夫婦の在り方、母と子・父と子の在り方、ひとり親家族について / 長津美代子 (p.20-21)
707. 子育て支援あの会社この企業：みやぎ生活協同組合(仙台市)：妊娠・出産後も働き続けるための幅広い選択肢を提供：2000年ファミリー・フレンドリー企業表彰・都道府県労働局長賞受賞 (p.24)
708. 東西南北クローズアップ(高知県)：子育て中の短時間勤務、看護休暇を導入した事業主に県が補助金：勤労者子育て支援事業補助金制度 (p.26-27)

こども未来 [358] (2001.07)

特集：いま、あらためて「子育て」を考える

709. 「子育て」はなぜ大切にしなければいけないのか!：人間の赤ちゃんには「ケア」が不可欠：身近な人とのかわりによって成長する / 巷野悟郎 (p.7-9)
710. 家庭編：子育てしやすい環境づくりのために：母親の孤独な育児を解消するために、父親が子育てに実質的に参加すること / 柏木恵子 (p.10-11)
711. 社会・地域編：子育てと地域社会の連携について：時代に合った地域社会のかたちとは、各種ネットワークの重層的連携から生まれる / 原田正文 (p.11-12)
712. 職場編：男女が共に仕事と家事・育児を両立できる働き方に向けて：時代のキーワードは「女性の就労権の

確立」、仕事と育児の調整役は男女双方が担うべき / 木本喜美子 (p.13-14)

713. 21世紀セミナー子育て支援(4) : 家族の課題(3) : 家庭内の病理 : 育児不安、虐待の発生のメカニズム、虐待対応について / 丸山恭子 (p.20-21)
714. 子育て支援あの会社この企業 : 株式会社ミツバ(群馬県) : 社内イントラネット「父親と母親のページ」が好評 : 2000年ファミリーフレンドリー企業表彰・都道府県労働局長賞受賞 (p.24)

ジェンダー研究 [3] (2000.12)

715. 明治期におけるフェミニズムの受容 : J.S.ミル、H.スベンサー、M.G.フォーセット / 水田珠枝 (p.2-21)
716. キーピング・ポロミーズの主張と運動について / 吉田啓子 (p.22-31)
717. 戦前日本における女性の自己決定権論の展開 / 志村明子 (p.32-40)
718. M.ペルティエ(M.Pelletier)における個人主義と女性参政権の主張 : 第一波フランス・フェミニズムのなかの「過激分子」 / 見崎恵子 (p.41-54)
719. 母系社会におけるジェンダー概念と女性の地位 : インドネシア・西スマトラの一事例からみた異文化イメージの認識に対する一考察 / 前田俊子 (p.55-66)
720. 働く母親の生活時間(Time Budget)の研究 : ペイドワークとアンペイドワークのジェンダー・ギャップ / 安川悦子 (p.67-73)
721. 保育所に子どもを預けて働く父母の生活時間調査における父母の属性の概要 / 大城智美、中田照子 (p.74-78)
722. 小さい子どもをもつ親の生活 : 学歴の異なる母親における家事・育児および育児休暇 / 前原武子 (p.79-85)
723. ホームヘルプ労働とアンペイドワーク : ホームヘルパー実態調査をもとに / 新村友季子 (p.86-93)
724. 営業職への女性参入に関する事例研究 : その受容をめぐるネゴシエーション調査 / 宮下さおり (p.94-102)

ジェンダー研究(お茶の水女子大学) [4] (2001.03)

725. 江戸文化における大奥 / アン・ウォルソール ; 森本恭代訳 (p.43-64)
726. 彼女たちの受難 : 表象としての<女の学問> / 菅聡子 (p.65-77)
727. 性規範の変容とHIV感染リスク : 北タイ女性工場労働者の事例から / 道信良子 (p.79-94)
728. 湯浅年子博士の科学と人生 : パリに生き、真実を求め続けた物理学者の軌跡 / 山崎美和恵 (p.95-122)
729. ボルノグラフィに関する一試論 : 哲学・倫理学における議論を中心に / 根村直美 (p.123-135)
730. ドイツ・ハノーバーの国際女性大学に参加して : 「ヨーロッパ初の女性による、女性のための、女性についての大学」 / 篠崎香子 (p.137-146)
731. お茶の水女子大学におけるセクシュアル・ハラスメントの実態と指針検証 / お茶大でセクシュアル・ハラスメントを考える会 (p.147-163)

思想 [922] (2001.03)

特集 : 所有(1)

732. 所有と非所有との<あわい>で(上) : 生命と身体の自己所有をめぐる断章 / 熊野純彦 (p.4-29)
733. 愛と所有 : 所有的な愛と自我 / 浅見克彦 (p.30-53)
734. 商品としての身体、記号としての身体 : 臓器移植・アイデンティティ・想像の共同体 / 出口顯 (p.83-107)
735. 身体を所有しない奴隷 : 身体への自己決定権の擁護 / 加藤秀一 (p.108-135)

思想 [923] (2001.04)

特集 : 所有(2)

736. 思想の言葉 : ポゼッション : 所有・占領・憑依 / 米山リサ (p.1-3)

思想 [925] (2001.06)

特集 : 公共圏/親密圏

737. 排除された<私>の言葉 : ドイツ市民社会における公共圏形成の言語とジェンダー / 大貫敦子 (p.82-104)
738. 幕末明治の女性と公共性 : 松尾多勢子の場合 / アン・ウォルソール ; 宮崎ふみ子訳 (p.105-122)
739. 「私」の居場所 / 居方 / 西川祐子 (p.149-168)
740. 「家族計画」への道 : 敗戦日本の再建と受胎調節 / 荻野美穂 (p.169-195)

児童心理 [55-4] (2001.03)

特集 : 人の目を気にする子

741. 人の目を気にする子 : その心理と行動 / 菅佐和子 (p.1-10)
742. 「人の目」を克服するために / 岩井俊憲 (p.11-17)
743. 日本人の社会の審判者 : 世間という名の神 / 高橋紳吾 (p.18-23)
744. 自意識はどう発達するか : 幼児期から青年期まで / 荻野美佐子 (p.24-29)
745. 友だち関係に敏感な子 / 大野証江 (p.31-35)
746. 親や先生に「よい子」にみられようとする子 / 松岡素子 (p.36-40)
747. 人の目をまったく気にしない子の問題 / 富田ひさえ (p.41-45)
748. 「人の目を気にする子」が親になると / 山田和恵 (p.46-50)
749. 事例 : 人の目を気にする子が陥る問題 : 不登校 / 衣斐哲臣 (p.62-65)
750. 事例 : 人の目を気にする子が陥る問題 : いじめ / 中邑至道 (p.66-69)
751. 事例 : 人の目を気にする子が陥る問題 : キレル / 生島浩 (p.70-73)
752. 「努力疲れ」「気疲れ」が身体に与える影響 / 村山隆志 (p.74-79)
753. 人の目が気にならなくなる方法 / 成田論 (p.81-85)
754. 子どもがのびのびできる家庭 : 自分を信頼できる子を育てる / 河井英子 (p.94-97)
755. 子どもがのびのびできる家庭 : 外での気疲れを回復させる / 神永昭子 (p.98-101)
756. 人目をはばからない若者たち : 彼らにとっての「人の目」 / 伊奈正人 (p.102-107)
757. 子どもの攻撃性が暴力にかかわるとき(3) : マス・メディアの影響 / 大淵憲一 (p.109-115)

758. 家族のもんだい解決銀行：ブリーフセラピーの実践
(3)：「強い父親」論よりも／長谷川啓三 (p.122-126)

児童心理 [55-5] (2001.04)

特集：学級を乱す子

759. 学級を乱す子の親子関係／横山恭子 (p.16-22)
760. 「お父さんが授業を乱します」と言われたとき／鈴木由美 (p.83-87)

761. 子どもの攻撃性が暴力にかわる時(4)：青少年の暴力と集団／大淵憲一 (p.106-112)

762. 家族のもんだい解決銀行：ブリーフセラピーの実践
(4)：非言語の語用論(1)／長谷川啓三 (p.122-126)

児童心理 [55-6] (2001.04)

特集：しつけ方の基本とコツ：自立できない子に育てていませんか？

763. 自立のためのしつけとは／山崖俊子 (p.2-11)
764. 親が寄り添うとき、手を放すとき／石川悦子 (p.12-19)
765. 自立できない子に育てていないか：家庭・学校の教育を見直す／新富康央 (p.20-27)
766. 自立を脅かす動違いの「しつけ」／前川あさ美 (p.28-35)
767. 子どもは父親に何を求めているか：家族の中の父の役割／柴田長生 (p.36-43)
768. しつけられる側の言い分：こういうの、やめてほしい／島田美佐江 (p.44-50)

< しつけ上手な親になるために >

769. しつけが苦手な親・下手な親／内田玲子 (p.52-59)
770. いま心がけたいしつけのポイント／池上徹 (p.60-66)
771. コミュニティの中でしつける：地域社会と大人たちに求められるもの／岡崎友典 (p.67-73)
772. しつけがうまくいかないときに／小杉洋子 (p.74-80)
773. しつけに悩む親へのカウンセリング：不安を克服する／山口茂嘉 (p.81-88)

< 自立のためのしつけ：その方法と実践 >

774. 心豊かに生きるために：感性を育む親子のかかわり／吉川ちひろ (p.90-95)
775. 生活楽しむために：家庭は体験学習の宝庫／奈浦なほ (p.96-101)
776. 人間関係をつくるために：思いやりと自己決定力を育てる／斉藤英義 (p.102-107)
777. 社会人としての基礎のために：社会的ルール、マナーを身につける／土田雄一 (p.108-113)
778. 人生の目標をもつために：仕事・ボランティア・趣味への取り組み／山本紀久子 (p.114-119)
779. 地球時代に生きるために：共生のためのモラルと生き方を育む／多田孝志 (p.120-125)
780. わが家の「しつけ三原則」をどう考えるか？：教育改革国民会議報告と日本人のしつけ／山添正 (p.126-133)

< 学校の中のしつけを考える >

781. 教師が家庭のしつけを問題にしたいとき：親がどう協力するか／神谷元子 (p.147-153)

児童心理 [55-7] (2001.05)

特集：友だちとうまくいかない子

782. 今、子どもにとって友だちとは／新井邦二郎 (p.1-10)

783. 友だちとうまくいかない子の心理／安家周一 (p.11-16)

784. 友だち関係をつくり、育てるもの／内藤俊史 (p.17-22)

785. 小学生の友だち関係・中学生の友だち関係／桜井茂男 (p.24-29)

786. 友だち関係に苦労する子・しない子／土沼雅子 (p.30-34)

787. わが子の友だち関係が気になる親／酒木保 (p.35-39)

788. 「いじめ集団」から抜けられない子／中司博之 (p.64-68)

789. 不登校児は友だち関係をどのようにみているか／高橋良臣 (p.69-73)

790. 「恋する」小学生：最近の子どもと異性の友だち／河野義章 (p.74-78)

791. 友だちづくりを育む家庭：人間関係のルールを身につける／吉仲ミチ子 (p.97-101)

792. 友だちづくりを育む家庭：悩みを聴ける親になろう／吉本武史 (p.102-105)

793. 今、いじめはどうなっているか(1)：子どもや若者の現状からみたいじめ／久田邦明 (p.106-112)

794. 家族のもんだい解決銀行：ブリーフセラピーの実践
(5)：非言語の語用論(2)／長谷川啓三 (p.122-126)

児童心理 [55-8] (2001.06)

特集：せかす親・待てる親

795. 子どもをせかす親：子育てにおける「待つ」ことの意味／汐見稔幸 (p.1-10)

796. せかす親の心理・せかされる子の心理／戸田まり (p.11-16)

797. 競争社会に駆りたてられる親子／山本啓 (p.17-22)

798. 教師化した親、学校化した家庭：親像を見失った親たち／滝充 (p.23-28)

799. 早期教育は何をもたらすか：子どもの成長をせかす現状と功罪／杉山由美子 (p.30-35)

800. せかす親へのカウンセリング対応／信田さよ子 (p.36-40)

801. 心にゆとりのある親になるために：子どもの話を聴ける親／仲田洋子 (p.41-45)

802. 心にゆとりのある親になるために：子どもを過度に追いたてる前に／沢宮容子 (p.46-50)

803. 心にゆとりのある親になるために：わが子のよさに気づく／山脇由貴子 (p.51-56)

804. 問題行動にどう対応するか：「急ぐ」と「待つ」のタイミング：いじめ対応の意外な落とし穴／村尾康弘 (p.89-93)

805. 問題行動にどう対応するか：「急ぐ」と「待つ」のタイミング：不登校：状態に応じた学校復帰のはたらきかけ／東條光彦 (p.94-98)

806. 今、いじめはどうなっているか(2)：大人・社会の抱える問題からみたいじめ／久田邦明 (p.106-112)

807. 家族のもんだい解決銀行：ブリーフセラピーの実践
(6)：非言語の語用論(3)／長谷川啓三 (p.122-126)

児童心理 [55-10] (2001.07)

特集：やる気のない子

808. 無理な子どもはどうしてできるのか / 高石浩一 (p.10-16)
809. やる気をうばう現代社会：疲れ果てた大人と子ども / 山地弘起 (p.17-22)
810. やる気のない子の親子関係 / 長谷川博一 (p.23-29)
811. やる気を育てる家庭：外でのびのびと遊べる子を育てる / 坂本洲子 (p.90-94)
812. やる気を育てる家庭：やる気をそがないしつけの極意 / 中山治 (p.95-99)
813. 今、いじめはどうなっているか(3)：居場所づくりこそ、大人の課題 / 久田邦明 (p.106-112)
814. 家族のもんだい解決銀行：ブリーフセラピーの実践(7)：「男同士」という拘束：「強い父親」論よりも(2) / 長谷川啓三 (p.122-126)

児童心理 [55-11](2001.08)

特集：ゲームに夢中になる子

815. テレビゲームは対人コミュニケーションにどんな影響を与えたか：十年前の調査からみえるもの / 山田富美雄 (p.36-42)
816. なぜ「ゲームは女の子に人気がない」のか? / 森下みさ子 (p.54-58)
817. リレーインタビュー(1)：少年の心の闇を考える / 江川紹子 (p.60-67)
818. 家庭での上手な遊び方：ゲームに夢中になる子への対応 / 千原美重子 (p.70-74)
819. テレビゲームがこころを癒すとき：不登校の事例から / 山崎篤 (p.95-99)
820. 家庭のもんだい解決銀行：ブリーフセラピーの実践：解決(8)：空間的に「父の座」を構成する：「強い父親」論よりも(3) / 長谷川啓三 (p.122-126)

児童心理 [55-12](2001.08.05)

特集：母親の心理ハンドブック：子育てと自分づくりのために

821. 母になりきれない女性の心理 / 東山弘子 (p.2-12)
822. モデルのない子育ての時代 / 岩上真珠 (p.13-21)
823. 母親の人生学：子育て期とその後を充実させるために / 松下美知子 (p.22-29)
824. 母親はいま何に悩んでいるか：データから / 小泉智恵 (p.47-54)
825. 「母なるもの」のゆくえ / 豊田園子 (p.56-64)
826. ヤンママ・ギャルママといわれる母親たちの生き方 / 市川孝一 (p.66-72)
827. ストレスのもと、夫とどうつきあうか / 山下悦子 (p.73-79)
828. ケースファイル：母親の悩みとその解消：子どもの不登校に悩んで：「殺してしまおう」とまで思いつめた母親 / 松田美登子 (p.110-114)
829. ケースファイル：母親の悩みとその解消：夫婦交換ノートで支え合う：あるいじめ・不登校の相談より / 早樫一男 (p.115-119)
830. ケースファイル：母親の悩みとその解消：「私」を生

きること：思春期の子をもつ母親のゆらぎ / 稲塚葉子 (p.120-124)

831. ケースファイル：母親の悩みとその解消：母親の自分崩しと自分づくり：親役割をどう生き直すか / 新保幸洋 (p.125-129)

社会教育 [657](2001.03)

特集：シニアネットにみる高齢者の新しい生涯学習

832. サードエイジ・スタイル：新しいライフスタイルの潮流：インターネットで心のつながりを持つ：第3回アクティブ・エイジング・フォーラム / メアリー・フアロング (p.12-14)
833. 男女共同参画基本計画について / 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課 (p.66-67)

社会教育 [658](2001.04)

834. 女性たちのさらなる前進：女性2000年NGO日本大会 / 亀井一元 (p.58-59)

社会教育 [659](2001.05)

特集：IT講習の動き：IT活用学習実践編

835. IT教育と地域コミュニティ：女性による地域密着型のパソコンスクール / 女性が広げる21世紀のITライフ実行委員会 (p.44-45)
836. 21世紀のテレビはこうなってほしい!!：子どものメディアリテラシー学習をどうする：キーワードは「観察する力」：2001年「民放連・NHK共同企画番組子どもとテレビ」から (p.54-55)

社会福祉研究 [8](2001.07)

特集：社会福祉システムの再検討：ジェンダーの視点から

837. 社会福祉とジェンダー：研究の方法・到達点と課題 / 杉本貴代栄 (p.14-21)
838. 福祉国家：女性化する社会と福祉国家：フランスの女性と家族政策 / 丸山茂 (p.22-28)
839. 社会保障・年金：生活保障としての年金を考える / 城戸喜子 (p.29-39)
840. 貧困問題：女性と貧困 / 須藤八千代 (p.40-49)
841. 方法論：ソーシャルワークにおけるジェンダーの問題 / 小柳しげ子 (p.50-57)
842. 資料：女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約：女性2000年会議「政治宣言」：配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (p.58-69)
843. 海外の動向：イギリスの育児支援「ホーム・スタート」の活動から / 山本敦子 (p.92-95)

ジュリスト [1193](2001.02.01)

844. 海外法律情報：ドイツ：パート勤務請求権の導入：パートタイム労働・有期労働契約法の制定 / 齊藤純子 (p.62)
845. 渉外的な法律関係においてある法律問題を解決するために不可欠の前提問題の準拠法を決定する方法ほか / 尾島明 (p.108-110)

846. 民法研究会(第188回)：夫の暴力を避けるための別居と離婚事由 / 鍛冶良堅, 大杉麻美 (p.113-116)

ジュリスト [1196] (2001.03.15)

特集：人権救済制度の在り方をめぐって

847. 人権救済制度の在り方を考える：女性に対する暴力との関連で / 戒能民江 (p.15-20)

848. 公権力による人権侵害 / 五十嵐二葉 (p.21-26)

849. メディアによる人権侵害：混乱する報道の役割に関する社会的合意 / 桂敬一 (p.27-32)

850. 資料：人権救済制度の在り方に関する中間取りまとめ / 法務省人権擁護推進審議会 (p.33-43)

ジュリスト [1197] (2001.04.01)

851. 離婚に伴う財産分与として金銭の給付をする旨の合意が詐害行為に該当する場合の取消しの範囲ほか / 高部眞規子 (p.70-72)

852. 労働判例研究(第944回)：職種の変更に伴う賃金減額の可否：東京アメリカンクラブ事件 / 水町勇一郎 (p.89-91)

ジュリスト [1198] (2001.04.10)

853. 司法改革と国民参加：司法制度改革審議会中間報告をめぐって (p.2-427)

ジュリスト [1199] (2001.04.15)

854. 個人通報制度に関する女子差別撤廃条約選択議定書の発効について / 多谷千香子 (p.42-46)

855. 婚姻関係が破綻して父母が別居状態にある場合に子と同居していない親と子の面接交渉について家庭裁判所が相当な処分を命ずることの可否 / 杉原則彦 (p.86-87)

ジュリスト [1200] (2001.05.01+15)

856. 海外法律情報：ドイツ：同性愛者のための「人生パートナーシップ法」の制定 / 齋藤純子 (p.200)

ジュリスト [1202] (2001.06.10)

特集：平成12年度重要判例解説

857. 民法：離婚に伴う財産分与(金銭給付合意)と詐害行為取消しの範囲 / 野村豊弘 (p.62-63)

858. 民法：婚姻関係が破綻して父母が別居状態にある場合に子と同居していない親と子の面接交渉について家庭裁判所が相当な処分を命ずることの可否 / 榎村政行 (p.76-77)

859. 民法：死亡による内縁関係の解消と民法768条の類推摘要 / 二宮周平 (p.78-79)

860. 民法：離婚等家庭崩壊を理由として、嫡出子に対して提起された親子関係不存在確認の訴えの許否 / 水野紀子 (p.80-81)

861. 労働法：均等法施行前入社労働者の男女別雇用管理：住友電気工業事件 / 君塚正臣 (p.209-211)

862. 労働法：試験制度を介した昇格・昇進差別：中労委(芝信用金庫従組)事件 / 成川美恵子 (p.234-236)

ジュリスト [1203] (2001.06.15)

863. 労働判例研究(第948回)：雇用期間を定めた複数年雇

用契約の期間満了を理由とする雇止めと解雇の法理：カンタス航空事件 / 松田保彦 (p.145-147)

ジュリスト [1204] (2001.07.01)

864. 「精子・卵子・胚の提供等による生殖補助医療のあり方についての報告書」及び各委員のコメント (p.96-123)

ジュリスト [1205] (2001.07.15)

865. 日仏民法学交流の新世紀へ：個人主義と家族法 / サビエヌ・マゾー=ルヴェール; 大村敦志訳 (p.79-83)

866. 日仏民法学交流の新世紀へ：個人主義と家族法<コメント>カップルの選択 / 水野紀子 (p.84-86)

昭和女子大学女性文化研究所紀要 [27] (2001.03)

特集：第11回女性学公開講座：女性文化とジェンダー

867. シンポジウム：女性・ジェンダーをテーマに博士(学術)号をとって：活躍する若手研究者 / 大竹美登利[ほか] (p.4-19)

868. 女子スポーツ選手の身体像に関する研究 / 上田真奈美, 岩脇三良 (p.21-34)

869. 日本の現行政府家計統計における農家家計統計の位置：ジェンダー視点からの検討 / 粕谷美砂子 (p.35-49)

870. 資料：国連発行の3冊のジェンダー統計集にみる家族・世帯の扱いの変遷 / 伊藤セツ (p.51-61)

871. ベトナムの女性博物館 / 菊池誠一 (p.75-78)

助産婦 [55-1] (2001.02)

特集：21世紀を創造する助産婦

872. 心の琴線に触れる喜び：助産婦の専門性を生かした「生命の大切さ出前講座」 / 鈴木せい子 (p.10-13)

873. 助産婦の新しい役割：教育の立場から / 松原まなみ (p.16-19)

874. ネットワーク & ネットワーク / 三宅はつえ (p.20-22)

875. 「健やか親子21」検討会報告書まとまる / 新野由子 (p.24-35)

876. 子育て支援事業活動報告：助産婦が小学生に伝える命の誕生モデル事業(東京都支部)の取り組み / 清水里花 (p.36-38)

877. 助産婦の現場から：スズキ病院における自主的・主体的な活動への取り組み / 八木橋香津代 (p.40-42)

878. 「健やか親子21」検討会報告：専門団体および専門職としての本会と助産婦の課題 / 岡本喜代子 (p.44-51)

879. 助産婦養成数の実態：狭められつつある助産婦への門戸 / 島田真理恵 (p.54-55)

880. 助産婦の夫：職業人としての妻の充実ぶりを目のあたりにして / 江角勇二 (p.66-68)

助産婦 [55-2] (2001.05)

特集：このままでは助産婦が減っていく

881. 就業数の推移からみた助産婦数の問題点 / 高田昌代 (p.6-10)

882. 産むだけの場所ではない“助産院”という空間 / 瀧澤和子, 川野裕子 (p.11-13)

883. 休校を余儀なくされた学校の立場から、母子保健の問題を考える / 粟飯原真弓 (p.14-17)

884. 助産婦さん、助産婦職を守ってください / 熊手麻紀子 (p.18-20)
885. 助産婦養成数から見えてくるもの：深刻な助産婦不足の予測 / 加藤尚美 (p.21-29)
886. これからの総合的な子育て支援について考える / 蒲原基道 (p.34-38)
887. 子育て支援事業活動報告(7)：女性の生涯教育担い、助産婦の“得意科目”増える(愛知県支部) / 岩本美佐子 (p.39-41)
888. 助産婦の海外活動：バングラデシュ・リプロダクティブヘルス人材開発プロジェクト / 小原澤栄子, 竹内美恵子 (p.43-48)
889. 日本・韓国・アメリカ・イギリスにおける助産婦が開業する助産施設の実態調査 / 宮 94b3 文子[ほか] (p.49-57)
890. 助産婦の夫：子どもたちへの性教育：いのちの大切さを教える妻の裏方として / 山本隆夫 (p.62-64)
891. 海外情報ピックアップ：「女性への暴力」に対する助産婦の役割：ナポリでの国際会議に参加して / 加藤尚美 (p.71-74)

女性学 [8] (2001.03)

892. 中国女性学における思想形成 / 秋山洋子 (p.8-29)
893. 日本に於ける女性障害者運動の展開(1)：70年代から80年代後半まで / 瀬山紀子 (p.30-47)
894. 英国におけるブラック・フェミニズムの現在：「ブラック」という概念をめぐる議論から見えてくるもの / 奥村ゆかり (p.48-66)

特集：女性学と「権威」化：他者を表象することをめぐって

895. 支援関係づくりのプロセスにこだわる：女性学を新たな抑圧の道具としないために / 二見れい子 (p.68-84)
896. 他者の表象はどのように可能か / 渡辺みえこ (p.85-102)
897. フェミニストであることと研究者であること：個人史を題材に / 内藤和美, 辻智子 (p.103-115)
898. 表象という暴力 / 田川建三 (p.116-127)

女性学研究 [8] (2000.12)

899. ルーシー・リッパード著Overlay(1983)にみる「先史時代」・「未開」志向 / 萩原弘子 (p.3-16)
900. ルーシー・リッパード著Mixed Blessings における「人種」・「民族」・「ジェンダー」 / リサ・ブルーム (p.17-30)
901. 中心から、どこへ：From the Center と『狙撃者の隠れ家(Sniper's Nest)』展について / レベッカ・ジェニン (p.31-46)
902. Le onzieme commandement を読む：1920年代末ケニアのプロテスタント宣教師による女子割礼禁止キャンペーンに対するV・ネッケブルックの視点 / 額田康子 (p.56-79)
903. 女性性器手術(FGS)を「問題」とするのはだれか、なんのためか：1930年代と70年代の議論から / 萩原弘子 (p.80-92)
904. フェミニズムとエスノグラフィーのあいだで：ジャン

ス・ポッティによる試み / 岡真理 (p.93-112)

女性学研究年報 [11] (2001.03)

905. 女性史青山なを賞 / 青山なを研究奨励金：「女性史青山なを賞」とめぐりあって：青山先生からパワーをいただいて / 永原和子, 末次玲子 (p.16-19)
906. 自己表現という行為：読み書き語りの?倒性：本年度受賞者講演 / 平田由美 (p.20-21)
907. 秋枝蕭子学生研究奨励金：ライフ・ワークと奨励金 / 秋枝蕭子 (p.28-29)
908. 家族写真を使った女性史の構築(2)：本年度受給者報告 / 實松佳名子 (p.30)
909. <聖なるもの>をめぐって：聖娼としての熊野比丘尼：本年度受給者報告 / 布川帆波 (p.31)
910. 人間中心の開発への女性の権利と経済的リテラシー / エンパワメント(3)：ジェンダー予算分析の試み / 村松安子 (p.32-33)
911. 女性学の射程：1990年代以降の世界的動向 / 有賀美和子 (p.36-38)

女性学評論 [15] (2001.03)

特集：ジェンダー：いま“男らしさ”“女らしさ”とは

912. Jポップに見る男と女の言説：平成の若者の「こころもとなさ」(PART1) / 難波江和英 (p.1-21)
913. 女性と男性はなぜ違うのか：フェミニスト心理学からの考察 / 森永康子 (p.23-35)
914. 「ジェンダー論」の余白に：「らしさ」の構造と様態 / 小関三平 (p.37-57)
915. 文学を通して見るラテンアメリカの女性：『精霊たちの家』の登場人物から / 山蔭昭子 (p.59-73)
916. 「リスペクタブル」な場所：清く正しく美しく / 森末貴 (p.75-96)
917. 「性的虐待」をめぐる諸解釈：対象者としてのヴァージニア・ウルフ / 三島亜紀子 (p.97-116)

女子教育研究 [31] (2001.02)

918. 都道府県間格差著しい公立学校女性管理職登用の実態 / 池木清 (p.1-28)

女性行政情報 [12-6] (2001.02)

< 国の動き >

919. 男女共同参画基本計画について / 内閣府 (p.1-20)
920. 男女共同参画の視点に立った政策過程の再構築：男女共同参画影響調査研究会報告書(概要) / 内閣府(総理府男女共同参画室) (p.21-32)
921. 平成12年度学校基本調査(高等教育機関)卒業後の状況調査 / 文部科学省 (p.33-38)
922. 仕事と家庭の両立支援対策の充実について(女性少年問題審議会建議の概要) / 厚生労働省 (p.39-48)
923. 平成12年度男女共同参画宣言都市奨励事業実施要領(相模原市) / 相模原市, 内閣府 (p.51-52)
924. 平成12年度男女共同参画宣言都市奨励事業実施要領(伊万里市) / 伊万里市, 内閣府 (p.53-54)
925. 平成12年度男女共同参画宣言都市奨励事業実施要領(二本松市) / 二本松市, 内閣府 (p.55-56)

926. 平成12年度男女共同参画宣言都市奨励事業実施要領
(都留市) / 都留市, 内閣府 (p.57-58)

女性行政情報 [13-1](2001.04)

< 国の動き >

927. 男女共同参画会議について / 内閣府 (p.1-2)
928. 仕事と子育ての両立支援策に関する専門調査会開催状況 / 内閣府 (p.3-4)
929. 平成13年度男女共同参画推進関係予算(案)の概要 / 内閣府 (p.5-8)
930. 職場におけるセクシュアルハラスメントの実効ある防止対策の徹底について / 厚生労働省 (p.9-19)
931. 平成12年の働く女性の実情 / 厚生労働省 (p.20-66)
932. パートタイマー労働研究会の開催について / 厚生労働省 (p.67-69)

933. 第45回国連婦人の地位委員会について / 内閣府 (p.99-100)

女性行政情報 [13-2](2001.07)

< 国の動き >

934. 男女共同参画会議について / 内閣府 (p.1-7)
935. 専門調査会開催状況 / 内閣府 (p.8-10)
936. 仕事と子育ての両立支援策に関する専門調査会検討状況報告(抄) / 内閣府 (p.11-13)
937. 女性国家公務員の採用・登用等の促進について / 内閣府 (p.14)
938. 「女性に対する暴力をなくす運動」について / 内閣府 (p.15)
939. 「新規大卒者の就職活動等実態調査」からみる就職活動と就業意識 / 厚生労働省 (p.16-39)
940. 「平成12年度女性雇用管理基本調査」結果概要：管理職に占める女性割合は横ばい状況：コース別雇用管理制度導入割合は、大企業で初めて低下 / 厚生労働省 (p.40-65)
941. 第16回男女雇用機会均等月間について：DO! ポジティブ・アクション：男女均等な職場をめざして / 厚生労働省 (p.66-69)
942. 平成13年度均等推進企業表彰紹介 / 厚生労働省 (p.70-75)
943. 都道府県労働局雇用均等室における男女雇用機会均等法の相談、指導等状況及び個別紛争解決の援助事例 / 厚生労働省 (p.76-82)
944. 「女性国家公務員の採用・登用の拡大に関する指針」について / 人事院 (p.83-91)
945. 「女性国家公務員の採用・登用の拡大に関する意識調査の結果概要」 / 人事院 (p.92-99)

女性教養 [580](2001.02)

946. 揺れ動く主婦たち：「主婦の自己活動」に関する調査からみえてきたもの / 田中喜美子 (p.3-6)
947. 活動情報 1：自分で考えて、自分で行動する：求められる経済や株式投資を学ぶ場 / 長岡美代 (p.8-9)
948. 活動情報 2：朗読劇「樹氷の郷の女たち」に取り組んで：「こすもすwhy」の活動から / 結城富士子 (p.10-11)

949. このひと：「とぼす響の会」主宰 白根良子さん (p.13)

女性教養 [581](2001.03)

950. 少女マンガにみる家族の原点：『はみだしっ子』の射程 / 藤本由香里 (p.3-6)
951. 活動情報 1 暮らしの中の疑問や悩みを見つめて：アトリエi & あそび・まなびネット広島 / 森川恵美子 (p.8-9)
952. 活動情報 2 北の女性のエンパワーメント：恵庭「花つづり」の活動を通して / 太田美恵子 (p.10-11)
953. このひと：原田理恵子さん(全国婦人相談員連絡協議会会長) (p.13)
954. 資料情報：低年齢少年の価値観等に関する調査 / 総務庁青少年対策本部 (p.14)

女性教養 [582](2001.04)

955. 動脈系から静脈系へのパラダイム・シフト：実現のカギは女性が握る / 大橋照枝 (p.3-6)
956. 活動情報1：女性団体による市民活動の再検討：男女共同参画社会の本質を追及する活動をめざして：ウィメンズ・ウィル・ぐんま / 前田由美子 (p.8-9)
957. 活動情報2：国際シンポジウム「安全な社会をめざして：女性への暴力防止・根絶を!!」報告 / 河田貞子 (p.10-11)
958. このひと：小笠原悦子さん(ジュース(JWS)理事長) (p.13)
959. 平成13年度文部科学省女性教育・家庭教育に関する予算のあらまし (p.14)

女性教養 [583](2001.05)

特集：どうつくる、子育て支援

960. 幼児・児童期におけるジェンダー形成 / 相良順子 (p.3-6)
961. 活動情報(1)：こどもジェンダー探偵団：ジェンダー・フリー意識の萌芽をめざして / 宇恵佳世子(p.8-9)
962. 活動情報(2)：「家族を考える講座：少年にとっての家族」を実施して / 百瀬道子 (p.10-11)
963. このひと：田上時子さん(「女性と子どものエンパワメント関西」理事長) (p.13)
964. 女子と男子のジェンダー意識調査 / 高松市女性センター情報誌「びびふあい」担当 (p.14)

女性教養 [584](2001.06)

965. 山梨の女たち・男たちのエンパワーメント：「男女共同参画アドバイザー養成講座」から地域実践へ / 池田政子 (p.3-6)
966. 活動情報(1)：“おなごの手”から生まれるもの / 小坂たまみ (p.8-9)
967. 活動情報(2)：“パートナーシップ”って、言うのは簡単!：“ボランティアコーディネーター養成講座”に取り組んで / 大久保邦子 (p.10-11)
968. このひと：矢島床子さん(助産婦 / 「男性助産士導入問題を考える会」東京代表) (p.13)

女性教養 [585] (2001.07)

特集：米国に見るDV対策：地域ぐるみの予防・被害者支援活動

969. シンポジウム報告：「なぜ、今、ドメスティック・バイオレンスか？」／加藤洋子[ほか] (p.3-6)
970. 活動情報(1)：女性への暴力をなくすために：「人権とDV」ワークショップへの取組／横地恵美子 (p.8-9)
971. 活動情報(2)：「よみかき教室」：識字学級4年間の歩み／黒木敬子 (p.10-11)
972. このひと：あぜがみ ゆうこ さん(「主張するTシャツ」を集める会・事務局長) (p.13)

女性空間=Espace des Femmes [18] (2001.04)

特集：ジェンダー・越境・異邦人

973. ポリガミーの国境線／林瑞枝 (p.6-7)
974. 1835年、フランスのフェミニストが見た外国人女性／長谷川イザベル；小沼静子訳 (p.18-29)
975. ジェンダー・越境・異邦人：エレヌ・シクスーの場合／松本伊嵯子 (p.30-44)
976. アシア・ジェパールによる現代アルジェリアの物語：短編「バラバラにされた女」を読む／武内旬子 (p.45-57)
977. イタリアにおける女性移民の就労をめぐる一考察／小寺京子 (p.58-67)
978. マルト、ピベスコ大公妃・異邦人(1886-1973)／佐野満里子 (p.68-75)
979. 社会の目と女性のアイデンティティ／牛場由紀子 (p.76-79)
980. 日本から一番遠い日本!?／熊田和子 (p.80-87)
981. フランス語公用語圏ブラックアフリカの女性作家たち／元木淳子 (p.88-89)
982. 権力と女性表象：日本の女性たちが発言する(日仏女性研究シンポジウム：2000年12月・パリ)／柵沢直子 (p.90-111)
983. 女性関係年表：世界(1999年5月～2000年4月)：日本(1999年11月～2000年10月)／秋田喜美江、米山眞梨子 (p.112-122)

女性史学 [10] (2000.07)

984. 近世大坂の女名前：法規制と実態／真下道子 (p.1-15)
985. 魯迅との結婚における許広平の判断：親友常瑞麟宛書簡の意味するもの／駒木泉 (p.16-27)
986. チベットの女性聖者の物語：シュンセブ・ジェツン・ロチェン・リンポチェ自伝／柵瀬滋郎 (p.28-39)
987. 新“親バカ”礼賛：最近の中国児童文学受賞作にみる／彭佳紅 (p.40-48)
988. 明治期における「束髪」奨励：『女学雑誌』を中心として／渡邊友希絵 (p.49-63)
989. ジェンダー／美術史／視覚表象研究をめぐる、日本での現状と課題／北原恵 (p.64-69)
990. アメリカの日本研究における「女性学」／スーザン・パーズ (p.69-73)
991. ベドフォード・カレッジ創立150周年記念国際会議「女性と知力」“Women and Brainpower”カンファレンスに参加して(1999年7月4-6日、ロンドン大学ロイ

ヤル・ホロウェイにて開催)／河村貞枝、高橋彩 (p.128-138)

992. グローバリゼーションの現段階：フェミニズムの視点から／梅澤直樹 (p.142-145)
993. 智恩寺蔵「酒造り絵馬」と女性／井之本泰 (p.145-148)
994. 伝統的“森通”と近代化：東インドネシアの小島から／鍵谷明子 (p.139-140)

女性史・女性学ノート [8] (2001.03)

995. 女性に対する暴力概念の系譜と日本での展開／甲木京子 (p.1-12)
996. 製糸経営における女性管理職の役割：戦間期製糸労働研究の課題／成田一江 (p.13-23)
997. 唐津藩における赤子養育制度の一考察／横田武子 (p.24-33)
998. 『女と男の時空』の残された問題点(5)／河野信子 (p.34-38)
999. 人名小考(2)：古代における実名と音韻を中心として／野村知子 (p.39-49)
1000. 男装についてのメモ：高場乱への寄り道／井上ヒロミ (p.50-52)
1001. 骨のはなし／岩本東子 (p.53-67)

女性施設ジャーナル [6] (2001.05)

特集：男女共同参画推進・平等にむけた条例はいま

1002. どうつくる？ どうつかう？ 自治体の条例／斉藤誠、菊池朋子 (p.6-21)
1003. 職場レポート：各自治体条例化の動き(1)：男女共同参画社会と地方条例：東京都条例と埼玉県条例を比較する／浅倉むつ子 (p.22-29)
1004. 職場レポート：各自治体条例化の動き(2)：横浜市の条例の理念と特徴／牧野カツコ (p.30-35)
1005. 職場レポート：各自治体条例化の動き(3)：私たちはこんな条例がほしい：目黒区にも条例を／牛島光恵 [ほか] (p.36-44)
1006. 職場レポート：各自治体条例化の動き(4)：「男女平等基本法をつくろう西日本ネットワーク」の活動／森屋裕子 (p.45-53)
1007. 職場レポート：各自治体条例化の動き(5)：まちおこしとDVに取り組む：羽咋市男女が共に輝く21世紀のまちづくり条例／広岡守穂 (p.54-58)
1008. 上野千鶴子のズバリ・インタビュー：ピンチはチャンス!：逆風の中の女性センター：佐藤洋子 (p.86-117)
1009. オープンしました、女性関連施設：新25施設オールガイド(1999.1～2001.3) (p.118-130)
1010. ブックガイド：男女共同参画の政策立案に役立つ本／尼川洋子 (p.132-135)
1011. 男女共同参画条例集 (p.136-205)

女性展望 [523] (2001.02)

1012. 対談：内閣府男女共同参画局の発足にあたって／坂東真理子、有馬真喜子 (p.5-8)
1013. 男女共同参画基本計画 閣議決定 (p.8-9)
1014. 男女共同参画の視点に立った政策過程の再構築：男女共同参画影響調査研究会報告書をまとめて／大沢真理 (p.10-11)

1015. [女性国際戦犯法廷]が示したグローバルな女性の力 / 松井やより (p.12-13)
 1016. 財団法人東京女性財団の廃止問題: 男女平等へのバックラッシュ / 山口みつ子 (p.14-15)
 1017. 第55回国連総会に出席して: 女性・児童・人権・人道 / 柳川恒子 (p.16-17)

女性展望 [524](2001.03)

1018. インタビュー: 岩田喜美枝さん(厚生労働省雇用均等・児童家庭局長) (p.4-5)
 1019. 女性学長座談会: リーダーシップを育てる / 神田道子[ほか] (p.6-11)
 1020. 男女共同参画社会に向けて(5): 日本学術会議とその周辺: 研究者団体と学術研究の状況 / 原ひろ子 (p.12-13)
 1021. IPUレポート: 政治: 女性の考察(1) (p.14-15)
 1022. 榎田ふきさんを悼む / 大関清子 (p.16)

女性展望 [525](2001.04)

1023. 平成13年度国の女性関係予算案: 内閣府、警察庁、文部科学省、農林水産省 / 綱木雅敏[ほか] (p.4-11)
 1024. 世紀をつなぐ女性団体活動の継続と発展(1): 財団法人日本キリスト教婦人矯風会副会長・高橋喜久江さんに聞く (p.12-15)
 1025. IPUレポート: 政治: 女性の考察(2): 女性は政治参画で何を変えるか (p.16-17)
 1026. 第42回衆議院議員総選挙の実態: 明るい選挙推進協会調査 (p.18)

女性展望 [526](2001.05)

1027. インタビュー: 無党派堂本暁子 千葉県知事を押し出して: 天野外支子さん (p.6-7)
 1028. 大阪・島本町議選: 女性比率全国一位に / 森屋裕子 (p.8)
 1029. 世紀をつなぐ女性団体活動の継続と発展(2): 東京YMCA: 元会長・梶美津保さんに聞く / 山口みつ子 (p.9-12)
 1030. 平成12年版働く女性の実情 / 厚生労働省 (p.13)
 1031. 第45回国連婦人の地位委員会報告 / 目黒依子(p.14-15)
 1032. IPUレポート: 政治: 女性の考察(3): 政党とクォーター制 (p.16-17)

女性展望 [527](2001.06)

1033. 第19回参院選シリーズ(1): わが党の参院選女性対策: 7党女性局長インタビュー / 佐々木知子[ほか] (p.5-8)
 1034. 地方議会女性議員6.4%に (p.9)
 1035. DV防止法の成立と今後の課題 / 戒能民江 (p.10-11)
 1036. 世紀をつなぐ女性団体活動の継続と発展(3): 婦人国際平和自由連盟日本支部会長・杉森長子さんに聞く / 山口みつ子 (p.12-15)
 1037. IPUレポート: 政治: 女性の考察(4): 第5章 女性が国会に立候補する理由と方法(1) (p.16-17)

女性展望 [528](2001.07)

1038. 第19回参院選シリーズ(2): 私の選択基準: 各界女性13氏に緊急アンケート (p.5-7)

1039. 東京女性財団存廃の結論は01年度へ: 世論の批判をかわした石原知事 / 山口みつ子 (p.8-9)
 1040. 国際シンポジウム: アジア・欧州対話: 「女の視点」「男の視点」を超えて / 鈴木智子 (p.10)
 1041. アジア財団・高齢化フォーラムシリーズ(2): 高齢化社会と女性 (p.11)
 1042. 世紀をつなぐ女性団体活動の継続と発展(4): 全国友の会 代表・勝木澄子さんに聞く / 山口みつ子 (p.12-15)
 1043. IPUレポート: 政治: 女性の考察(5): 女性が国会に立候補する理由と方法(2) (p.16-17)

女性と労働21 [9-35](2001.01)

特集: 男女共同参画基本計画

1044. 21世紀・国内行動計画がスタート: 男女共同参画基本計画 / 総理府男女共同参画室 (p.6-106)
 1045. 「男女共同参画基本計画策定」に関する意見 / フォーラム・「女性と労働21」 / 国際婦人年連絡会, p.107-112)
 1046. 男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方: 21世紀の最重要課題・答申(概要) / 男女共同参画審議会 (p.113-123)
 1047. 東京都男女平等参画基本条例 (p.124-127)

女性と労働21 [9-36](2001.03)

1048. 男女共同参画社会の形成と「男女共同参画影響調査」 / 大沢真理 (p.6-20)
 1049. 21世紀の幕開けシンポジウム: 21世紀を拓く!: IT、グローバル化と女性労働 / 浅倉むつ子[ほか] (p.21-51)
 1050. 人権救済制度の在り方に関する中間取りまとめ / 人権擁護推進審議会 (p.52-70)
 1051. 年金制度改正のあらまし: 将来世代の過重な負担を抑え確実な給付を行うために / 厚生省 (p.71-86)
 1052. 雇用保険制度の見直しの概要と「雇用保険部会報告」について / 労働省職業安定局雇用保険課 (p.87-96)
 1053. 第88回ILO総会で採択された条約と勧告(仮訳): 1952年の母性保護条約(改正)に関する改正条約(第183号) (p.97-103)

女性歴史文化研究所紀要 [9](2000.00)

1054. 世紀転換期イギリス労働者女性運動にみるフェミニズム: 女性協同組合ギルドと母性支援要求 / 松浦京子 (p.1-14)
 1055. 旗袍、纏足、入れ墨: 近代の中国人は女性の身体と服飾をどう見たか / 羅蘇文; 房雪霏訳 (p.15-23)
 1056. 女性のエゴイズム: D.H.Lawrence, “The Blue Moccasins” 試論 / 井上径子 (p.25-38)
 1057. 外国人留学生から見た日本のメディアの中のジェンダー / 岡本宣子 (p.39-51)
 1058. 『天正狂言本』の中世的様相と女性ジェンダー / 田端泰子 (p.72-61)

女性労働 [25](2000.11)

特集: 21世紀の女性労働

1059. 世界女性行動は21世紀の労働と生活をどう変えるの

- か：女性2000年会議の基底理念はグローバリゼーション・人権・公正 / 山岡照子 (p.6-21)
1060. 資料：国連特別総会「女性2000年会議」のアドホック全体会合に関する報告書(2000年9月) / 総理府仮訳 (p.22-27)
1061. 母性保護条約・勧告の改定第二次討議に参加して / 高島順子 (p.28-33)
1062. 資料：第88回ILO総会で採択された母性保護条約と勧告(仮約) (p.34-40)
1063. ポジティブ・アクションとセクシュアル・ハラスメントの防止：ジェンダー・フリーの人材活用職場推進の二つの有効手段 / 山岡照子 (p.41-49)
1064. 男子学生から見た21世紀の女性労働 / 村上貴美子 (p.51-58)
1065. ILO総会「人材養成・開発委員会」(一般討議)に参加して / 市川清美 (p.68-72)
1066. 東京都の女性労働相談の現況 / 青山栄子 (p.73-81)
1067. 資料：男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方(答申)：21世紀の最重要課題(2000年9月26日) / 男女共同参画審議会 (p.82-93)
1068. 資料：男女雇用機会均等対策基本方針の策定について(平成12年7月14日) / 労働省女性局女性政策課 (p.94-96)
1069. 資料：「コース等で区別した雇用管理についての留意事項」について(平成12年6月16日) / 労働省女性局女性政策課 (p.97-99)
1070. 資料：パートタイム労働に係る雇用管理研究会報告(平成12年4月18日) / 労働省女性局女性労働課 (p.100-104)
1071. 資料：有期労働契約の反復更新に関する調査研究会報告(平成12年9月11日) / 労働省労働基準監督課 (p.105-108)
1072. 資料：在宅就労問題研究会報告：報酬額、納期等の文書明示等のガイドラインの策定、周知(平成12年3月8日) / 労働省女性局女性労働課 (p.109-110)
1073. 資料：雇用における年齢差別禁止に関する中間報告(平成12年6月27日) / 経済企画庁総合計画課 (p.111-113)
1074. 資料：国際自由労連第17回世界大会：テーマ文書と差別撤廃に関する声明(2000年4月) / 国際自由労連 (p.114-132)
1075. 資料：子ども看護休暇に関する調査結果(概要)：子ども看護休暇の実現をめざして(2000年9月) / 連合総合男女平等局 (p.133-138)
1076. 資料：住友電工男女賃金差別裁判判決 / 大阪地方裁判所 (p.139-143)
1077. 資料：2000年ILO母性保護条約・勧告改訂審議経過(87・88回ILO総会) / 連合 (p.143-167)

女性労働研究 [39] (2001.01)

特集：女性労働とフェミニズム：21世紀に向けてその最前線

1078. 労働市場のジェンダー・ハイアラーキー：世紀転換点の雇用と賃金 / 森ます美 (p.5-13)
1079. 農村にみる女性のアンペイド・ワーク：上田市塩田地

- 区の調査から / 古田睦美, 諸藤享子 (p.14-22)
1080. セクシュアル・ハラスメントが提起したもの / 丹羽雅代 (p.23-31)
1081. 職場におけるセクシュアル・ハラスメント：労働運動のアジェンダに / 佐伯芳子 (p.32-40)
1082. 女性の雇用労働者化と「家族賃金」思想：「労働力の価値および価値分割」論をどう理解すべきか / 中川スミ, p.41-49)
1083. ジェンダー視点からみた児童手当制度 / 北明美, p.50-58)
1084. ケアワークのジェンダー・パースペクティブ / 笹谷春美 (p.59-67)
1085. フェミニズム戦略としての「シングル単位論」 / 伊田広行 (p.68-76)
1086. 市場批判とジェンダー：福祉国家構想の射程 / 後藤道夫 (p.77-85)
1087. 第15回女性労働セミナーの報告 / 鷲谷鞆 (p.86-89)

人口問題研究 [56-2] (2000.06)

特集：21世紀の家族のかたち：第4回厚生政策セミナー その1

1088. オーストラリアの家族関係：保守派、リベラル派、ラディカル派の論争 / ピーター・マクドナルド；釜野さおり訳 (p.4-24)
1089. ジェンダーからみた就業と家事：日本と韓国とアメリカの比較 / 津谷典子 (p.25-48)
1090. 資料：現代日本の家族：継続と変化：第2回全国家庭動向調査(1998年)の結果より / 西岡八郎[ほか] (p.49-78)

人口問題研究 [56-3] (2000.09)

特集：21世紀の家族のかたち：第4回厚生政策セミナー その2

1091. 先進工業諸国における出生力と世帯形成の近年の動向(抄訳) / ロン・レスサーガ, ギー・モース；清水昌人訳 (p.1-33)
1092. 日本における成人子と親との関係：成人子と老親の居住関係を中心に / 西岡八郎 (p.34-55)
1093. フォーカス・グループ・ディスカッションの手法と課題：ケース・スタディを通じて / 千年よしみ, 阿部彩 (p.56-69)

世界 [685] (2001.03)

1094. 少年事件への視点：「社会的理性」を育てるために必要なこと / 小林道雄 (p.56-68)
1095. 対談：「女性国際戦犯法廷」が裁いたもの / ノーマ・フィールド, 高橋哲哉 (p.209-222)
1096. 抱きしめるほかなかった：女性国際戦犯法廷傍聴記 / 熊谷博子 (p.223-231)
1097. 日本軍性奴隷制を裁く2000年「女性国際戦犯法廷」：検事団およびアジア太平洋地域の人々対天皇裕仁ほか、および日本政府認定の概要 / VAWW-NETジャパン訳 (p.232-240)

世界と人口 [323] (2001.02)

1098. 日本のリプロヘルス/ライツのあけぼの：久保秀史、

- 村松稔に聞く(2)：マーガレット・サンガーの来日 / 西内正彦 (p.8-13)
1109. アジア地域事業：二つのワークショップ / 勝部まゆみ (p.14-18)
1100. 「松本賞」第五回受賞者、堀口雅子さんに (p.19)
1101. ニカラグア、静かな革命：家族計画や女性の人権に活路 / 竹信三恵子 (p.22-25)
1102. 国連世界人口年鑑1998年版から (p.34-35)
1103. ベトナムだより(33)：お産にまつわる話(2)：産婦と新生児 / 石井澄江 (p.38-39)
1104. インターネットでみる海外の人口事情(24)：2000年センサスによるシンガポールの人口 / 大友篤 (p.40-47)

世界と人口 [324] (2001.03)

1105. 日本リプロヘルス/ライツのあけぼの：久保秀史、村松稔に聞く(3)：広がる産児調節運動 / 西内正彦 (p.8-12)
1106. ネパール見聞記：ネパール女性の姿から見えてくること / 三好典子 (p.14-17)
1107. ネパール見聞記：パンチカルの女性たちにエールを送る / 見澤孝子 (p.20-21)
1108. 深まる日本とのきずな：UNFPAトラヤ・オベイド新事務局長が来日 (p.22-27)
1109. インターネットでみる海外の人口事情(25)：2000年センサスによるシンガポールの人口(続き) / 大友篤 (p.32-40)

世界と人口 [325] (2001.04)

1110. 日本のリプロヘルス/ライツのあけぼの：久保秀史、村松稔に聞く：大震災乗り越え普及活動 / 西内正彦 (p.8-13)
1111. メキシコ市政策：国際家族計画連盟(IPPF)の見解 (p.14-16)
1112. 第5回「松本賞」授与式開かれる (p.16)
1113. ラオスの思春期保健：ルアンウラバーンでの4日間 / 北沢杏子 (p.34-39)
1114. インターネットでみる海外の人口事情(26)：2000年センサスによるタイの人口(1) / 大友篤 (p.40-48)
1115. 第2回報道関係者のための人口：リプロダクティブ・ヘルス合宿 (p.52-53)

世界と人口 [326] (2001.05)

1116. 日本のリプロヘルス/ライツのあけぼの(5)：久保秀史、村松稔に聞く：「産めよ、殖やせよ」の時代 / 西内正彦 (p.12-17)
1117. 研修員が日本で学んだ19日間：第二回思春期RHセミナーを終えて / 松本清一 (p.18-22)
1118. インターネットでみる海外の人口事情(27)：2000年センサスによるタイの人口(続き) / 大友篤 (p.30-37)

世界と人口 [327] (2001.06)

1119. ジョイセフの国際プロジェクトから(2)：バングラデシュ：新たな挑戦：女性の健康とエンパワーメントのために / 鈴木良一 (p.10-19)
1120. 日本のリプロヘルス/ライツのあけぼの：久保秀史、村松稔に聞く(6)：動き出した産児制限 / 西内正彦

(p.20-25)

1121. 女性の人権を守る：国際家族計画連盟(IPPF)は沈黙も後退もしない / インガー・ブリュッゲンマン (p.26-28)
1122. 女性の自立は地域の自立につながるか / 越智直実 (p.32-35)
1123. インターネットでみる海外の人口事情(28)：1999年センサスによるベトナムの人口(1) / 大友篤 (p.36-43)
1124. イスタンブールの会議に出席して：リプロダクティブ・ヘルス関連の物資：その供給と需要の格差：成果とこれからの課題 (p.44-45)

世界の児童と母性 [50] (2001.04)

特集：21世紀 子ども家庭福祉の展望

1125. 日本の子ども家庭福祉：21世紀に向けての課題と展望 / 柏女豊峰 (p.2-5)
- < 21世紀の子どもをめぐって >
1126. 現代親子と子育て支援 / 岩堂美智子 (p.14-17)
1127. 地域の中の子どもたち / 服部栄 (p.18-21)
- < 子ども家庭福祉の新しい展開 >
1128. 地域における新しい展開 / 山縣文治 (p.22-25)
1129. 児童福祉施設運営の新しい展開：児童の権利擁護確立の鍵 / 安齋芳高 (p.30-33)
1130. 求められる包括的な実践パラダイム：これからの児童ソーシャルワークの課題と展望 / 谷口泰史 (p.34-37)
- < 21世紀の児童福祉施設 >
1131. 乳児院 / 帆足英一 (p.40-41)
1132. 母子生活支援施設 / 坂江靖弘 (p.48-49)
1133. 里親 / 網野武博 (p.50-51)
- < 21世紀の児童福祉施設への期待 >
1134. 21世紀の児童福祉施設に期待すること / 鮎京真知子 (p.52-54)
1135. マスコミの立場から / 大久保真紀 (p.55-57)

総合女性史研究 [18] (2001.03)

1136. 近代公娼制度における賦金の実態について：1870年代の北海道を中心にして / 星玲子 (p.1-16)
1137. 女装束と被物 / 永島朋子 (p.17-25)
1138. 武家の「めと」に関する覚書 / 秋池洋美 (p.26-34)
1139. 近世における「売春」の問題 / 宇佐美ミサ子 (p.35-41)
1140. 女性史と私：女性史と歴史小説：私の体験から / 永井路子 (p.42-47)
1141. 江戸と敦煌の離縁状：日本古代の婚姻とのかかわりで (研究会の記録：第91回) / 梅村恵子 (p.93-95)
1142. 戦国期公家の「家」妻の役割 (研究会の記録：第92回) / 後藤みち子 (p.95-97)
1143. ジェンダーと近世日本：明治維新における松尾多勢子の役割 (研究会の記録：第93回) / アン・ウォルソール ; 長島淳子訳 (p.97-99)
1144. イギリスにおけるオーラルヒストリーの研究動向 (研究会の記録：第94回) / 酒井順子 (p.99-102)
1145. 女性史における女性参政権運動の位置づけ (研究交流会) / エレン・C・デュボイス ; 安武留美訳 (p.102-105)
1146. 女性の視点で史料を読む：中世史料を脱構築する (第12回女性史講座) / 黒田弘子 (p.105-107)
1147. 女性の視点で史料を読む：近代女性史の授業：史料をいかに使うか (第12回女性史講座) / 阿部恒久 (p.107-

109)

賃金と社会保障 [1289+1290](2001.01.25)

特集：新世紀・日本の社会保障 序論

1148. 新しいタイプの社会的リスクと「個人単位」の社会保障：日本の女性の大テーマ：「有識者会議」が行った問題の整理と私見 / 杉井静子 (p.48-54)

賃金と社会保障 [1291](2001.02.10)

特集：春闘ハンドブック

< ゼロイチ春闘：どうつける不安解消への道筋 >

1149. 生活見通しは不安だらけ：日本の勤労者(サラリーマン)の状態 / 労働経済研究所 (p.4-11)
1150. 春闘の役割をどこに置くか：「不安社会」の顕在化の下で / 小越洋之助 (p.12-21)
1151. ゼロイチ春闘・賃金資料 (p.23-35)
1152. ゼロイチ春闘に寄す：パート雇用も正規雇用も均等待遇：世界のチャンピオン国オランダに学ぶ / 鹿田勝一 (p.36-40)
1153. 介護保険下の労働問題：ホームヘルパーが抱えていること / 労働経済研究所 (p.70-73)

賃金と社会保障 [1292](2001.02.25)

特集：福祉と裁判

1154. 福祉と裁判：「田沼訴訟」が問いかけたこと / 泉澤章 (p.4-10)
1155. 世田谷区ホームヘルパー事件：東京高裁判決の不当性 / 登坂真人 (p.11-19)
1156. 資料：世田谷区ホームヘルパー事件：平成12年(ネオ)第501号損害賠償請求上告事件：上告理由書(平成12(2000)年8月18日) (p.20-40)
1157. まちづくり型社会保障運動のすすめ：介護保険の改善と介護の充実：福祉の課題とまちづくり / 篠崎次男 (p.41-54)

賃金と社会保障 [1295](2001.04.10)

特集：ドイツの老人介護職制度

1158. ドイツにおける老人介護職制度の新展開：老人介護士法の制定とその意義 / 八田和子 (p.4-9)
1159. 翻訳資料：ドイツ連邦新法規：老人介護の職業に関する法律および看護婦(士)法の改正に関する法律 / 八田和子訳 (p.10-16)

賃金と社会保障 [1298](2001.05.25)

特集：パートタイム労働オランダ・モデル

1160. オランダ・モデルと日本のパートタイム労働 / 中野麻美 (p.4-15)
1161. 21世紀の新たな社会像をめざして(資料)：ゼンセン同盟オランダモデル調査団報告(2001年1月)：なぜ、オランダモデルに注目したか 「はじめに」より / 逢見直人 (p.16-23)
1162. 女性と労働：オランダのケース：オランダ労働組合同盟(FNV)1999年女性政策から(入手資料) (p.23-30)

統計 [52-5](2001.05)

特集：世界の女性

1163. 世界のジェンダー統計動向：『世界の女性 2000年』

とIAOSのジェンダー統計セッション / 伊藤セツ (p.1-6)

1164. 女性の社会的地位 / 西川由比子 (p.7-12)
1165. 世界の国々の女性の経済活動 / 渡辺真知子 (p.13-20)
1166. 途上国の国々の結婚の形態と女性 / 早瀬保子 (p.21-26)
1167. 男女共同参画への政府の取組み / 宮田智 (p.27-33)

東横学園女子短期大学女性文化研究所紀要 [8]

(1999.03)

1168. 女性の感性と着用意識：世代別国際比較・カナダと日本 / 有馬澄子[ほか] (p.1-21)
1169. 女子短大生の学習動機(教育達成)に関する一考察：入学方法と達成動機をめぐって / 小川待子 (p.23-38)
1170. 現代家族における女性の役割(1) / 櫻井みや子 (p.39-57)
1171. 無償労働の貨幣評価に関する一考察 / 堀真由美 (p.89-101)
1172. エバはなぜ木の実を食べたか：古英詩による一つの答え / 遠藤幸子 (p.103-131)
1173. 無償労働の計測に関する覚書 / 高橋桂子 (p.133-142)
1174. 学生による本学学生意識調査 / 大石まゆみ, 大場麻衣子 (p.151-173)
1175. 江戸時代の女性紙漉職 / 河野徳吉 (p.1-62)

東横学園女子短期大学女性文化研究所紀要 [9]

(2000.03)

1176. ガートルード・スタインの演劇とアメリカ演劇のアヴァンギャルディズムの系譜についての研究(1)：スタインの演劇 / 戸谷陽子 (p.1-16)
1177. 病める心の舞台表象：ピナ・バウシュの「神経症的身体」と「みっともない身体」 / 安田静 (p.17-36)
1178. フランス語会話初級テキストにおける性差について / 中村美緒 (p.37-54)
1179. 地域の国際化と女性の意識 / 福田紀子 (p.55-68)
1180. 東横学園女子短期大学生に見られる異文化接触の傾向について / 南口順子 (p.69-101)
1181. 少子化時代における育児：現代女性の意識および育児における今後の課題 / 中野理恵子 (p.103-126)
1182. 江戸時代の髪「元結」(1) / 河野徳吉 (p.1-43)

東横学園女子短期大学女性文化研究所紀要 [10]

(2001.03)

1183. ガートルード・スタインの演劇とアメリカ演劇のアヴァンギャルディズムの系譜についての研究(2) / 戸谷陽子 (p.1-12)
1184. マルグリット・ユルスナール、その人生はなぜこんなに女性たちを惹きつけずにはおかないのだろうか / 中村美緒 (p.13-26)
1185. イスラム社会における遺産相続：トルコの中のイスラムと西欧 / 小野塚久枝 (p.27-48)
1186. 女性と介護保険 / 和田謙一郎 (p.49-71)
1187. 婦人運動家の装い・奥むめおと市川房枝：婦人服洋装化の過程において / 青木淳子 (p.73-103)
1188. 女性の服飾意識と家族関係に関する研究：親子関係における日本とカナダの比較 / 有馬澄子 / 南林さえ子 (p.105-136)

1189. 教育現場から見たキャリア・カウンセリングの現状と課題 / 小川待子 (p.137-154)
 1190. 女子学生における「IT革命」時代の傾向について / 五月女仁子 (p.155-173)
 1191. 若年女性ボディイメージに及ぼす運動習慣の影響 / 辻秀一 (p.175-196)
 1192. 沖縄国頭地方の「海神祭祀」の検討(1) : ウンジャミ・シヌグ祭祀の分類と類型 / 高梨一美 (p.1-23)
 1193. 江戸時代の髪「元結」(2) / 河野徳吉 (p.25-81)

新潟ジェンダー研究 [1] (1999.07)

1194. 「新しい人間学・序説」へ : 「ジェンダー」概念の切り開く射程 / 金井淑子 (p.5-8)
 1195. 男女を同じに育てる実験から、酒鬼薔薇事件まで / 黒岩秩子 (p.15-18)
 1196. 学校生活の中で子供たちは(2) : 男女別名簿校と混合名簿校の児童の意識の違い / 野口一世 (p.19-30)
 1197. 言語学とジェンダー / 福嶋秩子 (p.31-40)
 1198. 韓国の文学と女性たち / 波田野節子 (p.41-45)
 1199. 男女平等教育資料(新潟市教育委員会) / 大浦容子 (p.47-48)
 1200. 学校のジェンダーフリーと男女混合名簿 / 福嶋秩子 (p.49-54)
 1201. 平成10年度青年男女の共同参画セミナー「若者のこころとからだと性」 / 佐山光子 (p.55-60)
 1202. グループ紹介 : みずの会(新潟県燕市) / 高桑紀美江 (p.65)
 1203. グループ紹介 : 新潟女性史クラブ / 植木知枝 (p.66-67)

新潟ジェンダー研究 [2] (2000.07)

1204. 「ジェンダー視点に立つ」とは何かを考える : 研究と実践から / 渡邊洋子 (p.1-6)
 1205. ジェンダーネットワーク公開シンポジウム : 「これからの新潟を語る : 新潟の政治状況とジェンダー」 / 大淵絹子[ほか] (p.7-35)
 1206. 家庭科教育とジェンダー / 鈴木真由子 (p.37-44)
 1207. 日本の「家父長制家族」一考察 / ノイス・金子・マーグレット (p.45-49)
 1208. パブリックスペースにおける視線の支配 : 高田公園の「ブロンズのプロムナード」と「岩野勇三ブロンズコーナー」をめぐって / 金谷範子 (p.51-65)
 1209. 男はいかにフェミニズムに関わりうるか、ということについて / 小川崇 (p.67-71)

日米女性ジャーナル [27] (2000.11)

1210. 高齢期における結婚生活 / Laura L. Carstensen ; 林和歌子, 香澤清美訳 (p.3-18)
 1211. 高齢女性の健康の意義 / Margaret Gatz [ほか] (p.19-46)
 1212. 介護保険制度実施に伴う介護提供者への影響 / 岡本多喜子 (p.47-67)
 1213. 介護理由と介護ストレスの関連の分析 : 首都圏における「嫁」介護と娘介護の比較 / 池田成美 (p.68-88)
 1214. ジェンダーと人間関係 : 成長発達論的考察 / Eleanor E. Maccoby ; 柴田朋訳 (p.89-102)
 1215. パウロ・フレイレと『差異』のフェミニスト教育学 /

Kathleen Weiler ; 香澤清美訳 (p.103-132)

日本家政学会誌 [52-2] (2001.02)

1216. ベアテ・シロタ草案と第二次世界大戦敗戦国の新憲法 : 日本国憲法第3章人権条項の制定過程(第3報) / 小野瀬裕子, 草野篤子 (p.1-11)
 1217. 働く母親の個人ネットワークからの子育て支援 / 久保桂子 (p.13-23)
 1218. 1歳児のままごと遊びにおける食に関するスクリプトについて / 吉澤千夏, 大瀧ミドリ, 松村京子 (p.25-31)
 1219. 第一線で活躍する家政系出身者から(40) : 私のライフワーク : アヤコ年令不問のPGファッション / 伊藤藤子 (p.67-69)
 1220. 第一線で活躍する家政系出身者から(40) : “自律”してこそ「できる人」 / 小田智美 (p.70-71)
 1221. 事例研究法をめぐって(8) : 「もの」と文献、「もの」と絵画資料からのアプローチ / 小笠原小枝 (p.89-96)

日本家政学会誌 [52-3] (2001.03)

1222. 第一線で活躍する家政系出身者から(41) : ベターホーム協会の活動から / 堀江雅子 (p.51-52)
 1223. 第一線で活躍する家政系出身者から(41) : 学生時代の夢, 歩んできた道, そして将来・・・ / 山口葉子 (p.53-54)

日本家政学会誌 [52-4] (2001.04)

1224. 教育的な意義を含む母子の会話と母親の要因との関連 : 小学生における食事中の母子の会話の実態調査から / 岡田みゆき (p.11-20)
 1225. 第一線で活躍する家政系出身者から(42) : 生活者の立場にこだわって / 高山美和 (p.63-64)
 1226. 第一線で活躍する家政系出身者から(42) : 今、品質管理に求められていることは / 上田知穂 (p.65-66)

日本家政学会誌 [52-5] (2001.05)

1227. 阪神間都市部とネパール、ムスタン地区間の住民の日常生活意識と生活価値観の比較 : 生活様式と地域社会に対する考え方の比較 / 大野佳美[ほか] (p.1-10)
 1228. 若い女性の身体シルエットに対する女子大生の好ましさの判断 / 杉田洋子[ほか] (p.31-37)
 1229. 第一線で活躍する家政系出身者から(43) : 農山漁村における女性対策への取組 / 相本艶子 (p.73-74)
 1230. 第一線で活躍する家政系出身者から(43) : 消費者と企業のパイプ役への道 / 小倉妙子 (p.75-76)

日本家政学会誌 [52-6] (2001.06)

1231. 中・高生および大学生の食生活を中心とした生活習慣と精神的健康度の関係 / 冨永美穂子[ほか] (p.9-20)
 1232. 第一線で活躍する家政系出身者から(44) : TA(衣料管理士)として働く / 関口淳子 (p.77-78)
 1233. 第一線で活躍する家政系出身者から(44) : 食品と表示について / 松澤成美 (p.79-80)

日本家政学会誌 [52-7] (2001.07)

1234. 各年齢男女の衣生活行動 / 岡田宣子 (p.9-20)
 1235. 第一線で活躍する家政系出身者から(45) : クリーニン

グとあって / 長谷川千恵 (p.65-66)

1236. 家政学をになう家政系出身者から(1) : 生徒と共にこれからの生き方考える / 平形明子 (p.67-69)

日本子ども家庭総合研究所紀要 [36] (2000.03)

1237. 子ども虐待に対応する児童福祉司の意識に関する研究 / 高橋重宏[ほか] (p.7-28)
1238. 子ども家庭サービスの供給システムのあり方に関する研究(3) : 保育所実施型地域子育て支援センターの運営及び相談活動分析 / 柏女豊峰[ほか] (p.29-57)
1239. 若年者の性についての意識と行動に関する研究 : 高校生の性行動と意識について(第3報) / 宮原忍[ほか] (p.73-95)
1240. 情報化社会と子育てに関する研究(3) : 母子保健・児童福祉関係機関のホームページ開設状況 / 斉藤進[ほか] (p.97-115)
1241. 育児不安に関する臨床的研究(6) : 子ども総研式・育児支援質問紙(試案)の臨床的有用性に関する研究 / 川井尚[ほか] (p.117-138)
1242. 発育・発達の縦断的研究 : 乳幼児の生活リズムに関する縦断的研究 : 育児支援のあり方 / 加藤忠明[ほか] (p.153-164)
1243. 性的被害児童の保護、トリートメントのあり方に関する研究 : 厚生省研究に向けての課題整理 / 才村純, 庄司順一, 小山修 (p.165-175)
1244. 幼児の食生活におよぼす生活リズムの影響 / 水野清子[ほか] (p.177-182)
1245. 保育所における子どもの健康・安全管理に関する親の意見 / 齋藤幸子[ほか] (p.183-187)
1246. 地域組織活動におけるリーダーシップに関する研究(3) : 食生活改善推進員協議会会長の浮沈図調査から / 斉藤進 (p.189-194)

日本ジェンダー研究 [2] (1999.08)

1247. 魔女狩りの犠牲者 / 野口芳子 (p.1-15)
1248. 有機農業運動における実践的エコロジーとジェンダー問題 / 波多野豪 (p.17-29)
1249. 言語社会におけるジェンダーの流動化 / 小矢野哲夫 (p.31-42)
1250. 日本の男性運動のあゆみ(1) : <メンズリブ>の誕生 / 大山治彦, 大東貢生 (p.43-55)
1251. 日本人留学生の留学動機に関するジェンダー学的考察 : ロンドン大学大学院生を対象とした事例研究 / 西尾亜希子 (p.57-71)
1252. 学校教育におけるジェンダー問題 / 田結庄順子 (p.73-85)

発達 [22-86] (2001.04)

特集 : 発達のとらえかたの変化と保育

1253. 最近における発達観の変化と保育 : 幼稚園教育要領・保育所保育指針との関連を中心に / 森上史朗 (p.2-8)
1254. 個体能力論的発達観と関係論的発達観 : 関係性という視点から保育をとらえる / 鯨岡峻 (p.17-24)

ファムポリティク=Femme politique [31] (2001.03)

1255. 私はこうして議員になった : それぞれの女性が、それ

ぞれの思いから政治の場に足を踏み入れる そしてあなたも? / 打越紀子[ほか] (p.2-5)

1256. 女性のための政治スクール : くまもと・バックアップ女性会 / 女性と地方自治を考える会 (p.11)
1257. 那覇市長選挙をたたかった女性たち / 甘利てる代 (p.14-16)
1258. 金権選挙からの脱出 / 田中喜美子 (p.17-19)

ファムポリティク=Femme politique [32] (2001.06)

1259. 「新しい歴史教科書」をめぐる混迷 / 田中喜美子 (p.6-8)
1260. 女性のための政治スクール : 東京・生活者ネットワークの政策ゼミ「女性と政治と未来」 / 女性と地方自治を考える会 (p.15)
1261. 女性議員のページ : さとうももよ さん / 山口遼子 (p.18)

フォト [48-5] (2001.03.01)

特集 : 男女共同参画社会

<INTERVIEW「男と女のパートナーシップ」>

1262. 潮谷義子さん : 基本の生命の大切さを認識すること、それは子どもたちから教わった (p.4-5)
1263. 向井万起男さん : 二人とも好きな仕事ができている、だから遠距離別居でも不満ではない (p.6-7)
1264. 松浦真弓さん : フライト・ディレクターは腕力ではなく、判断力とセンスが勝負 (p.8-9)
1265. 佐々木かをりさん : 多くのサンプルに出会うことで、女性の幸せもチャンスも広がる (p.10)
1266. 村瀬春樹さん : 専業主夫で味わった、社会からの孤立感 (p.11)
1267. 神田道子さん : 自分を大切にすることはもちろん、他者も尊重できる女性に (p.12-13)
1268. 坂東眞理子さん(内閣府男女共同参画局長)に聞く : 政府が取り組む21世紀の最重要課題、男女共同参画社会の実現に向けて (p.14-15)

婦人新報 [1205] (2001.02)

特集 : 「神意識」 : ナショナリズムの動きに対して

1269. 「共生」の道にどう近づくか : 岐路の世紀、21世紀の課題 / 田中信尚 (p.2-5)
1270. <報告> 第7回日韓NCC協議会に参加して / 高橋喜久江 (p.20-23)

1271. 子ども買春・ポルノ禁止法施行から1年(1) : 矯風会ポルノ調査 / 宮本潤子 (p.24)

婦人新報 [1206] (2001.03)

特集 : 女性国際戦犯法廷 : 戦時下の暴力を繰り返さないために

1272. 「女性国際戦犯法廷」が開催されるまで / 東海林路得子 (p.2-5)
1273. 「女性国際戦犯法廷」を終えて / 山口明子 (p.6-8)
1274. 「慰安婦」問題の取り組み : 台湾の被害者との出会いと「法廷」の傍聴 / 渡部静子 (p.9-10)
1275. 「法廷」をビデオで学ぶ : 信州部会では / 片山節 (p.13)

1276. 明治時代の『婦人新報』を読んで / 井上ゆり子 (p.16-17)
 1277. 急ごう日朝国交正常化! 12.13のつどい / 麻生和子 (p.21)
 1278. 子ども買春・ポルノ禁止法施行から1年(2): 法執行の状況と2年後の見直しに向けて / 宮本潤子 (p.22)

婦人新報 [1207] (2001.04)

特集: 子ども虐待にひそむアディクション問題

1279. アディクションと児童虐待 / 徳永雅子 (p.2-5)
 1280. 児童虐待: 子どもの虐待防止センターから見えるもの / 広岡智子 (p.6-9)
 1281. かくれた虐待: 依存の周辺で / 上岡ハルエ (p.10-13)
 1282. 「ともに生きる21世紀のセクシュアリティを探る」: 第15回 “人間と性” 理論と実践講座に参加して / 斎藤恵子 (p.16-17)
 1283. 子ども買春 “援助交際” それぞれの状況: 台湾・韓国・日本懇談会 / 宮本潤子 (p.18-19)
 1284. 生かそう憲法、高く掲げよう第9条: 改憲のための調査会に抗して / 山谷新子 (p.20-21)

婦人新報 [1208] (2001.05)

特集: いのち・平和・人権

1285. 人権問題の基本を考える / 永瀬正臣 (p.2-5)
 1286. 生命を脅かす力との闘い: 平和と自由を求めて / 武田俊邦 (p.6-9)
 1287. 「セクシュアリティとは」: 性・人権部部員学習会報告 / 田島恵子 (p.20-21)
 1288. 酒・たばこの害防止部 関連団体紹介(1): 日本禁酒同盟 / 松本成子 (p.24-25)

婦人新報 [1209] (2001.06)

特集: HELPだからみえる人身売買

1289. 急増するコロンビア人の女性の人身売買被害 / 本田和子 (p.2-5)
 1290. タイ人女性の人身売買 / サーティマー (p.6-8)
 1291. HELP利用者統計表(2000年1月~12月31日) (p.9-11)
 1292. 女性の家HELP 2000年度活動状況 (p.12-14)

1293. セックス・ワーク論に反対する: 性・人権部部員学習会報告 / 高橋喜久江 (p.18)

1294. 第2回世界会議に向けた京都シンポジウム開催 / 宮本潤子 (p.20-22)

婦人新報 [1210] (2001.07)

特集: 評議会・全国大会

1295. 2001年度大会資料: 2001年度矯風会活動方針: 21世紀こそ平和を! 未来のいのちのために, p.15-22)
 1296. 回想のなかの会のひと: 平野恒先生99年の人生 / 佐竹順子 (p.24-27)

婦人通信 [509] (2001.02)

1297. 21世紀に輝け: 日本国憲法は女性の“宝” / 杉井静子 (p.3-9)
 1298. 憲法調査会傍聴メモ: 女性参考人&女性議員 / 佐々木順二 (p.10-11)

1299. 埼玉県男女共同参画推進条例の制定にかかわって / 山内かづ子 (p.26-29)

1300. “豊かな” 国の働く女性たち: アメリカ: 5万人女性労働者の調査 / AFL-CIO (p.30-32)

1301. “豊かな” 国の働く女性たち: 香港: すずむ貧困の女性化 / 香港女性労働者協議会 (p.33-35)

1302. 資料: 日本軍性奴隷制を裁く: 2000年女性国際戦犯法廷(認定の概要から) (p.36-37)

1303. 国際婦人デーの歴史: 世界と日本 (p.38-39)

婦人通信 [510] (2001.03)

<40代からの再就職>

1304. 希望退職はしたけれど / 木村広子 (p.4-6)
 1305. 専業主婦に訪れた突然のチャンス / 青木浩子 (p.6-8)
 1306. パート労組を結成して / 高石洵子 (p.8-11)
 1307. ホームレスからヘルパーに: 管鏡男さんに聞く (p.11-13)
 1308. 女性だけ48歳退職勧奨はおかしい! / 小原美佐子 (p.14-15)
 1309. フランス女性事情: 女性の夜業解禁: 低賃金の女性労働者を直撃 / 片岡文子訳 (p.16-19)
 1310. 2001年らいてうへの旅(3): 青春の彷徨: 「自立と性」への問い / 米田佐代子 (p.20-21)
 1311. 文学に描かれた女性像: 島尾敏雄『島の果て』: 島尾ミホ『その夜』 / 瀬野とし (p.42-43)
 1312. 平和あればこそ(7) / 伊藤正子 (p.44-46)

婦人通信 [511] (2001.04)

特集: 榎田ふき追悼特集

1313. 榎田ふきさんを偲ぶ / 小林登美枝 (p.4-5)
 1314. 座談会: 20世紀を生きぬいた榎田ふきさんを語る / 石崎聡子[ほか] (p.14-24)

1315. 絵画にみる女性像(1): ジェンダーの視点で見る美術史入門 / 池田忍 (p.36-37)

1316. 2001年らいてうへの旅(4): 「破船の水夫」: 1911年の『青鞥』 / 米田佐代子 (p.38-39)

1317. 文学に描かれた女性像: ロマン・ロラン『ピエールとリュース』 / 山本千恵 (p.44-45)

婦人通信 [512] (2001.05)

1318. らいてう記録映画がとりもつ縁 / 羽田澄子 (p.2-3)
 1319. 男女共同参画基本計画について / 杉本静子 (p.15-17)
 1320. 2001年らいてうへの旅(5): 論争する『青鞥』: セクシュアル・ライツへの挑戦 / 米田佐代子 (p.24-25)
 1321. フランス女性事情: 企業内での女性・人種差別とのたたかい / 片岡文子訳 (p.32-35)
 1322. 絵画にみる女性像(2): 『源氏物語絵巻・竹河(2)』: ジェンダーの視点で見る美術史入門 / 池田忍 (p.36-37)
 1323. 文学に描かれた女性像: 船山徹『石狩平野』 / 瀬野とし (p.40-41)
 1324. 平和あればこそ(8) / 伊藤正子 (p.42-45)

婦人通信 [513] (2001.06)

1325. 21世紀に輝け9条: 2001年を「女性の憲法年」に (p.4-6)

1326. 女性が住みやすい国ノルウェー / 温井賢子 (p.24-25)
 1327. 2001年らいてうへの旅(6) : 『青鞥』の“略奪” : デモクラシーとジェンダー / 米田佐代子 (p.26-27)
 1328. 歴史のなかの女のからだ(1) : 女のからだを問う意味 / 沢山美果子 (p.28-29)
 1329. 絵画にみる女性像(3) : 『源氏物語絵巻-宿木(二)・横笛』 : ジェンダーの視点で見る美術史入門 / 池田忍 (p.30-31)
 1330. 文学に描かれた女性像 : コレット『夜明け』 / 山本千恵 (p.38-39)
 1331. 男女平等・女性の地位向上のための要望書(2001年4月7日) / 日本婦人団体連合会 (p.41-42)
 1332. 平和あればこそ(9) / 伊藤正子 (p.44-46)

婦人通信 [514] (2001.07)

1333. 2001年らいてうの旅(7) : 母性保護論争 : 「産む性」の国家構想 / 米田佐代子 (p.22-23)
 1334. 絵画にみる女性像 : ジェンダーの視点で見る美術史入門(4) : 『源氏物語画帖・絵合』 / 池田忍 (p.24-25)
 1335. 歴史のなかの女のからだ(2) : 「桃太郎」話の出産風景 / 沢山美果子 (p.26-27)
 1336. 「つくる会」教科書をジェンダーの視点から考える / 角田洋子 (p.28-29)
 1337. 21世紀に輝け9条「女性の憲法年」 : 憲法はがきリーフと輝け9条シール : 100万枚はがき運動 (p.36)
 1338. 文学に描かれた女性像 : 林京子『長い時間をかけた人間の経験』 / 瀬野とし (p.40-41)
 1339. 平和あればこそ(10) / 伊藤正子 (p.42-44)

婦人通信 [515] (2001.08)

特集 : 平和を伝える

1340. ジェンダー、ナショナリズムを越えて / 西野瑠美子 (p.15-17)
 1341. 2001年らいてうへの旅 : 新婦人協会 : 「社会改造」の可能性(8) / 米田佐代子 (p.26-27)
 1342. 絵画にみる女性像 : ジェンダーの視点で見る美術史入門(5) : 「紫式部日記絵巻」 / 池田忍 (p.28-29)
 1343. 歴史の中の女のからだ(3) : 女の身体感覚 / 沢山美果子 (p.30-31)
 1344. 文学に描かれた女性像 : ヴァージニア・ウルフ『灯台へ』 / 山本千恵 (p.40-41)
 1345. 平和あればこそ(11) / 伊藤正子 (p.42-44)

婦人之友 [95-3] (2001.03)

1346. いま日本で : 続「少年法改正」を考える / 中島通子 (p.65-69)
 1347. 時代をひらく人々(12) : 「生まれ方」と8月15日 / 原ひろ子 (p.74-79)

婦人之友 [95-4] (2001.04)

1348. 時代をひらく人々(13) : 言葉と格闘する日々 / 米原万里 (p.76-81)

婦人之友 [95-5] (2001.05)

特集 : 生活読本 : どうして私は忙しい?

1349. + の時間を生み出す「7つの処方箋」(p.10-35)

1350. ふたりで家庭を築いている実感はありますか? / 佐保美恵子 (p.100-105)

婦人之友 [95-6] (2001.05)

1351. 時代を拓く人々(14) : 光に出会うまで / 石井幹子 (p.76-81)
 1352. 体験記 : 高齢出産はハイリスク? : 持病をかかえながら38歳で出産 / 鈴木玲子, 松岡恵 (p.150-153)
 1353. 高齢出産はハイリスク? : 高齢出産もひとつの選択 / 松岡恵 (p.154-155)

婦人之友 [95-7] (2001.06)

特集 : 食がつくる「人間力」

1354. お父さん台所に立つ / 雨宮慎吾, 滝川忠昭, 鈴木福三郎 (p.24-36)
 1355. お父さん台所に立つ : 生きる楽しみとしての男の食卓 / 天野正子 (p.37-39)

1356. 座談会 : 子どもの心を育む住環境を / 早川和男, 仰木ひろみ, 篠原聡子 (p.50-67)

1357. 時代をひらく人々(15) : 桜の下で大学一年生 / 森下郁子 (p.81-86)

1358. 働くお母さんのマンション育児なかま / 谷口比奈 (p.109-113)

婦人之友 [95-8] (2001.07)

1359. 時代をひらく人々(16) : オーエン夫人の贈物 / 安倍圭子 (p.70-75)
 1360. アルバイトで得るものは : 高校生「働く表情」ってどんな顔? : 親として気をつけたいこと : 「本業は高校生」を忘れずに / 耳塚寛明 (p.76-86)

婦人之友 [95-9] (2001.08)

1361. ひと : 一瞬の芸術 : 花火師の天野安喜子さん (p.10-11)
 1362. 時代をひらく人々(17) : 食の原点を求めて / 岸田袈裟 (p.80-86)

別冊ジュリスト [156] (2001.04)

特集 : 国際法判例百選

1363. 先住少数民族の権利 : 二風谷ダム事件 / 今井直 (p.98-99)

母子研究 [21] (2001.03)

1364. 「親になること」の学習と教育 : 保健所の「両親学級」に関する調査を通して / 堀口美智子 (p.1-15)
 1365. 女性にとっての子どもの価値 : 産む産まないの選択 / 谷川賀苗, 柏木恵子 (p.16-27)
 1366. 乳幼児に対する母親の感情と行動 / 繁多進 [ほか] (p.28-36)
 1367. 子育て中の母親にとって「よその親子」はどのような存在か : イヤな子に対する説明の様式から / 菅野幸恵 (p.37-45)
 1368. 母子コミュニケーションにおける母親の代弁 : 1歳児への代弁の状況と発話形態の関連 / 岡本依子 (p.46-55)
 1369. 母親の語りに見られる地域差の検討 / 柿沼美紀 (p.56-61)
 1370. 乳幼児期の保育と愛着理論 : 子どものより良い発達を

- 求めて / 数井みゆき (p.62-79)
1371. きょうだい間の養育態度の差異：小学生の認知 / 丸橋亮子[ほか] (p.80-86)
1372. 中学生の学業達成目標とアタッチメントの関連について：“アタッチメント-探索”の視点 / 松岡陽子, 青柳肇, 斎藤富由起 (p.97-104)
1373. スポーツのモチベーションに及ぼす母親と父親の支援 / 梅崎高行, 青柳肇 (p.105-110)
1374. 自尊心の測定に関する一方法論的検討：ローゼンバーグ尺度のネガティブ項目逆転処理の問題 / 渡邊恵子, 草野いづみ (p.111-118)
1375. トラウマ・セラピーの有効ないくつかの方法について / 堀之内高久 (p.119-123)

母子保健情報 [42] (2000.12)

特集：虐待をめぐって

1376. 児童虐待の認識の歴史と取り組み / 池田由子 (p.4-7)
1377. 家庭内暴力の現状と課題：子ども虐待 / 庄司順一 (p.8-22)
1378. 家庭内暴力の現状と課題：夫・恋人からの暴力 / 戒能民江 (p.23-28)
1379. 家庭内暴力の現状と課題：夫・恋人からの暴力：シェルターの実践 / 福原啓子 (p.29-32)
1380. 家庭内暴力の現状と課題：高齢者虐待 / 荒木乳根子 (p.33-38)
1381. 児童虐待対策の現状と課題、その解決方向について / 才村純 (p.39-45)
1382. 児童虐待と児童相談所 / 川崎二三彦 (p.46-50)
1383. 「児童虐待の防止等に関する法律」の概要と残された問題点 / 平湯真人 (p.51-54)
1384. 「児童虐待の防止等に関する法律」及び関係通知等の概要 / 前橋信和 (p.55-58)
1385. 児童虐待と発生予防 / 松井一郎, 谷村雅子 (p.59-68)
1386. 性的搾取の実態と被害児童への対応 / 北山秋雄 (p.69-73)
1387. 児童虐待と心のケア / 奥山眞紀子 (p.74-81)
1388. 施設内虐待と子どもの権利擁護サービス / 高橋重宏 (p.82-86)
1389. 虐待された子どもたちの自立支援 / 森望 (p.87-90)
1390. 児童養護施設での自立支援に向けてのプレイセラピーの実践 / 森田喜治 (p.91-94)
1391. 地域ネットワーク作りの取り組み / 安部計彦 (p.95-98)
1392. 民間活動の現状と課題：「児童虐待防止協会」の活動：1990年3月に大阪で設立 / 平田佳子 (p.99-103)
1393. 民間活動の現状と課題：「子どもの虐待防止センター」の活動：1991年5月に東京で設立 / 籠野陽子 (p.104-108)
- < 早期発見・早期対応に向けて第一線レポート >
1394. 産科医 / 末岡浩, 吉村泰典 (p.109-112)
1395. 助産婦 / 長谷川喜久美 (p.113-116)
1396. 小児科医 / 小泉武宣 (p.117-121)
1397. 保健婦 / 徳永雅子 (p.122-126)
1398. 児童福祉司 / 赤井兼太[ほか] (p.127-134)
1399. 保育士 / 猪股祥 (p.135-138)
1400. 養護教諭 / 阿部伊織 (p.139-141)

- 立教大学ジェンダーフォーラム年報 [1] (2000.03)
1401. 男女共同参画社会・エンパワーメント・ジェンダー / 近藤弘 (p.3-15)
1402. 韓国の女性運動と女性政策に関する考察：「女性の電話」の女性に対する暴力追放運動を中心に / 佐々木典子 (p.16-28)
1403. CMに描かれる「女」と「男」(ジェンダーフォーラム設立記念プログラム基調講演) / 村松泰子 (p.29-47)
1404. 観光におけるジェンダー / 前田勇, 橋本佳恵 (p.48-50)
1405. 家族をめぐる差別とジェンダー：社会福祉施設利用の非婚出産女性に焦点をあてて / 湯澤直美 (p.51-54)
1406. なぜ女性の司祭が誕生したか？そして今後の課題・・・ / 塚田理 (p.57-59)
1407. ジェンダーフリーって何？：学校教育とジェンダー / 近藤弘, 岸澤初美 (p.60-64)
1408. セクシュアリティの形成と性的発達について：男性形成をめぐって / 浅井春夫 (p.65-68)

歴史評論 [612] (2001.04)

特集：「帝国」・植民地の女性

1409. 総力戦下の朝鮮女性 / 河かおる (p.2-17)
1410. 戦時期の満州における女性生活の構図 / 沈潔 (p.18-33)
1411. 日本統治期台湾の女性と職業：その変遷 / 游鑑明 (p.34-46)
1412. 日本の農村女性の境遇と婦人会：昭和恐慌から戦後へ / 板垣邦子 (p.47-62)
1413. 「白人女性の責務(The White Woman's Burden)」：インド支配とイギリス人女性をめぐる研究動向 / 粟屋利江 (p.63-77)
1414. 東アジアにおける女性史研究の交流と共同：植民地期女性史研究について：若干のメモ / 早川紀代 (p.78-84)
1415. 東アジアにおける女性史研究の交流と共同：日韓「新女性」研究の現況：「日韓ジェンダー史研究シンポジウム」によせて / 井上和枝 (p.84-91)

れんごう [132] (2001.06.28)

1416. 連合「保育ニーズに関する調査」(p.3-260)

労働時報 [54-6] (2001.06)

特集：女性労働者の均等取り扱い・活用状況と今後の課題(3)

1417. 「平成12年働く女性の実情」の概要 (p.13-23)
1418. 平成13年度「均等推進企業表彰」厚生労働大臣努力賞受賞企業 (p.26)
1419. 平成12年度都道府県労働局雇用均等室における相談・個別紛争解決の援助の状況について (p.27-29)
1420. ポジティブ・アクションをはじめましょう！：女性社員の能力発揮のために (p.30-32)
1421. 「新規大卒者の就職活動等実態調査」からみる就職活動と就業意識 (p.33-35)

AGING [19-1] (2001.06)

特集：21世紀・求められる高齢者と女性の社会労働参加

1422. 少子高齢化と働き手 / 高橋重郷 (p.3-6)
1423. 高齢化に関する新しい指標：労働力からみた高齢者扶

養負担 / 辻明子 (p.7-11)

1424. 女性の労働参加 / 渡辺真知子 (p.12-16)
 1425. 国の施策：男女共同参画社会の実現を目指して / 内閣府男女共同参画局 (p.26-31)
 1426. 女性と年金等社会保障制度 / 袖井孝子 (p.32-35)
 1427. 高齢化社会韓国と女性の労働参加 / 金恵媛 (p.42-47)

ESP [348] (2001.04)

特集：女性と経済

1428. 座談会：21世紀経済社会の活性化に女性は貢献できるか / 大沢真理[ほか] (p.6-18)
 1429. インタビュー：もう女性が経済を動かしている / 佐々木かをり (p.20-23)
 1430. 女性の雇用就業は少子化をもたらすか：子どもが持てる社会への舵転換を / 永瀬伸子 (p.24-27)
 1431. 家族の経済環境の変化と女性の運命：外で働かなくてもよい自由の喪失 / 山田昌弘 (p.28-31)
 1432. 女性の活躍を促進する税・社会保障制度 / 沼尾波子 (p.32-36)
 1433. 女性の日常の消費動向：生活協同組合の組合員調査から / 近本聡子 (p.37-42)
 1434. 女性の活躍の場を広げるNPO / 木村香菜 (p.43-46)
 1435. 男女共同参画社会の実現に向けて / 内閣府男女共同参画局 (p.47-51)
 1436. 「家族とライフスタイルに関する研究会」について / 内閣府国民生活局 (p.52)

fct GAZETTE [20-72] (2000.11)

1437. GMMP2000分析結果速報：世界70カ国の参加で、メディアを同時にモニター調査 (p.3-7)
 1438. 郵政省「放送分野における青少年とメディア・リテラシーに関する調査研究会」報告書(2000/6/23)を読む / 西村寿子 (p.8-11)
 1439. Study Guideに明け暮れた1年間、そして研修セミナー / 増田幸子 (p.12-15)
 1440. 国際学術交流会・バリー・ダンカン氏を迎えて：「メディア・リテラシーとポピュラー・カルチャー：学校でメディア・リテラシーをどう学ぶか」 / 篠塚公 (p.16-17)
 1441. ウィーン会議「メディアとデジタル時代のための教育」で採択されたユネスコへの勧告 / 宮崎寿子, 鈴木みどり訳 (p.18-20)

fct GAZETTE [20-73] (2001.03)

1442. 「子ども・若い人たちとメディア・リテラシー：21世紀の展望」：FCT国際シンポジウム2000報告 / セシリア・フォン・フェリツェン[ほか] (p.3-9)
 1443. インターネットサイト「メディア・リテラシーの世界」 / 篠塚公 (p.10-12)
 1444. テレビは高齢者をどのように提示しているのか?：「敬老の日」ニュース報道分析 / 畠山亮太 (p.13-17)
 1445. 子どもが必要としているメディアとは何か? / 栗原とも (p.18-19)
 1446. 「子ども観」「教育観」そして、「テレビ観」の転換を・・・ / 加藤滋紀 (p.20-21)

fct GAZETTE [21-74] (2001.07)

1447. インタビュー：鈴木みどり代表に聞く：第3回「メディアと子ども」世界サミットに参加して：研究者の企画と参加で数々の分科会、共通の問題意識と多様な実践 / 西村寿子 (p.3-6)
 1448. 第3回「メディアと子ども」世界サミットのテーマとプログラム (p.7-9)
 1449. 報告：FCT国際交流フォーラム2001：メディアと子ども：日本とイタリアの対話 / アルベルト・ペライ[ほか] (p.10-17)
 1450. FCTメディア・リテラシー・ファシリテーター研修セミナーの展開(1)：神奈川県「性差別表現等の是正に関する検討会」の発足と展開 / 新開清子 (p.18-19)

Women & work [135] (2001.03)

特集：雇用均等・児童家庭局スタート

1451. 雇用均等・児童家庭局の発足に当たって / 岩田喜美枝 (p.3-4)
 1452. 雇用均等・児童家庭局の発足に当たって思うこと / 水田邦雄 (p.5-6)
 1453. 雇用均等・児童家庭局の各課紹介 (p.7-21)
 1454. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の一部を改正する法律案」について (p.22)
 1455. ファミリー・サポート・センターについて / 厚生労働省雇用均等・児童家庭局職業家庭両立課 (p.23-30)
 1456. 男女共同参画社会の実現をめざして：男女共同参画基本計画の策定 / 内閣府男女共同参画局推進課 (p.31-34)
 1457. 企業から：ジャスコ株式会社の女性の登用、活用について / 渡辺廣之 (p.35-37)
 1458. EUにおける「男女均等法制と女性政策」(最終回)：EUにおける男女平等のための予算措置 / 濱口桂一郎 (p.40-43)
 1459. 施設だより：男女のよりよいパートナーシップの確立を目指して：福島県男女共生センター「女と男の未来館」：「女と男の未来館」三つの機能 (p.44-45)
 1460. 高知県労働局雇用均等室発：婦人参政権発祥の地から：データからみた高知の女性たち / 西笛早智子 (p.46-47)

Women & work [136] (2001.06)

特集：男女雇用機会均等月間

1461. 平成13年度『均等推進企業表彰』厚生労働大臣努力賞受賞企業 (p.4-5)
 1462. 平成12年度都道府県労働局雇用均等室における相談・個別紛争解決の援助の状況について (p.6-11)
 1463. ポジティブ・アクションをはじめましょう!：女性社員の能力発揮のために (p.12-14)
 1464. 「新規大卒者の就職活動等実態調査」からみる就職活動と就業意識 (p.15-18)
 1465. 管理職に占める女性割合は横ばい状況：コース別雇用管理制度導入割合は、大企業で初めて低下：「平成12年度女性雇用管理基本調査」結果概要：改正均等法施行後1年余経過後の女性雇用管理の状況 / 厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課 (p.19-22)
 1466. 在宅ワーカー支援スキームの提唱：在宅ワーカー支援

事業検討委員会報告書 / 厚生労働省雇用均等・児童家庭局短時間・在宅労働課 (p.23-24)

1467. 「平成12年版女性労働白書：働く女性の実情」の概要 / 厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課 (p.33-42)

1468. 企業から：株式会社阪急百貨店の『ファミリー・フレンドリー企業』への取組 / 小山弘恭 (p.43-45)

1469. 多様性に富んだ、千葉 / 千葉労働局雇用均等室 (p.46-47)

Women's studies研究報告 [19] (1999.03)

1470. 中高年齢女性の身体的自立におよぼす加齢と身体活動の影響：骨密度と下肢筋力を中心に / 楠原慶子, 岩岡研典 (p.1-60)

テーマ展示図書案内

女性教育情報センターでは、「ヌエック新たなる飛翔 男女共同参画社会の形成をめざした「学び」と「活動」」を平成13年度の総合テーマとして、会館が所蔵している資料の紹介と、女性問題に対する課題解決に資するためにテーマ展示を実施しています。今回は2001年4月～2001年9月の資料リストをご紹介します。

4～9月

- テーマ
「学校におけるジェンダー・フリー」
- ねらい
学校教育の現場で、男女混合名簿の採用を初めジェンダー・フリーの視点を入れた取り組みがどのように行われているか、また今後の課題について考えました。

1～3月

- テーマ
「新しい働き方の創造」
- ねらい
働き方の形態は多様化しており、雇用労働にとどまらず起業家として活躍する女性たちも目立つようになりました。働くことが社会で家庭で、あるいは自分にとってどんな意味を持つのか考えました。

なお、

- 10～12月 ● テーマ「いまボランティア活動がめざすもの」
2002年1～3月 ● テーマ「ひとりで生きるということ」を予定しています。

凡 例

No. 書名：副書名 / 編著者
出版社（出版年）請求記号

「学校におけるジェンダー・フリー」
(平成13年4月～6月)

1. アリーテ姫の冒険 / ダイアナ・コールス作；ロス・アクスイス絵，学陽書房（1989）909.3/A72
2. 生きるってすてき（ジェンダー・フリーの絵本2） / 村瀬幸浩文；高橋由為子絵
大月書店（2001）375/J36
3. 男の子は泣かない：学校でつくられる男らしさとジェンダー差別解消プログラム / スー・アスキュー，キャロル・ロス著；堀内かおる訳
金子書房（1997）375/O86
4. 男らしさ・女らしさ（モノグラフ・高校生50） / ベネッセ教育研究所
ベネッセコーポレーション（1997）376.4/O86
5. 思いっきり、マイウェイ（がんばれ女の子シリーズ3）
魔女っ子くらぶ作，遥書房（1993）367.2/O63
6. 「女男らしく」ってきゅうくつじゃない？：弁護士の視点から見たジェンダー・フリー教育サブテキスト / 日本弁護士連合会両性の平等に関する委員会
日本弁護士連合会両性の平等に関する委員会（2000）
7. “女だから”のふしぎ（がんばれ女の子シリーズ1） / 魔女っ子くらぶ作，遥書房（1991）367.2/O66
8. 女と男 これまで、これから（ジェンダー・フリーの絵本4） / 中島みさき文；もりお勇絵
大月書店（2001）375/J36
9. 「女」と「男」：ジェンダーで解きあかす現代社会 / 北海道教育大学公開講座委員会編
北海道大学図書刊行会（1997）367.2/O66
10. 女と男のよい関係 / 上越教育大学異生活交流セミナー実行委員会
異生活交流セミナー実行委員会[編]（1998）367.2/O66
11. 「女の子」は学校でつくられる / マイラ&デイヴィッド・サドガー著
時事通信社（1996）367.2/O66
12. 学校教育とジェンダー形成に関する研究：平成10年度教育研究学内特別経費報告書 / お茶の水女子大学附属学校連携教育研究学校教育研究学校教育とジェンダー形成研究会
お茶の水女子大学附属学校連携教育研究学校教育研究学校教育とジェンダー形成研究会（1999）375/G16
13. 学校のなかの“女の子”“男の子”を考える / 「ジェンダーと教育」セミナー実行委員会
「ジェンダーと教育」セミナー実行委員会（1999）375/G16
14. 学校のなかの“女の子”“男の子”に関する調査報告：愛知県の小学校教師調査を通して / 「ジェンダーと教育」セミナー実行委員会小学校教師調査グループ[編]
「ジェンダーと教育」セミナー実行委員会小学校教師調査グループ（1999）375/G16
15. 学校文化とジェンダー / 木村涼子著
勁草書房（1999）371.3/G16
16. 学校をジェンダー・フリーに / 亀田温子，館かおる編著，明石書店（2000）375/G16
17. 家庭科、男も女も！：こうして拓いた共修への道 / 家庭科の男女共修をすすめる会編
ドメス出版（1997）375.5/Ka85
18. 教育・学習と男女平等（東京女性白書；'97） / 東京都生活文化局女性青少年部女性計画課編
東京都生活文化局女性青少年部女性計画課（1997）367/36
19. 教育現場における男女平等アンケート結果集計表 / 日弁連女性の権利に関する委員会[編]
日弁連女性の権利に関する委員会（1990）367.2/Ky4
20. 教育におけるジェンダー：特集（教育社会学研究第61集） / 日本教育社会学会編
東洋館出版社（1997）371.3/Ky4
21. 教育におけるジェンダーの視点：愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所開所記念シンポジウム報告 / ジェンダー・女性学研究所運営委員会編
愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所（1996）372/Ky4
22. 教科書の中の男女差別 / 伊藤良徳[ほか]著
明石書店（1991）375.9/Ky4
23. GENDER FREE：若い世代の教師のために：あなたのクラスはジェンダー・フリー？ / 東京女性財団
東京女性財団（1995）375/36
24. こんなのへんかな？（ジェンダー・フリーの絵本1） / 村瀬幸浩文；高橋由為子絵
大月書店（2001）375/J36
25. さよならボーイファースト：男女別出席簿を考える（男女平等教育を考えるシリーズ4） / 行動する女たちの会・教育分科会編
行動する女たちの会・教育分科会（1990）374/Sa99
26. じゅんだあ・ふりいBOX：男女共生への第一歩を踏み出すための教材集 / 大阪府同和教育研究協議会「男女共生教育」プロジェクト編
大阪府同和教育研究協議会（1998）375/J36
27. ジェンダー・エクィティを拓く家庭科 / 斉藤弘子[ほか]著，かもがわ出版（2000）375.5/J36
28. ジェンダー・女性学セミナー： - 青年男女の共同参画をめざすために - 報告書 / ジェンダー・女性学セミナー事務局編
愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所（1997）367.2/J36
29. ジェンダーチェック：男女平等への指針：学校生活(小学生編，中学・高校生編，教師編，大人編) / 東京女性財団，東京女性財団（1997）375/36
30. ジェンダーと教育 / 藤田英典[ほか]編
世織書房（1999）370.4/J36
31. ジェンダーとセクシュアリティ：<性>と<生>を考える：ワークブック / 石元清英ほか著
嵯峨野書院（1996）367.9/J36
32. ジェンダーの視点から教育改革を考える / 鶴田敦子，丸岡玲子編著
フォーラム・A（1999）375/J36
33. ジェンダーの神話から新話へ / 若者とジェンダーを考える会
「若者とジェンダーを考える会」実行委員会（1997）367/J36
34. ジェンダー・バイアス（モノグラフ・小学生ナウ vol.16-1） / ベネッセ教育研究所
ベネッセコーポレーション（1996）376.2/J36

35. ジェンダー・フリーな教育のために：女性問題研修プログラム開発報告書 [I], II / 東京女性財団
東京女性財団 (1995-) 375/36
36. 実践 ジェンダー・フリー教育：フェミニズムを学校に / 小川真知子, 森洋子編著
明石書店 (1998) 375/J54
37. 自分らしくあなたらしく：男女平等教育ガイドブック / 男女平等教育ガイドブック作成委員会編
北海道環境生活部女性室 (2001) 375/11
38. 生涯にわたる男女平等教育の在り方に関する調査研究 (中間報告書) / 男女平等教育研究会
男女平等教育研究会 (1998) 375/Sh95
39. 女性問題講座プログラム研究会報告書女性問題講座プログラム研究会報告書 (アマカスブックレットシリーズ; no.10) / 福岡市女性協会編
福岡市女性協会 (2001) 367.2/91-Fu
40. 知ればなるほどじょんだーものがたり：社会教育指導者のための基礎知識 / 日本女子社会教育会
日本女子協会教育会 (1998) 379/Sh87
41. 「数学とジェンダー」講演集3及びIOWMEの動向 (数学教育におけるジェンダーの視座に基づいたカリキュラムの開発; 4) / 瀬沼花子, 瀬沼花子 (2000) 375/Su23
42. 性差意識の形成環境に関する研究：性差に関連する文化の形成および教育効果に関わって / 東京女性財団
東京女性財団 (1996) 367.2/36
43. 性差別をなくそう 学校をジェンダーフリーに / 子どもの食事を考える会, あおやま文庫 (1999) 375/Se19
44. 「生と性」・「ジェンダー」教育実践資料集 / 椋山女学園中学校・高等学校女子教育検討委員会編
椋山女学園中学校・高等学校 (1999) 375/Se19
45. 青年男女の共同参画セミナー：提言及び事例 / 文部省生涯学習局婦人教育課
文部省生涯学習局婦人教育課 (1997-) 367/Se19
46. 性の人権教育論：21世紀を拓くアクティビティ / 山本直英著, 明石書店 (1998) 367.9/Se19
47. セクシュアリティと性教育 / 池谷壽夫著
青木書店 (1993) 367.9/Se45
48. 大学生・親・小中学校教員のジェンダー意識調査 / 「ジェンダーと教育」セミナー実行委員会ジェンダー意識調査班
「ジェンダーと教育」セミナー実行委員会ジェンダー意識調査班 (1999) 375/D16
49. 大学生の男女共同参画社会に関する意識調査報告書：(男女共同参画社会づくりと学校教育) / 「男女共同参画社会づくりと学校教育」実行委員会
「男女共同参画社会づくりと学校教育」実行委員会 (1997) 367.2/D16
50. 男女共同参画社会づくりと学校教育：望ましいパートナーシップの形成をめざして / 池谷壽夫著
男女共同参画社会づくりと学校教育実行委員会 (1997) 367.2/D37
51. 男女共同参画社会と教育 / 池木清著
北樹出版 (2000) 370/D37
52. 「男女混合名簿」のとりくみについての調査報告 / 日教組, 日教組 (1994-) 374/D37
53. 男女平等教育指導資料集 / 埼玉県教育委員会 [埼玉県教育委員会] (2000) 375/34
54. 男女平等教育に関する学習ガイドブック：ジェンダーフリーな教育環境づくりのために / 男女平等教育研究会, 男女平等教育研究会 (1999) 375/D37
55. 男女平等の本：ノルウェー・ジェンダーフリー教育用テキスト / インゲル・ヨハンネ・アルネセン, アルド・ランボー著
男女平等の本を出版する会 (1998) 375/D37
56. 男女平等教育副読本の手引：教職員用 / 宮城県柴田町企画調整課女性政策係編, 柴田町 (2000) 375/23
57. どうして、いつも男が先なの？：男女混合名簿の試み / 男女平等教育をすすめる会編
新評論 (1997) 370/D89
58. 働くってたのしい (ジェンダー・フリーの絵本3) / 朴木佳緒留文; もりお勇絵, 大月書店 (2001) 375/J36
59. 両性の平等と学校教育：ジェンダーという視点からの授業づくり / 橋本紀子 [ほか] 編
東研出版 (1999) 375/R97
60. A perspective from post-secondary education / Catherine Marshall, Falmer Press (1997) 367.4/P41
61. A perspective from primary and secondary schooling / Catherine Marshall
Falmer Press (1997) 367.3/P41
62. Gender and equality as quality in school and teacher education : the final report from 3-year Nordic project on gender and equal opportunities in teacher education / Anne-Lise Arnesen
Oslo College, School of Education (1995) 367.1/P/N523
63. Gender, science and mathematics : shortening the shadow / Lesley H.Parker, Leonie J. Rennie, and Barry J. Fraser
Kluwer Academic Publishers (1996) 407/G34

<雑誌特集号>

1. 女たちの21世紀 (No.22) : 教育とジェンダー / アジア女性センター (2000.4)
2. 子どもプラス (Vol.5) : 女の子・男の子 / 雲母書房 (2000.1)
3. 女性学 (Vol.6) : 教育の場からジェンダーを問う / 日本女性学会 (1998.11)
4. 性と生の教育 (Vol.25) : ジェンダーフリー教育のすすめ / あゆみ出版 (1999.11)

「新しい働き方の創造」
(平成13年7月～9月)

1. アジアの女性起業家
アジア女性交流・研究フォーラム(2000) 335/91-Ki
2. あなたの天職はきっとみつかる / 天職ツカミ隊編著
宝塚出版(2000) 366.2/A46
3. インターネットSOHO入門 / 岡崎桂子著
NECクリエイティブ(1998) 007/I57
4. お金をかけない起業法: ひろう・もらう・つくる / 奥谷京子著
アドア出版(2001) 335/O44
5. オフィスはわが家! 仕事も家庭もフリーで両立 / WANA
出版プロジェクト著
WANA事務局(1999) 336.4/O19
6. 女の起業が世界をかえる / 国際交流基金編
啓文社(1998) 335/O66
7. 女たちの自分育て: 輝きを増す生き方・働き方 / 広岡
守穂著
講談社(1998) 335/O66
8. 「会社起こし」勝利の手の内 / 沖幸子著
小学館(1999) 335/Ka21
9. 会社は女性社長のほうが伸びる / 三浦あかね著
エール出版社(1999) 335/Ka21
10. 彼女はなぜ成功したのか: 転職、再就職、起業: 少し
の勇気と努力で未来は拓ける! / 古庄弘枝著
はまの出版(2000) 366.2/Ka58
11. がんばってなにがワルイ!!: 勝負したオンナに福来たる
 / がんばるウーマン応援委員会編
エージー出版(1999) 366.3/G19
12. 基礎から学ぶ女性のための起業マニュアル(平成11
年) / 労働省女性局編
女性労働協会(1999) 335/Ki59
13. 現代マネジメントの基本: 女性のための経営学 / 広島
安芸女子大学経営学部編
泉文堂(2000) 336/G34
14. 雇用改革の時代: 働き方はどう変わるか / 八代尚宏著
中央公論新社(1999) 366.1/Ko97
15. 在宅の仕事 / 久保田説子著
朱鷺書房(1999) 366.2/Z1
16. 在宅ワーク解体新書 / 神谷隆之著
日本労働研究機構(1999) 336.4/Z1
17. 「在宅ワーク」で暮らしたい / 田上睦美監修
光文社(1999) 336.4/Z1
18. 在宅ワークハンドブック / 21世紀職業財団編, 厚生労
働省雇用均等・児童家庭局監修
21世紀職業財団(2001) 336.4/Z1
19. 参加型福祉社会を拓く: 介護保険時代, 市民はどこまで
主役になれるか / 「参加型福祉社会を拓く」出版プロ
ジェクト編著
風土社(2000) 369.2/Sa65
20. 仕事と職場を協同で創ろう: ワーカーズ・コープとシ
ニア・コープ / 石見尚編著
社会評論社(2000) 365.9/Sh29
21. 主婦からプロへ: 夢を実現した女性たちの記録 / 青木
みか, 高橋ますみ編
風媒社(2001) 281/Sh99
22. 主婦のためのいきいきワーク発見ガイド: 家を拠点に
好きなコトでシゴトする!
イカロス出版(1998) 366/Sh99
23. 「食」業おこし奮闘記: 開店・加工所づくりから会社
設立まで / 藤森文江著
農山漁村文化協会(1999) 619/Sh96
24. 女性起業の拡大とネットワーク化に関する研究(調査
研究報告書; 平成10年度) / 福岡県女性財団編
福岡県女性財団(1999) 366/91
25. 女性の起業が成功する秘訣: 「私らしさ」を形にする
ために / 佐藤史郎著
三修社(2001) 335/J76
26. 女性の起業・女性企業実態調査第1回プロジェクト報告
書: 経済構造・経済政策に女性がアクセスするた
めに / 女性企業実態調査プロジェクトチーム[編]
女性企業実態調査プロジェクトチーム(1998) 335/J76
27. 女性の起業に関する実態調査結果報告書 / あいち女性
総合センター
あいち女性総合センター(1998) 335/55
28. 女性の仕事おこし、まちづくり: 男女共同参画社会へ
のエンパワーメント / 上野勝代[ほか]著
学芸出版社(2000) 318/J76
29. 女性の就業と在宅ワークに関するアンケート2000報告
書 / NTTデータ開発本部システム科学研究所編
NTTデータ開発本部システム科学研究所(2000)
336.4/J76

30. 女性の就業に対するテレワークの可能性 : 東京近郊における女性の新たな就業形態に関する調査 / 国土庁大都市圏整備局編
大蔵省印刷局 (1998) 366.3/J76
31. 女性の起業を通し、経済構造へのアクセスの可能性を探る「女性企業実態調査」
多摩プログレスクラブ (2000) 335/J76
32. 女性のキャリアデザイン : 働き方・生き方の選択 / 青島祐子著
学文社 (2001) 366/J76
33. 女性のための起業・独立ガイド : 会社設立、SOHO、ワーカーズ・コレクティブ、NPO、...新しい働き方を創造するための基礎知識+実践マニュアル / 石渡秋著
実務教育出版 (1998) 335/J76
34. 女性の働き方ガイドブック : 変わる社会・変わる女性 / 大石友子著
経済産業調査会 (2001) 366/J76
35. 成功する農村女性起業 : 仕事・地域・自分づくり / 岩崎由美子, 宮城道子編
家の光協会 (2001) 611/Se17
36. SOHOは営業が命 / 笠松ゆみ著
東洋経済新報社 (1999) 336/So29
37. 男女共同参画と女性労働 : 新しい働き方の実現をめざして / 赤岡功 [ほか] 著
ミネルヴァ書房 (2000) 366.3/D37
38. チャイルドケアの仕事 : これであなとも起業家 / 東潔, 山内英子著
同朋舎 (2000) 369.4/C31
39. 独立自営の女たち / くにともこ編著
編書房 (1999) 366.3/D83
40. なりたい私になるために : 5人の女性が語る仕事と生き方 / 小原由紀子 [ほか] 著
経済法令研究会 (1999) 366.3/N52
41. 21世紀経済と中小企業・女性事業家 : アメリカを中心として / 水津雄三著
森山書店 (2000) 335/N73
42. 入門職業とジェンダー : これからの女と男の働き方 / 岡村清子, 亀田温子編
日本評論社 (1998) 366/N99
43. ネットワークビジネス 女性の出番 / ナンシー・フェイラ著, 形山淳一郎訳
四海書房 (2000) 335/N66
44. 農村女性による起業と法人化 / 岡部守編著
筑波書房 (2000) 611/N97
45. 働き方を変えて、暮らし方を変えよう : 新しい社会と個人のために / 大沢真知子, 石井久子, 永瀬伸子著
東京女性財団 (2000) 366.3/36
46. 働きたい主婦この指とまれ! / 石井美鈴著
悠飛社 (1999) 336.4/H42

新着図書案内

当会館女性教育情報センターに2001年3～8月までに受贈された資料の中から、一般には入手しにくく、女性問題学習に参考になると思われる資料をご紹介します。

1. 「新しいライフスタイルについての県民の意識と実態に関する調査研究報告書」兵庫県長寿社会研究機構家庭問題研究所(2001.3)
2. 「意思決定の場への参画(「ムーブ」ジェンダーに関する作品集 III)」北九州市立女性センタームーブ(2001.7)
3. 「医療の場での女性の傷つきの経験調査報告書」ヒューマンサービスセンター(2001.3)
4. 「Women & Men in JAPAN: 日本のジェンダー統計(両性の平等と教育パンフレット No.4)」民主教育研究所(2001.6)
5. 「演劇ワークショップ実施報告集 平成12年度」京都府宇治市企画管理部女性政策室(2001.3)
6. 「怒っていいの!? : 怒りと上手につき合う方法(スキル)(ブックレットシリーズ女性のミニ読本 1)」日本ルーテル・アワー(2001.7)
7. 「夫から妻への暴力についての調査研究報告書」兵庫県長寿社会研究機構家庭問題研究所(2001.3)
8. 「お父さんのためのパワーアップ情報: 子どもとお父さん101人アンケート」ミズプランニング(2001.3)
9. 「親子週末探偵団報告書(からざレポート: くもんファミリー調査 2000vol.5)」くもん子ども研究所(2001)
10. 「親子のためのジェンダー・フリー学習」香川県教育委員会(2001.3)
11. 「介護保険はヘルパーの働き方をどう変えたのか: 介護サービスの質を保障するためにヘルパーの働きを探る」高齢社会をよくする北九州女性の会(2001.6)
12. 「改正男女雇用機会均等法施行後の企業の現状についての調査報告書」千葉市文化振興財団, 千葉市女性センター(2001.3)
13. 「家計における教育費負担の実態調査結果について 平成12年度」国民生活金融公庫総合研究所(2000.11)
14. 「家庭におけるパートナーシップと児童の健全育成に関する調査」松山市男女共同参画推進財団(2001.3)
15. 「かわさきジェンダー指標に関する報告書」川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)(2001.3)
16. 「行政職員のための男女共生社会づくり推進の手引」和歌山県環境生活部共生推進局男女共生社会推進課(2001.4)
17. 「均等待遇2000年キャンペーン活動報告: 間接差別をなくし、同一価値労働同一賃金を実現す」均等待遇2000年キャンペーン実行委員会(2001.3)
18. 「講演録「ケアとジェンダー」」ヒューマンサービスセンター(2001.3)
19. 「高等教育機関の消費者教育: 全国大学シラバス調査」消費者教育支援センター(2001.3)
20. 「子育て支援の環境づくりに関する総合的調査研究事業調査研究報告書」私立幼稚園経営者懇談会(2001.3)
21. 「子育て中の女性の意識と学習支援のあり方に関する調査報告書」東京都教育庁生涯学習部振興計画課(2001.3)
22. 「子育てに関する意識調査事業調査報告書 平成12年度」こども未来財団(2001.3)
23. 「国会議員のための人口ファイル: 地球規模の人口問題の解決に向けて: 市民社会の代表としてできること」ジョイセフ(家族計画国際協力財団)(2001.5)
24. 「子どもが生まれて夫婦関係が変わりましたか: 100人のお母さんに聞きました(エンゼル110番レポート Vol.32)」森永乳業(2001.6)
25. 「埼玉NPOつながリスト」埼玉県(2001.3)
26. 「サルカニ・バイオレンス」奥山和弘(2001.4)
27. 「ジェンダーの視点で読む読書感想文コンクール: 2000年度作品集」北九州市立女性センタームーブ(2001.6)
28. 「ジェンダーフリーな表現をめざして」和歌山県環境生活部共生推進局男女共生社会推進課(2001.4)
29. 「仕事と子育ての両立支援策について」男女共同参画会議仕事と子育ての両立支援に関する専門調査会(2001.6)
30. 「時代をひらく: 横浜女性フォーラム市民活動・研究助成事業報告書」横浜市女性協会, 横浜女性フォーラム(2001.3)
31. 「児童相談所における児童虐待相談等の状況報告」[厚生労働省]雇用均等・児童家庭局総務課(2001.6)
32. 「死別の悲しみの癒しかた: 悲しみを癒すための本人と家族の処方箋」ウイドウ・サポート協会(2001.5)
33. 「市民とともに創る生涯学習: 大阪市研究女性学級からみつめる」大阪市教育委員会生涯学習課(2001.3)
34. 「市民のエンパワーメントをめざして: 地方自治体の女性政策推進のための調査・研究」女性政策を考える市民の会・新潟(2001.6)
35. 「小学生の親子関係: 母親調査から(モノグラフ・小学生ナウ Vol.21 1)」ベネッセ教育研究所(2001.6)
36. 「情報・相談事業に関する調査: 女性関連施設に関する総合調査」全国女性会館協議会(2001.3)
37. 「諸外国における育児・介護休業制度: ドイツ・フランス・スウェーデン」日本労働研究機構(2000.7)
38. 「女性への暴力の実態および子どもへの影響: 委託調査報告書」女性のためのアジア平和国民基金(2001.3)
39. 「女性が見た政治: 世界の女性議員が語る(議会制度研究資料 第37号)」参議院事務局(2001.7)

40. 「女性国家公務員の採用・登用の拡大に関する意識調査の結果概要」人事院人材局企画課(2001.5)
41. 「女性と司法：国際専門家会議報告書」女性のためのアジア平和国民基金(2001.3)
42. 「女性2000年会議記念シンポジウムin九州・山口・沖縄：男女共同参画の21世紀を目指して：報告書」女性2000年会議記念シンポジウムin九州・山口・沖縄実行委員会(2000)
43. 「女性のエンパワーメント：男女共同参画社会の確立をめざして：その3」大学婦人協会(2001.3)
44. 「女性のエンパワーメントのための男女共同参画学習促進事業委嘱事業の概要 平成12年度」文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課(2001)
45. 「青少年へのテレビメディアの影響調査第一次基礎調査概要」放送と青少年に関する委員会(2001.7)
46. 「性的虐待から子どもを守る 1～3」テナー・ネットワーク(2001.3)
47. 「性的虐待の被害者についての調査研究：女性が受けた性的被害：大阪コミュニティ調査から」女性のトラウマを考える会(2001.3)
48. 「世界ハビタット・デー2000福岡報告書：women in urban governance：まちづくりと女性の参画」世界ハビタット・デー2000福岡実行委員会(2000.12)
49. 「全国家庭児童調査結果の概要(平成11年12月1日調査)平成11年度」厚生労働省雇用均等・児童家庭局(2001.5)
50. 「全国厚生労働関係部局長会議(厚生分科会)資料」厚生労働省雇用均等・児童家庭局(2001.1)
51. 「第16回男女雇用機会均等月間について：DO!ポジティブ・アクション-男女均等な職場をめざして-」厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課(2001.5)
52. 「大都市一般人口における児童虐待の疫学調査報告書」子どもの虐待防止センター(2001.3)
53. 「多様化するパートタイマーと社会制度(パートタイマー白書 平成13年版)」アイデム人と仕事研究所(2001.3)
54. 「男女共同参画社会における男の立場(青年男女の共同参画セミナー報告書：文部省委嘱事業 平成12年度)」ジェンダー・セミナーの会」実行委員会(2001.3)
55. 「男女共同参画促進に関する第二次中期的行動課題：男女共同参画小委員会答申」日本生活協同組合連合会政策企画部(2001.5)
56. 「男女共同参画に関する研究会」報告書：経済主体・経済活動の多様化と活性化を目指して」経済産業省男女共同参画に関する研究会(2001.6)
57. 「男女混合名簿」のとりくみについて」日教組女性部(2001.3)
58. 「男女平等・開発・平和の21世紀に：女性問題重要資料集」新日本婦人の会(2001.4)
59. 「男性学から見たジェンダーと暴力講演記録」暴力防止情報スペース・APIS(2001.3)
60. 「男性の家庭参画に関する調査研究報告書：女性の意識調査をもとに」兵庫県長寿社会研究機構家庭問題研究所(2001.3)
61. 「地方自治体における女性管理監督者に関する研究」自治研協地方自治研究資料センター(1999.3)
62. 「懲戒処分への指針へのセクシュアル・ハラスメントに関する標準例の追加について」人事院総務局(2001.7)
63. 「DV(夫・恋人からの暴力)を考えるinたからづか」男女共同参画推進グループ「しーご」(2001)
64. 「特定テーマ評価調査(南西アジアWID/ジェンダー)報告書 平成11年度」国際協力事業団企画・評価部(2000.12)
65. 「ドメスティック・バイオレンス援助アセスメント試論：委託調査報告書」女性のためのアジア平和国民基金(2001.3)
66. 「ドメスティック・バイオレンスを根絶するためには：専門家会議報告書」女性のためのアジア平和国民基金(2000.12)
67. 「ドメスティックバイオレンス加害者のための教育プログラム」女性のためのアジア平和国民基金(2001.3)
68. 「ドメスティック・バイオレンス：家庭内における女性と子どもへの影響」女性のためのアジア平和国民基金(2001.3)
69. 「ドメスティック・バイオレンスや性暴力における援助のあり方：研究会報告1～3」女性のためのアジア平和国民基金(2001.3)
70. 「名古屋大学における男女共同参画を推進するための提言」名古屋大学男女共同参画に関するワーキンググループ(2001.2)
71. 「21世紀の男の生き方：男性の視点からの男女共同参画社会：男性生活講座 平成12年度(サンフォルテブック2)」富山県女性財団(2001.3)
72. 「20代・30代独身サラリーマンの恋愛・結婚意識調査(ことぶき科学情報 Vol.33)」オーエムエムジーマーケティング本部広報部(2001)
73. 「日本WID基金 途上国女性支援のためのUNDPと日本のパートナーシップ」UNDP(2000.6)
74. 「ネットをつなぐ男女(ひと)とまち：山口(女性のエンパワーメントのための男女共同参画学習促進事業報告書：文部省委嘱事業 平成12年度)」ネットをつなぐ男女とまち実行委員会(2001.3)
75. 「農村女性に見るお国柄の違い：「農村女性に関する国際比較調査」から」家の光協会(2001.3)
76. 「農林水産業・農山漁村における少子化対策推進ビジョン」農産園芸局婦人・生活課(2000.12)
77. 「配偶者等による暴力の被害女性と子どもへの支援に関する調査」報告書」東京女性財団(2001.3)
78. 「働く女性が拓く未来：相談事例集 1(女性と仕事の未来館報告書 No. 3)」女性と仕事の未来館(2001.3)
79. 「働く女性と暮らしの調査：働く女性が感じる不安と価値観」日本ヒープ協議会(2001.3)
80. 「発展途上国の女子教育と社会経済開発に関する総合的研究：研究成果報告書」佐藤尚子(2001.3)

81. 「兵庫発女の伝言板パート2：女性のためのお助け情報 2000件：自分らしい暮らし・生き方応援します」ウィメンズネット・こうべ(2001.3)
82. 「フィルムが紡ぐ女たち：ビデオに観るフェミニズム」シネマとフェミニズム研究会(2001.3)
83. 「福岡国際ジェンダー研究会活動報告書1996.07.08～2001.04.28」福岡国際ジェンダー研究会(2001.8)
84. 「福祉・生き方・ジェンダー多様な価値観への気づき」ヒューマンサービスセンター(2001.3)
85. 「婦人神戸：婦人神戸900号発刊記念 縮刷版」神戸市婦人団体協議会(2001.2)
86. 「「復興を支える女性たち：UNDP・日本パートナーシップ」東京・2000年：報告書」国連開発計画ニューヨーク本部開発政策局(2000.12)
87. 「史の会研究誌 第4号 女たちの物語を再生する」江刺昭子(2001.2)
88. 「ふりーせる保育に関する調査研究報告書」松戸市健康福祉本部児童家庭担当部保育課(2001.3)
89. 「保育所入所待機児童数の多い市区からのヒアリング結果について」厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課(2001.5)
90. 「未来を拓く：労働省女性行政半世紀のあゆみ」女性労働協会女性と仕事の未来館(2000.12)
91. 「みんな子どもだった：大人は子どもになれなくても、子どもは大人になれるんだ」ティーンズポスト(2001.3)
92. 「ワークシェアリングに関する調査研究報告書」三井情報開発株式会社総合研究所(2001.4)
93. 「ワークスタイルの多様化と生活設計に関する調査」生命保険文化センター(2001.4)
94. 「ワシントンD.C.ドメスティック・バイオレンス法廷調査研究報告書」国内人権システム国際比較プロジェクト(NMP) (2000.12)



編集後記

例年以上といわれた今夏の暑さもようやく峠を過ぎ、朝晩の涼しさに秋の訪れを感じまるようになりました。

今号の巻頭言では、女子栄養大教授の橋本紀子氏に「ジェンダー・フリーなセンスと学校教育」と言う表題で執筆していただきました。教育に携わる立場から、子どもたちが小さな時からジェンダーフリーな考え方を身につけていくことが、平等社会実現にとって重要なことである、ということを述べられています。

会館事業情報には、男女共同参画週間が設置されたことに伴って開催された「男女共同参画記念公開講演会」の様子、5月31日にホームページ上に立ち上げた「TICTTサイト」を紹介しております。ぜひご利用下さい。

海外女性情報では、國學院大學教授の田中和子氏にIIAV（国際女性運動アーカイブ情報センター）の様子を執筆していただきました。ヨーロッパ最大の女性情報センターであるIIAVのスタッフの様子や、収集している資料について、実際に訪問された方ならではの貴重な報告をいただいています。

第7号でもお知らせしましたように、4月1日より「独立行政法人国立女性教育会館」が発足いたしました。WINET情報では、今まで以上に充実した情報をお届けしたいと思っておりますので、御支援、御協力くださいますようお願いいたします。

(H.T)

WINET情報 No.8

発行日 平成13年9月30日

編集・発行 独立行政法人 国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728番地

電話 0493(62)6711(大代表)

ホームページ URL <http://www.nwec.go.jp>

E-mail webmaster@nwec.go.jp

印刷 株式会社青松社

電話 03(3479)7111(大代表)

